

学 習 要 項

令和4年度
(58回生)



日本大学医学部附属看護専門学校

目 次

本学の理念，教育目的，教育目標，教育課程	1
履修概要	7
カリキュラム概要	8
履修系統図	9
教育課程・授業時間・単位数・進度表	10
学年目標	12
<u>基 礎 分 野</u>	13
論理的思考演習	15
自然科学	17
情報科学	19
生命と倫理	21
文学	23
社会学	25
心理学	27
人間関係論	29
コミュニケーション論	31
英語	33
医用英語	35
教育学	37
健康とスポーツ	39
家族と生活	41
<u>専門基礎分野</u>	43
解剖学Ⅰ	45
解剖学Ⅱ	47
生理学Ⅰ	49
生理学Ⅱ	51
生化学	53
栄養学	56
生活と形態機能	58
薬理学	60
病理学	62

検査・治療論	64
病態生理学Ⅰ	67
病態生理学Ⅱ	70
病態生理学Ⅲ	73
病態生理学Ⅳ	75
病態生理学Ⅴ	77
微生物学	80
医療概論	84
公衆衛生学	86
社会福祉（社会福祉・社会保障）	89
関係法規	91
専門分野	93
基礎看護学	95
看護学概論Ⅰ	96
看護学概論Ⅱ	98
看護の基本となる技術Ⅰ	100
看護の基本となる技術Ⅱ	102
看護の基本となる技術Ⅲ	104
生活を整える技術Ⅰ	106
生活を整える技術Ⅱ	108
生活を整える技術Ⅲ	110
診療に伴う技術	112
臨床看護技術Ⅰ	114
臨床看護技術Ⅱ	116
地域・在宅看護論	119
地域・在宅看護概論Ⅰ	120
地域・在宅看護概論Ⅱ	122
地域と生活	124
看護の方法Ⅰ	126
看護の方法Ⅱ	128
看護の方法Ⅲ	130
成人看護学	133
成人看護学概論	134
看護の方法Ⅰ	136
看護の方法Ⅱ	138

看護の方法Ⅲ	140
看護の方法Ⅳ	142
看護の方法Ⅴ	144
老年看護学	147
老年看護学概論Ⅰ	148
老年看護学概論Ⅱ	150
看護の方法Ⅰ	152
看護の方法Ⅱ	154
小児看護学	157
小児看護学概論Ⅰ	158
小児看護学概論Ⅱ	160
看護の方法Ⅰ	162
看護の方法Ⅱ	164
母性看護学	167
母性看護学概論	168
看護の方法Ⅰ－1	170
看護の方法Ⅰ－2	173
看護の方法Ⅱ	175
精神看護学	177
精神看護学概論Ⅰ	178
精神看護学概論Ⅱ	180
看護の方法Ⅰ	182
看護の方法Ⅱ	184
看護の統合と実践	187
災害看護	188
国際看護	190
看護管理	192
医療安全	194
ケース・スタディ	196
<u>専門・実習</u>	199
臨地実習	201
臨地実習	202

目的および使命

日本大学は 日本精神にもとづき
道統をたつとび 憲章にしたがい
自主創造の気風をやしなひ
文化の進展をはかり
世界の平和と人類の福祉とに
寄与することを目的とする

日本大学は 広く知識を世界にもとめて
深遠な学術を研究し
心身ともに健全な文化人を
育成することを使命とする

日本大学の教育理念

自 主 創 造

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- ・ **日本の特質を理解し伝える力**

日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。

- ・ **多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力**

異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。

- ・ **社会に貢献する姿勢**

社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

< 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**

豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。

- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**

世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

< 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**

得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。

- ・ **問題発見・解決力**

事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**

あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。

- ・ **コミュニケーション力**

他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。

- ・ **リーダーシップ・協働力**

集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。

- ・ **省察力**

謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

看護専門学校の教育理念

日本大学医学部附属看護専門学校は、日本大学教育憲章に基づき、やさしさ・倫理観・豊かな感性を備え、対象である人間を尊重した看護を実践できる専門職業人を育てます。

看護専門学校の教育目的

看護を職業とするための専門的知識・基本的技術および態度を備えた看護の実践者として日本大学および社会に貢献できる人材を育成する事を目的とする。

看護専門学校の教育目標

- 1 人間に深い関心を寄せ、統合体としての人間を理解できる能力を養う。
- 2 生命の尊厳と個々の人権を尊重した倫理観をもち、看護を実践する基礎的能力を養う。
- 3 看護師として人間関係を形成するコミュニケーション能力を養う。
- 4 看護の実践に必要な臨床判断を行うための基礎的能力を養う。
- 5 健康でその人らしい生活を支えるため、科学的根拠に基づいた看護を実践できる基礎的能力を養う。
- 6 保健・医療・福祉チームの一員として多職種と協働し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。
- 7 社会の変化に目を向け、看護を探究する能力を養う。

看護専門学校の教育基本方針

ディプロマ・ポリシー（専門士授与・卒業の認定に関する方針）

日本大学医学部附属看護専門学校は、本校の教育理念に基づき、看護を実践する能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に卒業を認定し、専門士（医療専門課程）の称号を授与する

< 自ら学ぶ >

- ・ **豊かな知識・教養に基づく高い倫理観**

人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる

健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。

- ・ **世界の現状を理解し、説明する力**

国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる

< 自ら考える >

- ・ **論理的・批判的思考力**

看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。

- ・ **問題発見・解決力**

看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。

< 自ら道をひらく >

- ・ **挑戦力**

新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。

- ・ **コミュニケーション力**

看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。

- ・ **リーダーシップ・協働力**

やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。

多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。

- ・ **省察力**

主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。

カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成・実施の方針）

日本大学医学部附属看護専門学校は、日本大学の教育理念である「自主創造」に則り、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を備えた看護の実践者を育成するため、3年間を通じて、基礎分野、専門基礎分野、専門分野で構成される体系的なカリキュラムを編成し実施する。

教育課程の体系を履修系統図で示す。

- 1 看護職に必要な人間性と倫理観を育成するための科目と、科学的思考の基盤となる科目を基礎分野に配置する。
- 2 臨床判断能力や実践力を高めるために、原理原則に基づく基礎的な内容から、専門的、応用的な内容へと段階的に学習できる科目を専門基礎分野、専門分野に配置する。
- 3 主体的に学ぶことができるよう、講義・実習・演習など多様な学習形態を展開し、アクティブラーニングや情報通信技術（ICT）の活用を促進する。
- 4 多職種と連携・協同しながら、拡大していく看護の役割を学ぶために、多職種連携教育を充実する。
- 5 学習の評価は、シラバスに明示された到達目標を達成するために、終了試験・小テスト・レポート・技術試験、実習評価を含め、総合的に評価する。

アドミッション・ポリシー（入学者受入れ方針）

日本大学医学部附属看護専門学校は、日本大学教育憲章に基づき、看護を職業とするための専門的知識・基本的技術および態度を備えた看護の実践者として日本大学および社会に貢献できる人材の育成を目指しています。そのため、本校では以下に示す「求める学生像」を理解し、意欲的に学修を進めていくことのできる学生を求めています。

『求める学生像』

- 1 思いやりの心をもって他者と関わることができる人
- 2 他者の話をよく聴き、自分の考えを表現できる人
- 3 目標達成のために自ら学び努力できる人
- 4 生活・健康の自己管理ができる人

入学試験では、学科試験により、3年間の学修に必要な知識・技能・思考力・判断力を評価します。また、面接試験により、表現力・判断力・柔軟性・主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を評価します。

教育課程

1. 基 礎 分 野…専門基礎分野と専門分野の基礎となる科目。人格形成に役立つ科目であり、看護学との関連性を考慮し、なおかつ一般教育的な意味がある。
2. 専門基礎分野…専門分野の基礎となる科目。看護の対象である人間を理解するために、からだの仕組みの理解と同時に、人間の心の概念や成長・発達についても理解する。臨床判断能力の基盤を強化する。
3. 専 門 分 野…全ての看護実践の基礎となる科目。対象を生活者として捉え、チーム医療を行う上で必要な多職種連携や看護を科学的根拠に基づいて判断し、看護を実践するために必要な臨床判断能力を身につける。
専門基礎分野で学んだ内容をもとに、看護実践を段階的に学ぶ。

履 修 概 要

カリキュラム概要

学年 \ 月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年												
2 年												
3 年												

: 講義
 : 臨地実習

講義

時限	時 間
1	9 : 00 ~ 10 : 30
2	10 : 40 ~ 12 : 10
3	13 : 00 ~ 14 : 30
4	14 : 40 ~ 16 : 10

※土曜日は 1, 2 限のみ

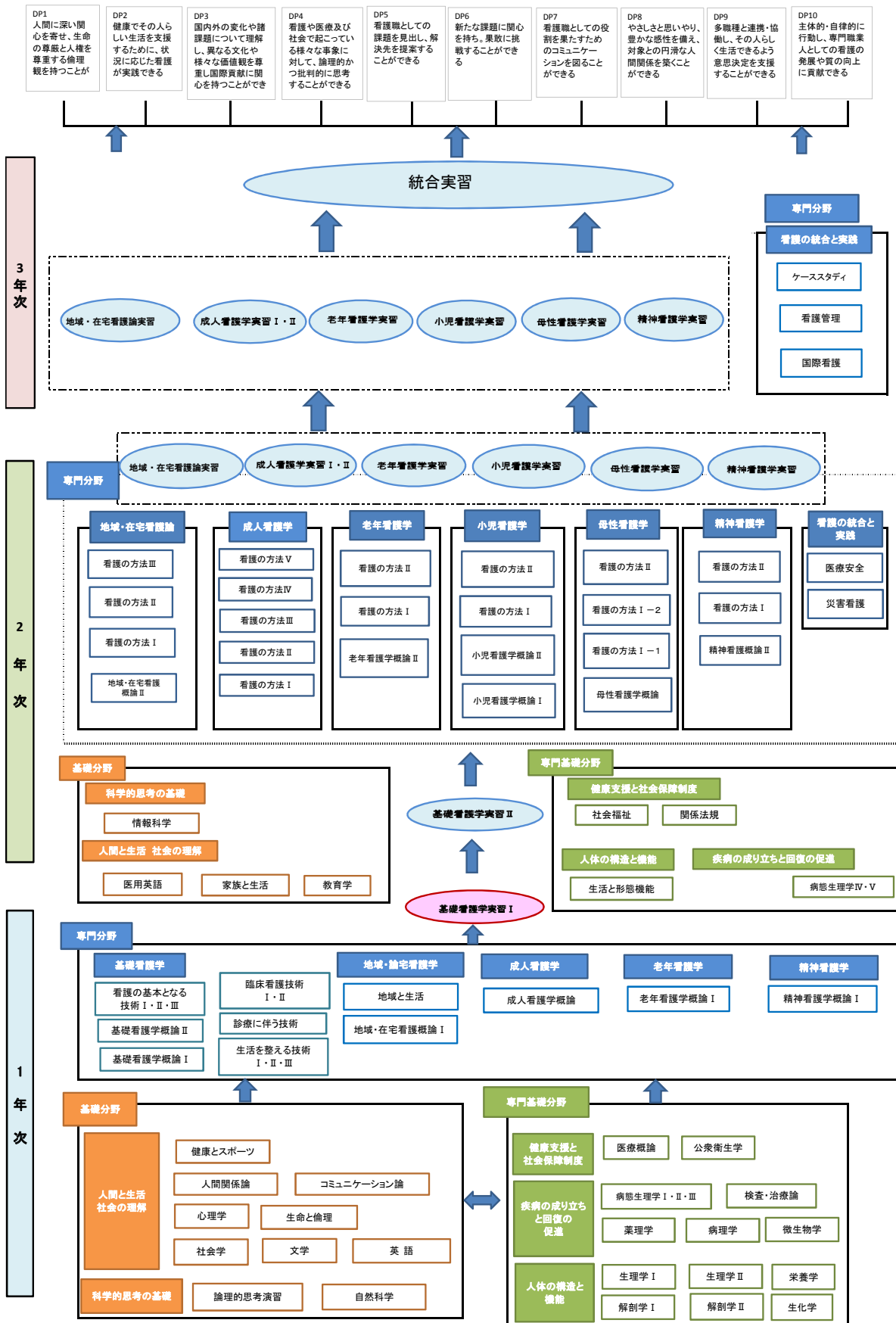
実習

曜日	場 所	時 間
月	病院 訪問看護ステーション 介護老人保健施設	8 : 00 ~ 16 : 15
火		
水		
木		
金	実践活動外学習 (記録整理・文献検索)	9 : 00 ~ 16 : 10
土		9 : 00 ~ 12 : 10

※実習施設

- ・日本大学医学部附属板橋病院
- ・日本大学病院
- ・訪問看護ステーション
- ・介護老人保健施設

履修系統図



教育課程・授業時間・単位数・進捗表

区分		科 目	単位数 (時間数)	履修学年					
				1学年		2学年		3学年	
				前期	後期	前期	後期	前期	後期
基礎分野	科学的思考の基礎	論理的思考演習	1(30)	*****					
		自然科	1(30)	*****					
		情報科	1(30)			*****	*		
	人間と生活・社会の理解	生命と倫理	1(30)	*****					
		文	1(30)		*****				
		社会	1(30)		*****				
		心理	1(30)	*****					
		人間関係論	1(15)	****					
		コミュニケーション論	1(15)		*****				
		英	1(30)		*****				
		用英	1(30)				*****		
		教育	1(30)			*****			
		健康とスポーツ	1(15)		*****				
		家族と生活	1(15)			****	***		
	小 計		14 (360)	10 (255)		4 (105)		0 (0)	
専門基礎分野	人体の構造と機能	解剖学Ⅰ	骨格・筋・関節・循環器系	1(15)	****				
		解剖学Ⅱ	神経・感覚器・消化器・呼吸器・腎泌尿器・内分泌系・解剖実習を含む	1(30)	****				
		生理学Ⅰ	神経・消化吸収・呼吸機能・血液循環・骨格筋・中枢神経・感覚	1(30)	*****	*			
		生理学Ⅱ	体液バランス・内分泌・生体防御・エネルギー代謝・発生生殖	1(15)		*****			
		生 化	学	1(30)	*****	*			
		栄 養	学	1(30)		*****			
		生活と形態機能		1(15)		*****			
	疾病の成り立ち・回復の促進	薬 理 学	医薬品と法合・薬の有益作用・有害作用・投与方法・治療に用いられる薬物とその作用	1(30)		*****			
		病 理 学		1(15)	****	***			
		検 査 ・ 治 療 論	手術・麻酔・化学療法・放射線療法・臨床検査	1(15)		*****			
		病 態 生 理 学Ⅰ	呼吸器・血液造血器・免疫系	1(30)		****			
		病 態 生 理 学Ⅱ	循環器・内分泌・腎系	1(30)		****			
		病 態 生 理 学Ⅲ	糖・代謝・消化器・歯科	1(30)		****			
		病 態 生 理 学Ⅳ	脳神経・骨格・筋・理学療法	1(30)			*****		
		病 態 生 理 学Ⅴ	感覚器(皮膚・眼・耳鼻科)泌尿器・生殖器	1(30)			*****		
		微 生 物 学		1(30)	*****	***			
	社会保健制度と健康支援	医 療 概 論		1(30)	*****				
		公 衆 衛 生 学		2(30)		*****			
		社 会 福 祉		2(30)			*****		
		関 係 法 規		1(15)			***		
	小 計		22 (510)	16 (390)		6 (120)		0 (0)	
専門分野	基礎看護学	基 礎 看 護 学 概 論Ⅰ		1(30)	*****				
		基 礎 看 護 学 概 論Ⅱ		1(15)		***			
		看護の基本となる技術	Ⅰ コミュニケーション・感染予防・安全安楽	1(30)	*****				
			Ⅱ ヘルスアセスメント	1(30)		*****			
			Ⅲ 看護過程	1(30)		*****			
		生活を整える技術	Ⅰ 環境・活動・休息	1(30)	*****				
			Ⅱ 清潔・衣生活	1(30)	*****	***			
			Ⅲ 食事・排泄	1(30)	*****	***			
		診 療 に 伴 う 技 術	与薬・検査時の看護	1(30)		*****			
		臨 床 看 護 技 術	Ⅰ 経過別看護 症状別看護 創傷処置	1(30)		*****			

			Ⅱ 治療別看護	1(15)		*****			

区分		科	目	単位数 (時間数)	履修学年					
					1学年		2学年		3学年	
					前期	後期	前期	後期	前期	後期
専門分野	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	地域・在宅看護の対象の理解	1(15)		*****				
		地域・在宅看護概論Ⅱ	地域・在宅看護にかかわる制度とその活用	1(15)			*****			
		地域と生活	暮らしの基盤としての地域の理解	1(15)		***				
		地域・在宅看護論看護の方法Ⅰ	暮らしを支える看護技術・社会資源の活用	1(30)			*****	**		
		地域・在宅看護論看護の方法Ⅱ	状態別看護	1(15)				*****		
		地域・在宅看護論看護の方法Ⅲ	地域・在宅看護の事例展開・生活の場で行われる援助の工夫	1(30)				*****		
	成人看護学	成人看護学概論	対象の理解・成人期における看護の為の基本的概念	1(30)		*****				
		成人看護学看護の方法Ⅰ	生命の危機的状況にある対象の特徴と看護の役割	1(30)			*****	**		
		成人看護学看護の方法Ⅱ	周術期にある対象の特徴と看護の役割	1(30)			*****	**		
		成人看護学看護の方法Ⅲ	慢性期にある対象の特徴と看護	1(30)				*****		
		成人看護学看護の方法Ⅳ	終末期にある対象の特徴と看護の役割	1(15)				*****		
		成人看護学看護の方法Ⅴ	看護過程の展開（周手術期・慢性期）	1(30)				*****		
	老年看護学	老年看護学概論Ⅰ	対象の理解	1(15)		*****				
		老年看護学概論Ⅱ	高齢社会における保健医療福祉・老年看護の理念・看護の役割・機能	1(15)			*****			
		老年看護学看護の方法Ⅰ	高齢者の生活機能を整える看護・健康障害と看護	1(30)			*****	*****		
		老年看護学看護の方法Ⅱ	高齢者への看護技術・看護過程	1(30)				*****		
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ	小児看護の理念・小児の特徴と成長発達・小児保健	1(30)			*****			
		小児看護学概論Ⅱ	健康問題・生涯を持つ子どもと家族の看護	1(15)			*****			
		小児看護学看護の方法Ⅰ	小児の健康障害と看護	1(30)				*****		
		小児看護学看護の方法Ⅱ	看護過程の展開・小児看護技術	1(30)				*****		
	母性看護学	母性看護学概論	対象の理解・母性保健	1(30)			***			
		母性看護学看護の方法Ⅰ－1	妊娠・分娩・産褥の正常・異常、新生児の正常・異常	1(30)			*****			
		母性看護学看護の方法Ⅰ－2	妊娠分娩産褥・新生児の看護	1(30)			*****	**		
		母性看護学看護の方法Ⅱ	母性看護に必要な看護技術	1(30)				****		
	精神看護学	精神看護学概論Ⅰ	対象の理解・精神保健	1(15)	****	*				
		精神看護学概論Ⅱ	精神看護の目的・役割	1(30)			*****			
		精神看護学看護の方法Ⅰ	精神疾患・精神障害の理解と看護	1(30)			*****			
		精神看護学看護の方法Ⅱ	看護過程の展開	1(30)				****		
	看護の統合と実践	災害看護		1(15)				***		
		国際看護		1(15)					***	
		看護管理		1(15)					***	
		医療安全		1(15)			***			
		ケーススタディ		1(30)					*****	****
	臨床実習	基礎看護学実習Ⅰ		1(45)		*				
		基礎看護学実習Ⅱ		2(90)			**			
		地域・在宅看護論実習		2(90)				**	*****	****
		成人看護学実習Ⅰ	周術期	3(135)				**	*****	****
		成人看護学実習Ⅱ	慢性期・終末期	3(135)				**	*****	****
		老年看護学実習		4(180)				**	*****	****
		小児看護学実習		2(90)				**	*****	****
		母性看護学実習		2(90)				**	*****	****
		精神看護学実習		2(90)				**	*****	****
	統合実習		2(90)						***	
小計				67 (2130)	17 (435)		30 (915)		20 (780)	
合計				103 (3000)	43 (1080)		40 (1140)		20 (780)	

学年目標

【1年生】

1. 生命の尊さを理解し、人間理解を深めることができる。
2. 看護に必要な基礎的知識を深め、根拠を踏まえた基礎看護技術を習得できる。
3. 学習の必要性を認識でき、学習習慣を身につけることができる。
4. 看護に対する決意を新たにし、自らの理想とする看護師像を目指すことができる。
5. 他者に興味・関心をもち、良好な人間関係を築くことができる。

【2年生】

1. 日々の体験や学習を看護に関連させ、論理的に考える力を養うことができる。
2. 対象の状況に応じた、看護過程展開の技術を習得できる。
3. 看護師を目指すものとして自覚と責任を持ち、主体的に学習することができる。
4. 健康レベルに応じた個別性のある看護を実践するための知識・技術・態度を身につけることができる。
5. 他者との関係の中で自己の役割を認識し、協力的な行動がとれる。

【3年生】

1. 主体的に実習に取り組み、科学的根拠に基づいた臨床判断を行い、看護の実践者として必要な知識・技術・態度を身につけることができる。
2. これまでの学びを統合させながら、国家試験合格に向けた取り組みができる。
3. 社会人になる自覚を持ち、自己を律し、良識ある態度をとることができる。
4. 他者理解ができ、さらに協働・連携し、目的を達成することができる。
5. 理論と実践を統合させ、自己の看護観を確立することができる。

基礎分野

区 分	基礎分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
論理的思考演習		1	前期	1	30	演 習
担当教員		松 野 智 章〔非常勤講師〕				
学習目的		論理的に考えるとはどういうことだろうか。実は、「考える」ということ自体が「論理的」に思考することに他ならず、論理的に思考することができることが「考える」ということに他ならないのだ。多くの人が「考えている」つもりでも、実はただ「悩んでいる」だけということが多い。さらに、メディアや他人の意見を鵜呑みにするのではなく、自分で検証して考えることが出来るようになれば怖いものはない。将来、医療に関わる者は、適切に言葉を使用し、思考することが求められるのであろう。また、自分で考えたことを文章で表現することも大事である。本授業では、そのための論理的思考と文章力を養うものである。				
到達目標		(1) 論理的に思考できるようになる。 (2) 発想力を養うことができる。 (3) 人前で自分の意見を言えるようになる。 (4) 小論文が書けるようになる。				
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：課題（40％），試験（40％），授業貢献度（20％）	
教科書	レジュメを配分する。テキストを購入する必要はない。	
参考書	岩崎武雄『正しく考えるために』講談社現代新書，1972年。 アン・トムソン（斎藤浩文・小口裕史訳）『論理のスキルアップー実践クリティカル・リーズニング入門』春秋社，2008年。	
学習の心得 学生へのメッセージ	論理的思考を理解できるようになることが目標である。 岩崎武雄『正しく考えるために』講談社新書を参考にしながら，講義形式で教員が講義する。ただし，受講者自身にもいろいろな問題や身近な事例を挙げてもらいながら，その事例を講義中に議論する。また，その内容をもとに小論文を書く。	
回数	授 業 内 容	担当者
1	自己PRを学ぶ。知ることと考えることの違い。	松野
2	考えることとは何か？批判的な心構えとは何か？	
3	判断する前に必要なこと。何について判断するのか？	
4	推理するための論理を学ぶ。前件否定と後件肯定の誤り。	
5	選言推理の場合の誤り。概念と意味の同一性。	
6	小論文とは何か。	
7	アイデアを出して，アウトラインを作成する。	
8	小論文を書く。	
9	小論文を校正する。	
10	アイデアを出して，アウトラインを作成する。	
11	小論文を書く。	
12	小論文を校正する	
13	アイデアを出して，アウトラインを作成する。	
14	小論文を書く。	
15	終了試験・解説	

区 分	基礎分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
自然科学		1	前期	1	30	講義
担当教員	野 田 直 紀 [医学部（生物学）] 小 松 徳太郎 [医学部（化 学）]					
学習目的	看護学生として必要な自然科学について知識を習得し理解する。これは一般教養として必要であるばかりでなく、専門基礎科目を学習するための基礎となる。すなわち、生命現象の諸問題について考察し、人間を含めた生物そのものの理解を深めるとともに、将来、医療・看護において直面する自然科学の様々な問題を自ら認識、判断できるようにする。					
到達目標	(1) 原子と分子の構造と性質について説明することができる。 (2) 水溶液の性質と溶液の調製法について説明することができる。 (3) 生体を構成する主要な物質の構造と性質について説明することができる。 (4) 細胞の基本的なはたらきについて、細胞の構造との関連性を示しながら説明することができる。 (5) 食物の消化・吸収・貯蔵・老廃物の濾過を理解し、説明することができる。 (6) 生物のATP生産とそれを利用した生物の活動を理解し、説明することができる。 (7) 刺激による神経細胞の興奮、興奮の伝導、それがどのように筋肉に伝わり私たちが動くことができるかを理解し、説明することができる。 (8) 細胞周期を理解し、DNA複製の意義と細胞分裂のしくみを説明することができる。 (9) 遺伝情報の発現についての基本的なしくみを説明することができる。 (10) 生殖に関わる現象を説明することができる。 (11) 初期発生の過程と細胞分化を説明することができる。 (12) 体内環境が一定に保たれるしくみを説明することができる。 (13) 生体防御のしくみと免疫を理解し、説明することができる。					
専門士授与・ ＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100%					

教科書	解剖生理や生化学を学ぶ前の楽しくわかる生物・化学・物理／岡田隆夫著／羊土社 系統看護学講座 基礎分野 化学／医学書院	
参考書		
回数	授 業 内 容	担当者
1	ガイダンス, イントロダクション	野田
2	原子と分子, 元素の性質と周期表, 原子や分子の個数の表し方	小松
3	水の性質, 濃度の計算, 水溶液の性質, 化合物の作り方	
4	単位の換算, 危険な物質	
5	いろいろな生体分子	野田
6	いろいろな細胞と細胞内にある構造物	
7	呼吸と血液, 身体内外の圧力	
8	食物の消化・吸収・貯蔵・老廃物の濾過, 取り込んだ栄養素のゆくえ	
9	刺激を感じ, 動くためのしくみ	
10	遺伝情報が伝わるしくみ	
11	細胞の分裂	
12	ヒトの誕生と成長	
13	体内環境が一定に保たれるしくみ	
14	外敵から身を守るしくみ	
15	終了試験・まとめ	

区 分		基礎分野				R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
情報科学		2	後期	1	30	講義・演習
担当教員	宇田川 誠 一 [医学部（数学・情報科学）] 谷 口 哲 也 [医学部（数学・情報科学）] 宮 田 洋一郎 [医学部（情報科学非常勤）] 田 中 有 希 [医学部（情報科学非常勤）] 西 村 舞 [実習助手]					
学習目的	(1)看護実務に必要なパソコンの基礎操作を身につける。 (2)統計処理の基礎的技術を身につける。 (3)プレゼンテーションの基礎的方法を身につける。					
到達目標	(1)パソコンの基本操作ができる。 (2)インターネットで情報収集ができる。 (3)資料から基本統計量を求めることができる。 (4)表計算ソフトで統計処理ができる。 (5)プレゼンテーションソフトを利用することができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 中間試験：25% ， 提出物：15% ， 出席・授業態度：10% ， 終了試験：50% ＊中間試験の時期は日程の都合により多少前後する場合がある。 ＊第1回目の授業時に連絡する。	
教科書	「30時間アカデミック Office2019」杉本くみ子・大澤栄子 著 ；実教出版	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	Windowsの起動と終了。アプリケーションの起動と終了。USBメモリへの保存方法。	全教員
2	WORD(I): 仮名漢字変換を利用した文章の入力練習。文字飾りの方法。	
3	WORD(II): 表の作成と図形描画を行う。完成したものをプリンタで印刷する。	
4	EXCEL(I): EXCEL入門。数表での合計，平均の計算。コピー＆貼り付けと相対参照。	
5	EXCEL(II): 表の作成と装飾。セルの書式設定の方法。BMIの算出。	
6	EXCEL(III): 度数分布表の作成。セルの相対参照と絶対参照。	
7	EXCEL(IV): 度数分布表の完成。ヒストグラムの作成および印刷。	
8	中間試験。	
9	Internetの利用方法。Updateの必要性和その方法。情報倫理。情報収集練習。	
10	WORD(III): アンケート文書の作成。ワードアートや図形描画の使用，写真画像の貼り付けなどを行う。	
11	PowerPoint(I): スライドの作成練習。表，グラフの作成を行い，写真などの貼り付けを行う。	
12	PowerPoint(II): 各人のオリジナル・テーマのスライドを作成する。Internetを利用した情報検索及び収集。	
13	PowerPoint(III): オリジナル・テーマのスライドの作成を行う。	
14	PowerPoint(IV): オリジナル・テーマのスライドを完成し提出する。発表を行う。	
15	終了試験・まとめ	

注意：この授業は，講義と実習が一体化している。

実習関係の細目については，授業開始時にオリエンテーションする。

区 分	基礎分野					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
生命と倫理		1	前期	1	30	講義
担当教員		雨 宮 久 美 〔非常勤講師〕				
学習目的	人間による人間への問いは他の存在物と人間を峻別する決定的事柄である。人間への問いとは人間の本質essentia(エッセンティア)を探究することであり、倫理はここから出発する。そして自己における自律的態度、他者に対する人格の尊重、この両者を向上させ深めてゆこうとする不断の意欲と努力が、倫理的自覚となり、人間そして生命の尊厳を認識する根底となることを理解する。 その上で、医療・看護の実践において、起こり、判断し、そして解決を迫られるさまざまな倫理的諸問題の問題点を常に考えてゆくことができる医療人として持つべき感性を発掘し、加えて、看護実践で特徴的な倫理諸原則を理解することによって、常に患者の立場で把握することができるような思考回路を涵養し、看護における倫理観の重要性を認識する。					
到達目標	（１）医療行為における「医療の倫理」と「倫理の論理」の本質的な相違点を理解できる。 （２）医療者-患者関係の各種モデルと医療におけるパターンリズムの問題点を理解できる。 （３）QOLの真の意味を理解し、説明できる。 （４）人工授精・体外受精・代理出産・胚研究・人工中絶・胎児診断・選択的中絶・重度障害新生児の選択的治療停止など、生命操作によって起こり得る倫理的・社会的問題点と功利主義の関係を説明できる。 （５）脳死移植・生体移植など移植医療の倫理的・現実的諸課題と心身二元論および功利主義の関係を説明できる。 （６）安楽死・尊厳死をめぐる問題点と功利主義の関係を説明できる。 （７）種々の家庭内暴力（DV）について説明できる。 （８）インフォームド・コンセントの意味・歴史・意義を理解し、説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

成績評価基準		評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（100％）の結果から欠席を減点する。	
教科書		随時, 資料プリントを配布する。	
参考書		なし	
回数	授 業 内 容		担当者
1	ガイダンス 倫理とは何か	医療技術と倫理的視点について	雨宮
2	トリアージ	災害医療・救急医療	
3	医療資源の配分倫理	サバイバル・ロッタリーとトリアージ	
4	パターナリズムとオートノミー	患者と医療従事者の関係	
5	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセント成立の歴史と意義	
6	SOL倫理とQOL倫理	SOLの意味とQOLの意味	
7	優生思想と生殖医療	優生思想と着床前診断・出生前診断の倫理問題	
8	人工授精と体外受精	体外受精の倫理問題	
9	脳死・臓器移植	脳死・臓器移植の倫理問題・心身二元論	
10	DV問題	家庭内暴力など	
11	安楽死と尊厳死	生きる権利と死ぬ権利	
12	終末期医療と緩和ケア	アドバンスディレクティブなど	
13	死の受容	死の受容5段階（キューブラー・ロス）	
14	生命倫理とその根底の思想	生命倫理について根底にある思想	
15	終了試験・まとめ		

区 分	基礎分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
文学		1	後期	1	30	講義
担当教員		山 崎 泉（日本大学講師）				
学習目的		文学・映像作品における「病」について考察する。 文学・映像作品において「病」を扱った作品を取り上げ、実際の作品を鑑賞（文学作品の場合は主としてその映像化作品を鑑賞）した上で、それらの作品において「病」がどのように描かれているのかを分析していく。				
到達目標		(1) たしかな読解力を養う。 (2) 文学作品を通して、人が病とどのように対峙してきたのかを理解する。 (3) 病を描いた文学作品を鑑賞することにより、他者の心情に共感する力を身に付ける。				
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習		教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分 復習：30分				
成績評価基準		評価方法 絶対評価 評価内容 平常点20％，発表・レポート20％，終了試験60％				
教科書		なし				

参考書	プリントおよびレジュメを配布。	
回数	授 業 内 容	担当者
1	ガイダンスおよび文学・映像作品における「病」について総説	山崎
2	有吉佐和子「恍惚の人」	
3		
4	小菅もと子「忘れても、しあわせ」（「折り梅」）	
5		
6	関口祐加「毎日がアルツハイマー」	
7		
8	耕治人「そうかもしれない」	
9		
10	荻原浩「明日の記憶」	
11		
12	岡野雄一「ペコロスの母に会いに行く」	
13		
14	まとめ	
15	テスト・解説	

区 分	基礎分野					R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
社会学		1	後期	1	30	講義	必修
担当教員	服 部 慶 亘（日本大学講師）						
学習目的	世の中は「自分の思い通りにいくものではない!」ということを理解しなければ、社会生活を成り立たせることは出来ない。では、どうすれば良いのか?—— 本講義は、1回の授業につき1つのトピック（学生にとって身近な話題）を呈示し、客観的に現実を考察する（社会学的想像力を身に付ける）ことを目的としながら進めていきます。						
到達目標	日常生活および医療社会での望ましい「人間関係」構築のための基礎知識・技術を身につけるために、「人間」が如何なる存在なのか、どのように「社会」と「人間」はかかわりを持っているのか、主としてこれらの側面について講義します。その際に、自分が「社会」を理解した「人間」となる必要性を認識するための材料を提供することになります。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連							
<自ら学ぶ>							
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。							
☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。							
<自ら考える>							
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。							
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。							
<自ら道を開く>							
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。							
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。							
☐ リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。							
☐ 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。							
準備学習	特別な予習は必要ないが、講義で紹介された事例・法則・理論・概念などを自分自身の日常生活の中でキチンと確認（実践）した上で（1時間以上必須）、次の講義にのぞんでほしい。社会学を単なる「机上の学問」としてではなく、日常の（あるいは自分自身の）あらゆる場面と密接に関連した学問としてとらえてほしい。						
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（70%）、受講態度（10%）、小レポート（20%）で評価する予定 なお、社会情勢などを考慮して遠隔（オンライン）授業となった場合は、終了試験（50%）、講義後の課題（50%）で評価する予定						

教科書		服部慶亘著 『改定ストレス・スパイラルー悩める時代の社会学』 新協（ジャパン・プレス・フォト）	
参考書		なし（必要に応じてプリントを配布）	
学習の心得 学生へのメッセージ		質問は随時受け付けます。講義の前後でも、またはインターネットでも可能です。 ※遠隔（オンライン）授業実施となった場合、講義予定の一部を省略（または圧縮）して実施されます。	
回数	授 業 内 容		担当者
1	ガイダンス	社会学とは何か？	服部
2	何のために生きるのか？	ライフコースとレディネス	
3		「社会」とは何か？	
4	何のために学ぶのか？	知識と技術 疑似環境	
5		状況（情況）的影響	
6	何のために働くのか？	「働く」とは何か？	
7		看護職への理想	
8	結婚と家族	「家族」とは何か？	
9		少子高齢化の問題	
10		恋愛について	
11	コミュニケーション	概説（語源、本質的な意味）	
12		構造と原理	
13	社会的動物としての人間	生理的早産	
14		福祉的観点	
15	終了試験・まとめ		

区 分	基礎分野					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
心理学		1	後期	1	30	講義
担当教員	柴 里 実 [非常勤講師]					
学習目的	心理学とは、捉えにくい人間の「こころ」の仕組みを解明し、人間生活を豊かにすることを目指す学問です。本講義では、心理学の基本的な知識の習得にとどまらず、患者や看護者自身の理解を深めることや、自分の生活や看護の実践的活動に活かすことを目指します。					
到達目標	心理学の基礎知識を獲得し、自己や他者を多面的に理解する。 対人援助の実践に役立つ心理学的な視点を持つ。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連						
<自ら学ぶ>						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える>						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く>						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る。						
☐ リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。						
☒ 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	教科書や前回の講義内容を確認して次回に臨むことが望まれる。予習：30分 復習：30分					
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：中間課題（30%），終了試験（70%）					
教科書	「対人援助と心のケアに活かす心理学」 鈴木伸一編著 有斐閣ストゥディオオ					
参考書	その他、必要な資料は各回の講義で配布する。					

回数	授 業 内 容		担当者
1	心理学とは	授業のガイダンス 心理学の研究領域や研究方法	柴
2	記憶	短期記憶と長期記憶，情報処理システム	
3	学習	古典的條件づけ，オペラント条件づけ 社会的学習，技能学習	
4	感情	基本的感情と発達 感情制御方略	
5	動機づけ	内発的・外発的動機づけとその他諸理論 動機づけ制御方略	
6	パーソナリティ	パーソナリティ理論，測定方法	
7	知能	知能の理論と発達，測定方法	
8	発達（１）	発達段階と課題 乳幼児期の発達	
9	発達（２）	児童期・青年期の発達 ピアジェの発達理論	
10	発達（３）	成人期以降の発達と支援	
11	ストレス	ストレスの仕組みとコーピング	
12	対人コミュニケーション	他者とのかかわり 集団の中の自己	
13	心理学的介入	心理アセスメント カウンセリングの姿勢	
14	まとめ	授業内容の振り返り，補足	
15	終了試験・解説		

区 分	基礎分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
人間関係論		1	前期	1	15	講義
担当教員	三 輪 雅 子 [医学部 心療内科]					
学習目的	(1)「人間関係」について理解する。 (2)人間関係を円滑に進めるために自己理解を深める。 (3)より良いコミュニケーションとはどのような状態なのかを理解する。					
到達目標	(1)人間関係を理解するための心理学的知識を説明できる。 (2)自己と他者の思考・行動特性を分析し説明できる。 (3)より良いコミュニケーションを構築するための方法論を説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験 90％ 出席・受講態度 10％					

教科書	プリントを随時配布する。	
参考書	図解&ワークでわかる・身につく初学者のための交流分析の基礎 中村延江 田副真美 片岡ちなつ 金子書房 カウンセリングの技法をぶ 玉瀬耕治 有斐閣	
回数	授 業 内 容	担当者
1	人間関係論概論 交流分析：自我状態の分析	三輪
2	交流分析：エゴグラム	
3	交流分析：ストローク	
4	交流分析：人生の基本的態度	
5	交流分析：やりとりの分析	
6	交流分析：時間の構造化	
7	カウンセリングの技法 人間関係論のまとめ	
8	終了試験・解説	

区 分	基礎分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
コミュニケーション論		1	後期	1	15	講義・演習
担当教員	三 輪 雅 子 [医学部 心療内科]					
学習目的	看護活動の基本ともいえる看護師－患者関係(対人関係)を理解するために、自己や他者の様々な特徴について簡単なグループワークを通して学ぶことを目標とする。 （１）自己の考え方や行動の特徴を分析し理解する。 （２）自己と他者の関係の持ち方に気づく。 （３）コミュニケーションの様々な状態を体験する。					
到達目標	（１）自己の心的特徴や行動特徴，価値観などが説明できる。 （２）他者の考えや行動が説明できる。 （３）自己と他者のコミュニケーションの特徴が説明できる。 （４）より良い人間関係を築くことができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☒ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	授業の復習を行い，実習の学習に臨むこと。予習30分，復習30分程度が望まれる。					

成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験(筆記)・レポート・受講態度を総合的に判断する。		
教科書	プリントを随時配布する。		
参考書	なし		
学習の心得 学生へのメッセージ	毎回3～6人程度のグループを構成し、自己理解・他者理解のためのグループワークを行う。ワークの体験を通して自己分析やグループ討論を行い、毎回レポートを提出する。		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	人間関係とは：ワーク「私はどんな人？」	演習 A/B クラス別	三輪
2	対人認知と印象形成：ワーク「第一印象」		
3	コミュニケーション ：ワーク「ワンウェイ／ツーウェイ コミュニケーション」		
4	聞く・話す・観察する：ワーク「聞く・話す・観察する」		
5	共感的理解：ワーク「青山さんのケース」		
6	ポジティブな感情表出：ワーク「感情との付き合い方」		
7	葛藤との付き合い方：ワーク「サバイバルゲーム」		
8	終了試験・解説		

区 分	基礎分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
英語		1	後期	1	30	講義
担当教員	上 滝 圭 介 〔非常勤講師〕					
学習目的	英語学習のなかで、外国語学習に対する心構え、ことばに対する感性、日々の出来事やメディアの言説などに対する判断力を学んでいく。社会人として、出版物やインターネットの英語を理解したり、道ばたや結婚式や海外旅行など、さまざまな場面でとつぜん要求される英語に対応したいものだし、医療従事者としては、英語に由来する用語の理解や患者との英会話を現場で求められることもあるだろう。また、英語学習というと、イギリスやアメリカなどの英語を母語とする国々に気をとられがちだが、アジアの近隣諸国と日本の連携において用いられる、第2言語としての英語にも眼を向けたい。					
到達目標	1) 英単語について、英和辞書を用いて、その語の発音、品詞、意味を的確に調べることができる。 2) 英文について、SVOCを用いて文の構造を分析したうえで文意をつかむことができる。 またさらに、文章全体の大意を説明できる。 3) 音読や発表、グループワークやその他のアクティビティに積極的に取り組むことができる。 4) 英語表記の人名・地名や固有名詞や病名などについて、電子辞書や事典類、専門書やインターネットなどを用いて、臨機応変に調査できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	未知の単語の発音，品詞，意味を辞書で調べたうえで，SVOCと文意をつかんでおくこと。 予習：30分～2時間 復習：30分	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 60%・出席アクティビティ 30%・提出課題 10%	
教科書	J・メドウズ編『生命科学のあけぼの』虎岩正純＋直子編注：鶴見書店	
参考書	なし	
学習の心得 学生へのメッセージ	総合的に英語学習を指導する。受講者は復習よりも準備学習に比重を置くこと。	
回数	授 業 内 容	担当者
1	オリエンテーション [発音や文法など]	上滝
2	Introduction	
3	Harvey and Galileo	
4	A Student at Padua	
5	Galen's views are challenged	
6	Galen's views are challenged [Activity 1: Turbo Lover]	
7	Return to England: the action of the heart	
8	Return to England: the action of the heart [Activity 2: Body Map]	
9	Demonstrations of circulation	
10	Harvey publishes his discovery	
11	Harvey publishes his discovery [Activity 3: Instruction]	
12	The generation of animals	
13	Harvey in old age	
14	Harvey's heritage	
15	終了試験と1回から今回までのまとめ	

区 分	専門分野				R4（2022）年度
科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
医用英語	2	後期	1	30	講義

担当教員	丸 山 高 史 [医学部（内科学系腎臓高血圧内分泌内科学分野）] E. H. JEGO（ジェゴ） [医学部（一般教育学系人文・社会・情報科学分野医学英語教育部門）] R. M. O' SHEA（オシェイ） [医学部（一般教育学系人文・社会・情報科学分野医学英語教育部門）]
------	--

学習目的	医療の現場において英語は日常的に使用されており，その理解は看護遂行上必須である。 本講義は，基礎的な医学用語の理解を目的として行う。
------	---

到達目標	(1) 医療の現場において実際に使用される診察，検査，治療・看護上の医学専門英語の理解と修得ができる。 (2) 人体各部の名称，症状，病名などの英語（略語）を理解できる。 (3) Problem Oriented System（POS：問題志向型システム）にそった病歴の記載や，問題解決のための検査計画，検査結果，治療計画，効果判定，など診察録に記載された英語記述や医学専門英語が理解できる。 (4) 英語で患者と口頭によるコミュニケーションをとることができる。
------	--

専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連

<自ら学ぶ>

- ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。
健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。
- ☒ 世界の現状を理解し，説明する力
国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を
持つことができる。

<自ら考える>

- ☐ 論理的・批判的思考力
看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することが
できる。
- ☐ 問題発見・解決力
看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。

<自ら道を開く>

- ☒ 挑戦力
新たな課題に関心をもち，果敢に挑戦することができる。
- ☒ コミュニケーション力
看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。
やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。
- ☐ リーダーシップ力
多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。
- ☐ 省察力
主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験100%	
教科書	Medical English for Nurses (プリント) 看護英語ハンドブック / 東京医学社 ナースの英会話 / 学研	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	外部人体, 医学用語	丸山
2	呼吸器系疾, 消化器系疾患, 循環器疾患	
3	腎・尿路系疾患, 血液系疾患, 内分泌・代謝系疾患	
4	アレルギー・免疫系疾患, 筋・骨格・神経系疾患	
5	患者対応の基本 (patient communication basics)	E. H. JEGO
6	初診時の患者を理解する (understanding patient symptoms)	
7	初診時の患者に対応する (chief concern and onset)	
8	患者の症状を診療科に結び付ける (connecting symptoms and depts.)	
9	受診科への行き方を説明する (giving directions in a hospital)	
10	個人情報の提供 (questions and personal info)	R. M. O' SHEA
11	基本的な病気や苦情を説明する (describing common complaints)	
12	基本的なリクエスト, オファー, 設定 (requests and preferences)	
13	アドバイスと指示を与える (giving advice and instructions)	
14	患者への説明, 交渉と意味の明確化 (negotiating meaning and clarifying info)	
15	終了試験・解説	

区 分	基礎分野 人間と生活，社会の理解				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
教育学		2	前期	1	30	講 義・演 習
担当教員	兼任講師予定					
学習目的	人間にとっての教育—学習の意義を理解する。看護では，健康の保持増進，疾病の予防や健康の回復を促すために対象である人々がセルフケアできる能力の向上を目指している。専門職としての看護師にとって教育学を学ぶ必要性を理解し，対象に対して指導ができる教育者としての資質を養うことを目的に教育の意義と方法を学ぶ。また，看護の発展や看護の質の向上のために，専門職業人として生涯学習についての基本的知識を身につける。					
到達目標	1．人の学習や発達の特徴を理解し，看護師にとって教育学を学ぶ必要性を説明できる。 2．指導者の役割と姿勢を理解し，適切な指導方法と評価の効果を高める方法を説明できる。 3．学習意欲を高める技法や指導的な場面におけるコミュニケーションのあり方について説明できる。 4．看護師としての学習の特徴とキャリア開発に向けての学習の進め方を説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	授業の予習・復習として，３０分程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）100％		
教科書	中井俊樹，小林忠資：看護のための教育学，医学書院，2019.		
参考書	グレッグ美鈴，池西悦子：看護教育学，南江堂，2018.		
回数	授 業 内 容	授業形態	担当者
1	1．人の発達と学習 1) 学ぶことと教えること 2) 人の発達を理解する 3) 学習の原理を理解する	講義	
2			
3	2．指導の基本 1) 指導者の役割と姿勢を理解する 2) 指導を設計する 3) 効果的に指導する 4) 学習を評価する	講義	
4			
5			
6	3．様々な指導の工夫 1) 学習を高める技法 2) コミュニケーションの技法 3) ディスカッションの技法	講義	
7			
8			
9	4．指導の実際 1) 健康問題の指導計画書の作成（グループワーク） ①指導内容・指導方法の検討 ②評価方法の検討 2) 指導の実施 3) 評価	演習	
10			
11			
12	発表・まとめ	演習	
13	5．学習とキャリア開発 1) 看護師としての学習を理解する 2) キャリア開発に向けて学習する	講義	
14			
15	終了試験・解説		

区 分	基礎分野					R4 (2022) 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
健康とスポーツ		1	後期	1	15	講義 校内実習
担当教員	山 村 孝 之 [医学部 (健康・身体教育学分野)] 栗 原 祐 二 [医学部 (スポーツトレーニング非常勤)] 目 黒 拓 也 [医学部 (スポーツトレーニング非常勤)] 三 井 梨紗子 [文理学部大学院]					
学習目的	身体活動の実践を通して、学生生活および将来の看護師に必要と考えられる体力の保持・増進を図るとともに、社会性や協調性を涵養すること、健康や安全管理への理解を深めることを目的とする。					
到達目標	(1) 相手を思いやり、協力してスポーツを楽しむ態度を身につける。 (2) 自発的にスポーツができるような態度を身につける。 (3) 生涯スポーツ実践のための基本的態度を身につける。 (4) 体力の保持・増進における基本的な考え方を理解し、実践できる。 (5) 水辺活動時の事故予防、スポーツ時の健康や安全管理に留意する態度を身につける。 (6) 各スポーツ種目におけるルールやマナー、スポーツ文化を理解する。 (7) バレーボール、バドミントン、卓球、フットサル、テニスなどの基本技能を習得する。 (8) 健康体力テストの目的を理解し、方法を実践できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

成績評価基準	評価方法 絶対評価（スポーツ種目の得意・不得意は関係ない） 評価内容 取り組み状況・学習態度（70%），レポートなどの提出物（30%）		
教科書	なし		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容	授業場所	担当者
1	ガイダンス，総論，健康体力テストの目的と方法	講義室	山村 孝之 栗原 裕二 目黒 拓也 三井 梨紗子
2	水辺活動時の安全認識と事故予防，着衣泳の実践	プール	
3	健康体力テストの実施	体育館	
4	バレーボール，バドミントン，卓球，ソフトテニス （基本技能の習得①）	体育館他	
5	バレーボール，バドミントン，卓球，ソフトテニス （基本技能の習得②）	体育館他	
6	バレーボール，バドミントン，卓球，ソフトテニス （基本技能の習得③）	体育館他	
7	バレーボール，バドミントン，卓球，ソフトテニス （習得度テスト，まとめ）	体育館他	
8	終了試験	体育館他	

区 分	基礎分野 人間と生活・社会の理解				R4 (2022) 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数
家族と生活		2	前期	1	15
担当教員	浦 川 寿美子 [看護専門学校] 今 野 千 春 [看護専門学校] 渡 邊 厚 子 [看護専門学校] 齊 藤 美 鈴 [看護専門学校] 石 井 祐 子 [看護専門学校] 上 川 直 子 [看護専門学校] 赤 羽 明 子 [看護専門学校]				
学習目的	家族の発達段階と危機，家族員の健康障害によって生じる家族の問題について理解する				
到達目標	1. 看護の対象としての家族の特性について述べることができる 2. 家族への援助における看護の役割を述べることができる 3. 様々な健康レベルの家族の健康問題によって発生する課題と援助の必要性について述べることができる				
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を 持つことができる。 <自ら考える> ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することが できる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。					

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと 予習：30分 復習：30分		
成績評価基準	終了試験（筆記）100%		
教科書	家族看護学 理論と実践 第5版 日本看護協会出版会		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容	授業形態	担当者
1	家族看護の概念	講義 演習	浦川
2	家族を理解するための諸理論		浦川
3	乳児を持つ家族への援助 児の出生によって家族が受ける影響		今野
	重度心身障害児を持つ家族への援助 重症心身障害児をめぐる状況と家族の体験		石井
4	救急医療・集中治療の場における家族への看護 救急医療・集中治療の場における家族の理解		齊藤
5	精神疾患をもつ患者の家族への看護 精神障害を持つ患者の家族の理解		赤羽
6	高齢者介護を行っている家族への看護 高齢者介護を行っている家屋の理解		渡邊
7	終末期患者の家族への看護 家族成員が終末期を迎えることによって家族が受ける影響		上川
8	終了試験・まとめ		

專門基礎分野

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能					R4 (2022) 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
解剖学 I		1	前期	1	15	講義
担当教員	松 川 睦 [医学部 (解剖学)] 内 藤 美智子 [医学部 (解剖学)] 日 野 浩 嗣 [医学部 (解剖学)]					
学習目的	人体の構造 (かたち, つくり, しくみ) を徹底的に考察する姿勢を身につけることを目的とする。					
到達目標	(1) 人体各部の区分と名称および体位や運動方向を示す用語について理解する。 (2) 骨の役割を理解し, 次いで骨の形, 構造や存在位置について学び, それらが人体の中でどのように組み立てられているか理解する。加えて関節や靭帯についても学習する。 (3) 筋にはどのような種類があり, それらはどこに存在し, どのように機能しているかを理解する。 (4) 循環系を構成する脈管系と血液およびリンパについて理解する。 血液循環ポンプとしての心臓の位置, 形態, 機能について学習し, そこから排出される血液がどのような経路で各組織, 細胞に提供され, その後どのような経路で回収されるのかを学習する。また造血リンパシステムの総体についても学習する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
<自ら学ぶ> ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ, 生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために, 状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し, 説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し, 異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える> ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して, 論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し, 解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く> ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち, 果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり, 豊かな感性を備え, 対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し, その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し, 専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院		
参考書	ヒューマンボディ／エルゼビア カラー人体解剖学／西村書店 からだの構造と機能／西村書店 解剖学アトラス／文光堂 解剖トレーニングノート／医学教育出版社		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	人体の大要と用語，骨と骨の連結	講義	松川
2	骨格筋の形状と働き，筋系の構成		
3	全身の骨格		
4	主な骨格筋		
5	心臓の構造	講義	内藤
6	末梢循環系の構造	講義	日野
7	血液，リンパとリンパ管，生体防御の関連臓器		
8	終了試験・解説		

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能					R 4 (2022) 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
解剖学Ⅱ		1	前期	1	30	講義 実験実習校内
担当教員	松 川 睦 [医学部 (解剖学)] 吉 川 雅 朗 [医学部 (解剖学)] 内 藤 美智子 [医学部 (解剖学)]					
学習目的	人体の正常構造についての基本的な解剖学知識を習得することで、生体の構造が細胞から組織、組織から器官へという一連のダイナミックな機構から成り立っていることを学び、人体の正常構造を理解する。 臨床系教科目を学習するにあたり必要な神経系の名称、用語を習得し神経系の基本的な構造と機能および感覚の受容とその伝達経路を理解する。また発生学では用語の理解と胎生期の器官形成の概要を理解する。					
到達目標	(1) 細胞の構造、各組織の構成要素について説明できる。 (2) 消化・排泄に関与する臓器の位置と形態について理解する。 (3) 気道と肺の形態について説明できる。 (4) 尿の生成、排泄器官および男女の生殖器の位置および形態について説明できる。 (5) 内分泌腺の構造および組織について説明できる。 (6) ニューロンとグリアの構造と主な機能を説明できる。 (7) 中枢神経（脳・脊髄）と末梢神経の主な名称と機能を説明できる。 (8) 自律神経系の意義と機能について説明できる。 (9) 臨床に必要な神経の名称と主な伝導路について説明できる。 (10) 感覚受容器の構造と機能を説明できる。 (11) 発生学では、受精卵から初期発生および各器官形成について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						

☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。			
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。			
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。			
準備学習	授業の予習・復習として，2時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%		
教科書	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院		
参考書	ヒューマンボディ／エルゼビア カラー人体解剖学／西村書店 からだの構造と機能／西村書店 解剖学アトラス／文光堂 解剖トレーニングノート／医学教育出版社		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	細胞と組織	講義	松川
2	呼吸器系	講義	内藤
3	消化器系①		
4	消化器系②		
5	内分泌系		
6	泌尿器系	講義	松川
7	生殖器系①		
8	生殖器系②		
9	神経組織・神経系の構造	講義	吉川
10	脳と脊髄		
11	脊髄神経，脳神経，自律神経系		
12	感覚器・伝導路		
13	人体の発生		
14	解剖見学オリエンテーション	実験実習校内	松川
15	解剖見学実習		

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能					R 4 (2022) 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
生理学 I		1	前期	1	30	講義
担当教員	高 尾 恭 一 [医学部 (生理学)]					
学習目的	看護は人を対象とします。対象とする人の体の正常な構造と機能を正しく理解できていれば、体に問題を起こしている人、すなわち患者さんの体の中でおきている問題点を的確に理解することができ、看護において注意を払わなければならないこともわかってきます。ですから、生理学の学習を通して、是非とも正常な人体に関する正しい知識を身に付けて下さい。 生理学では、人体の正常機能を二つの側面からとらえて学習していきます。一つは、心臓の動き、血液の循環、呼吸、栄養補給、排尿、内分泌など植物をも含めた生物として共通に持っている生命維持に必須な生理機能（植物性機能）です。もう一つは、動物だけが主として持っている、動くこと、感じること、考えることなどのもとになる神経、筋肉、感覚の機能（動物性機能）です。生理学 I では人の生命維持に必須な植物性機能を中心に学習します。 以下の学習内容は教科書の章立てに準じて記載してあります。講義の時間数とのかね合いから1回の講義内容はかなり多くなります。したがって、各章の最後にあるゼミナール（復習と課題）に沿って重要な点を説明しますので、他の部分は教科書を読んで自分で学習することを奨励します。その際、わからないことがあれば是非質問して下さい。					
到達目標	(1) 生理学を学ぶための基礎を説明できる。 (2) 消化機能と栄養の吸収機能の基礎を説明できる。 (3) 呼吸機能の基礎を説明できる。 (4) 血液の機能の基礎を説明できる。 (5) 血液循環の基礎を説明できる。 (6) 腎臓機能の基礎を説明できる。 (7) 体液調節の基礎を説明できる。 (8) 神経性調節と液性調節の基礎を説明できる。 (9) 免疫機能の基礎を説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。						

やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。		
準備学習	授業の予習・復習として，2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）（90%）および授業期間中に適宜行う小テスト（10%）の結果により総合的に評価する。	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院 目で見るからだのメカニズム 医学書院	
回数	授 業 内 容	担当者
1	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識（1）	高尾
2	第1章 解剖生理学を学ぶための基礎知識（2）	
3	第2章 栄養の消化と吸収（1）	
4	第2章 栄養の消化と吸収（2）	
5	第3章 呼吸と血液のはらき（1）	
6	第3章 呼吸と血液のはらき（2）	
7	第4章 血液の循環とその調節（1）	
8	第4章 血液の循環とその調節（2）	
9	第5章 体液の調節と尿の生成（1）	
10	第5章 体液の調節と尿の生成（2）	
11	第6章 内臓機能の調節（1）	
12	第6章 内臓機能の調節（2）	
13	第6章 内臓機能の調節（3）	
14	第9章 外部環境からの防御（1）	
15	第9章 外部環境からの防御（2）	

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
生理学Ⅱ		1	前期	1	15	講義
担当教員	高 尾 恭 一 〔医学部（生理学）〕					
学習目的	生理学では、人体の正常機能を二つの側面からとらえて学習していきます。一つは、人間が生きていくうえで不可欠な機能である、心臓の動き、血液の循環、呼吸、栄養補給、排尿、内分泌など植物をも含めた生物として共通に持っている生理機能（植物性功能とも呼ばれる）を、もう一つは、動物だけが主として持っている、動くこと、感じること、考えることなどのもとになる神経、筋肉、感覚の機能（動物性功能）です。これら正常機能の成り立ちが理解できれば、機能障害を示している人、すなわち患者さんですが、その患者さん（特に内科系の患者さん）を見たときに、たとえ病名がわからなくてもその患者さんの体の中でおきている問題点を的確に理解することができます。そして、その問題を理解できればどうしてそのような治療が行われているかも理解できるようになるし、実際に患者さんと接するにはどのような点に注意を払わなければならないかもわかってくると思います。ですから、生理学の学習を通して、是非正常人体機能の成り立ちに関する正しい知識を身に付けて下さい。 以下の学習予定は教科書の章に準じて記載してあります。講義の時間数とのかね合いから1回の講義内容は教科書ではかなりのページ数になりますので、授業時間内では教科書のすべてを説明することはできません。したがって、各章の最後にあるゼミナール（復習と課題）の内容に沿って重要な点を説明しますので、他の部分は教科書を読んで自分で学習することを奨励します。その際、わからないことがあれば是非質問して下さい。					
到達目標	（1）筋の収縮とその機構について説明できる。 （2）神経において活動電位の起こるしくみと、興奮の伝導について説明できる。 （3）脳や脊髄および関連する神経の機能について説明ができる。 （4）脳の高次機能について説明できる。 （5）運動機能と感覚機能について説明ができる。 （6）感覚器の構造と機能について説明ができる。 （7）生殖器の構造と機能、そして関連するホルモンについて説明できる。 （8）受精と胎児の発生、そして関連するホルモンについて説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観						
人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。						
健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力						
国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☐ 論理的・批判的思考力						
看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						

☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。		
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）90%，授業態度 10%	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学／医学書院	
回数	授 業 内 容	担当者
1	第7章 からだの支持と運動（1）	高尾
2	第7章 からだの支持と運動（2）	
3	第8章 情報の受容と処理（1）	
4	第8章 情報の受容と処理（2）	
5	第10章 発生・生殖と老化のしくみ（1）	
6	第10章 発生・生殖と老化のしくみ（2）	
7	まとめ	
8	終了試験・解説	

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能					R4 (2022) 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
生化学		1	前期	1	30	講義
担当教員	横 島 誠 [医学部 (生化学)]					
学習目的	生体を構成する細胞は、如何にしてエネルギーを獲得し活動しているのでしょうか。生体が必要とする物質を理解し、摂取された物質がどのように代謝され、利用されて行くのかを理解する。さらに、様々な疾患と代謝との関係を理解し、より良い看護実践に活かすことができる。					
到達目標	(1) 生体におけるエネルギー代謝について説明できる。 (2) 酵素の機能と調節について説明できる。 (3) 糖質・脂質・タンパク質の性質および代謝について説明できる。 (4) 核酸のはたらきについて説明できる。 (5) 体液・ホルモンのはたらき、恒常性の維持について説明できる。 (6) 消化・吸収と栄養管理について説明できる。 (7) 血液・尿・免疫のはたらきについて説明できる。 (8) 各臓器における主な疾患について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> ☒ 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

成績評価基準		評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）90% 課題提出等 10%
教科書		わかりやすい生化学ー疾病と代謝・栄養の理解のためにー／ヌーヴェルヒロカワ
回数	授 業 内 容	担当者
1	生体の成り立ちと生体分子 1) 生体の構造と機能 2) 生体を構成する物質 3) エネルギー代謝	槇島
2	タンパク質の性質，酵素の性質と働き 1) タンパク質の構造と性質 2) 酵素の役割，反応様式，活性の調節	
3	生体内における糖質の代謝 1) 糖質の種類と代謝 2) 血糖調節と糖尿病	
4	生体内における脂質の代謝 1) 脂質の種類とその特徴 2) 脂質の代謝 3) 脂質異常症	
5	生体内におけるアミノ酸およびタンパク質の代謝 1) アミノ酸の種類 2) アミノ酸およびタンパク質の代謝 3) アミノ酸およびタンパク質と疾患	
6	生体内における核酸の役割 1) 核酸の構造と機能 2) 転写・翻訳，DNAの複製 3) 遺伝子と疾患	
7	体液 1) 体液の組成 2) 電解質と酸・塩基平衡 3) 輸液の基礎	
8	ホルモン 1) ホルモンの種類と作用機序 2) 内分泌疾患	
9	内部環境の恒常性（ホメオスターシス） 1) 恒常性の調節機序 2) 恒常性の維持と疾患	
10	消化・吸収と栄養価，ビタミン 1) ビタミンの種類と作用 2) 消化・吸収の過程 3) 栄養の評価と静脈・経腸栄養	
11	血液の生化学 1) 血液成分とはたらき 2) 血液疾患	

12	尿 1) 腎臓の構造とはたらき 2) 腎機能検査と腎疾患	槇島
13	免疫 1) 免疫の種類とはたらき 2) 免疫反応と疾患	
14	各臓器の役割 1) 各臓器のはたらきと診療科 2) 各臓器における主な疾患	
15	終了試験・解説	

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
栄養学		1	後期	1	30	講義
担当教員	片 渕 剛 [医学部（生化学）] 亀 山 久美子 [板橋病院（栄養科）]					
学習目的	人間の生存にとって必須の食物を、健康・栄養の面から学習する。食物からの栄養素の消化・吸収から生体内での代謝とエネルギー産生について学習する。併せて妊娠・出生から老年までのライフステージにおける栄養と健康について学ぶ。さらに各種の疾病や障害における食事と栄養摂取との関係、病気治療や予防に関連する食事の問題や栄養療法など栄養学の臨床応用について学ぶ。					
到達目標	(1) わが国における食生活と栄養指針，日本人の栄養摂取基準について説明できる。 (2) 食物の消化吸収と，体内での栄養素の代謝における相互関連を説明できる。 (3) 妊産婦や乳幼児から老年期までのライフステージにおける栄養と健康について説明できる。 (4) 各種の疾病や障害における食事と栄養摂取との関係，食事療法の意義や注意点について説明できる。 (5) 経管栄養や静脈栄養の適応とその注意点について説明できる。 (6) 栄養状態を評価し，栄養指導及び保健指導を行える。 (7) 病院における実際の食事指導について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	授業の予習・復習として，2時間程度の自主学習が望まれる。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価	
	評価内容 終了試験（筆記）の結果を主とするが、状況に応じ出席数も考慮する。	
教科書	わかりやすい栄養学 第3版／ヌーヴェルヒロカワ	
参考書	系統看護学講座 専門基礎3 人体の構造と機能 [3] 栄養学／医学書院 新しい臨床栄養／南江堂 食事療法シリーズ／医歯薬出版 糖尿病食事療法のための食品交換表／文光堂 コンパクト生化学／南江堂 三訂 基礎栄養学／建帛社 など	
回数	授 業 内 容	担当者
1	栄養とはなにか・健康と栄養評価・看護と栄養 食生活の評価，栄養状態の評価方法の種類と特徴，栄養パラメーター，食文化と疾病の関連について理解する。	片渕
2	食物と栄養（Ⅰ） 栄養素の種類とその役割，糖質および脂質の栄養学について理解する。	
3	食物と栄養（Ⅱ） タンパク質，ビタミン，無機質の栄養学について理解する。	
4	食物と栄養（Ⅲ） 体内における各栄養素の代謝相関について理解する。	
5	日常生活と栄養（Ⅰ） 日常生活における健康と食事，日本の食生活と栄養指針について理解する。	
6	日常生活と栄養（Ⅱ） 日本人の食事摂取基準と現状の課題，スポーツやストレスと栄養の関連について理解する。	
7	ライフステージと栄養（Ⅰ） 妊産婦（母性）の栄養，乳幼児期，学童期における栄養について理解する。	
8	ライフステージと栄養（Ⅱ） 青少年期，成人期，老年期における栄養について理解する。	
9	疾病と栄養（Ⅰ） 代謝系・循環器系の障害と栄養について理解する。	
10	疾病と栄養（Ⅱ） 呼吸器・脳神経系の障害と栄養について理解する。	
11	栄養療法の種類と適応（Ⅰ） 代謝系・泌尿器・消化器系の障害と栄養について理解する。	
12	栄養療法の種類と適応（Ⅱ），栄養指導及び保健指導 経腸栄養と経静脈栄養の適用，経管栄養法について理解する。 在宅における経管栄養，高カロリー輸液療法について理解する。 栄養診断と栄養指導について理解する。 栄養学のまとめと演習	
13	ライフステージ別の食事について	亀山
14	疾患別の食事と栄養指導	
15	チーム医療（NST） 看護師の役割	

区 分	専門基礎分野 人体の構造と機能				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
生活と形態機能		2	前期	1	15	講義・演習
担当教員	小 倉 英 里 [看護専門学校]					
学習目的	人体の構造と機能の知識を生活者としての人間にあてはめ、どのようなからだの構造と機能を使って日常生活を営んでいるのかを知り、看護実践へつなげることができる。					
到達目標	1. 生命維持と生活行動について説明できる。 2. 生活行動としての「食べる」について説明できる。 3. 日常生活の中での「トイレに行く」行為一連の流れや行為の前提が説明できる。 4. 日常生活の中での「息をする」ことについて説明できる。 5. 動きのメカニズムと動くことの日常生活上の意味を説明できる。 6. 日常生活の中での「話す・聞く」について説明できる。 7. 現代人の暮らしを考え、健康問題を考えることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る						
☐ リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	授業の予習・復習として、1 時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 課題及びグループワークへの取り組み状況の総合評価		
教科書	菱沼典子：看護 形態機能学 第4版 生活行動からみになるからだ, 日本看護協会出版会, 2018.		
参考書	系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	何のための生活行動か 生きているとはどういうことか, 内部環境の恒常性, 生命維持と生活行動	講義 演習	小倉
2	「食べる」 食欲・食行動, 咀嚼・飲み込む, 消化・吸収		
3	「トイレに行く」 便を作る・便を出す, 尿を作る・尿を出す		
4	「息をする」 息を吸う・息を吐く・ガス交換		
5	「体を支える・動く」 運動を支える骨・筋肉・神経		
6	「話す・聞く」 声を出す, 聞く, 言葉		
7	外部環境とからだー人類発生時の環境と今		
8	終了試験・解説		

区 分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
薬理学		1	後期	1	30	講義
担当教員	酒 寄 朗 [非常勤講師]					
学習目的	疾患とその治療薬，その作用副作用，投与方法などを理解する。					
到達目標	1．薬物の体内での動態や効果を理解する。 2．代表的な疾患とその治療薬について理解する。 3．薬物投与時の副作用について理解する。 4．薬物に対する正しい知識を身につける。 5．国家試験の問題に対応できる最低限のレベルは確保する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 ＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 ＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。 ＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分 復習：30分～1時間					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100%	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学／医学書院	
参考書	看護学全書2，人体の構造と機能 生理学／メヂカルフレンド社	
回数	授 業 内 容	担当者
1	薬理学総論Ⅰ	酒寄
2	薬理学総論Ⅱ	
3	抗感染症（第1章）	
4	抗がん薬（第2章） 免疫治療薬（第3章）	
5	抗アレルギー薬・抗炎症薬（第4章）	
6	末梢での神経活動に作用する薬物（第5章）	
7	中枢神経系に作用する薬物(1) （第6章）	
8	中枢神経系に作用する薬物(2) （第6章）	
9	心臓・血管系に作用する薬物(1)（第7章）	
10	心臓・血管系に作用する薬物(2)（第7章）	
11	呼吸器・消化器・生殖器に作用する薬物 （第8章）	
12	物質代謝に作用する薬物（第9章）	
13	皮膚科用薬・眼科用薬（第10章） 救急の際に使用される薬物（第11章） 漢方薬（第12章）	
14	消毒薬（第13章）輸液製剤・輸血剤（付章） その他（付章）	
15	終了試験，解説	

区 分		専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R4（2022）年度		
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法		
病理学		1	前期	1	15	講義		
担当教員	羽 尾 裕 之 [医学部（病理学）] 辻 村 隆 介 [医学部（病理学）] 絹 川 典 子 [医学部（病理学）] 山 田 清 香 [医学部（病理学）] 宇 都 健 太 [医学部（病理学）] 中 西 陽 子 [医学部（病理学）] 谷 野 智 将 [医学部（病理学）]							
学習目的	病因と病変の特徴について理解する。							
到達目標	(1) 人体における病気の成立機序を簡単に述べることができる。 (2) 各臓器における病変の特徴について述べることができる。 (3) 主病変と二次的病変の因果関係について簡単に説明できる。							
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連								
<自ら学ぶ>								
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。								
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。								
<自ら考える>								
☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。								
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。								
<自ら道を開く>								
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。								
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。								
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。								
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。								

準備学習	授業の予習・復習として2時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法 評価内容	絶対評価 終了試験（筆記試験）	100%
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔1〕病理学／医学書院		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容		担当者
1	第1章 病理学で学ぶこと		羽尾
	付章 病理診断の実際		
2	第2章 細胞・組織の損傷と修復，炎症		谷野
3	第3章 免疫，移植と再生医療		山田
4	第4章 感染症		絹川
5	第5章 循環障害		宇都
	第6章 代謝障害		
6	第7章 老化と死		中西
	第8章 先天異常と遺伝性疾患		
7	第9章 腫瘍		辻村
	第10章 生活習慣と環境因子による生体の障害		
8	終了試験 解説		

区 分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
検査・治療論		1	後期	1	15	講義
担当教員	松 井 美 貴 [医学部（麻酔科）] 多 田 敬一郎 [医学部（乳腺内分泌外科）] 内 野 慶 人 [医学部（血液膠原病内科）] 兼任講師予定					
学習目的	1. 外科的治療における手術療法と麻酔の意義・特徴を知り，手術侵襲や生体反応が理解できる。 2. がん治療における化学療法・放射線療法の特徴や有害事象・副作用を理解する。 3. 放射線医学・臨床検査の検査の種類や特徴を理解する。					
到達目標	1. 麻酔・手術療法の意義や特徴が説明できる。 2. 麻酔の種類と術前から術後までの管理が説明できる。 3. 外科的治療の特徴と手術侵襲と生体反応が説明できる。 4. 化学療法の流れと実際が説明できる。 5. 抗がん剤の種類と副作用が説明できる。 6. 放射線医学の意義と画像診断の種類と特徴が説明できる。 7. がん治療における放射線療法の意義と特徴が説明できる。 8. 放射線療法の有害事象について説明できる。 9. 臨床検査の種類と目的が説明できる。 10. 臨床検査データの読み方が説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力						

多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。				
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。				
準備学習		毎回の授業の予習復習として,2～3時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準		評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験 100%		
教科書		系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学／医学書院 がん薬物療法看護ベスト・プラクティス 佐々木常雄（監修） 照林社		
参考書		系統看護学講座 別巻 臨床検査／医学書院		
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	【麻酔】	1. 手術における麻酔の必要性および重要性 2. 全身麻酔と局所麻酔 3. 脊椎麻酔と硬膜外麻酔 4. 術前・術中・術後の管理 呼吸管理・体液管理・栄養管理	講義	松井
2	【手術療法】	1. 外科的治療の特徴と変遷 2. 手術の基本手技と処置 3. 手術侵襲と生体反応 4. 術後合併症の発生機序 5. 外科学の進歩と今後	講義	多田
3	【化学療法】	1. がん化学療法の進め方 2. 抗悪性腫瘍薬の種類と特徴 3. 治療計画（レジメン） 4. 化学療法の副作用 5. 化学療法における連携と医療事故防止	講義	内野
4			講義	
5	【放射線療法・医学】	1. 放射線医学の成り立ちと意義 2. 画像診断 X線・CT・MRI・超音波検査・核医学検査・ IVR・血管造影 3. 放射線治療の基礎 4. 放射線治療の特徴と目的・照射の種類 5. 有害反応	講義	
6			講義	

7	【臨床検査】	1. 臨床検査の基礎 1) 診療における臨床検査の役割 2) 臨床検査の種類と目的 3) 臨床検査の進め方 2. 主な臨床検査 1) 一般検査 2) 血液学的検査 3) 生化学検査 4) 免疫・血清学検査 5) 内分泌学的検査 6) 微生物学的検査 7) 病理学的検査 8) 生体検査：生理機能検査 3. 臨床検査データの読み方	講義	
8		終了試験・解説		

区 分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R4 (2022) 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
病態生理学 I		1	後期	1	30	講義
担当教員	平 沼 久 人 [医学部 (呼吸器内科)] 長 澤 洋 介 [医学部 (血液膠原病内科)] 内 野 慶 人 [医学部 (血液膠原病内科)] 佐 藤 大 輔 [医学部 (呼吸器外科)]					
学習目的	呼吸器, アレルギー・膠原病, 血液疾患患者の病態生理, 検査, 治療について理解する。					
到達目標	1) 主な呼吸器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる 2) 主なアレルギー・膠原病疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる 3) 主な血液系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習		教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分		
成績評価基準		評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照		
教科書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学（2）呼吸器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（4）血液、造血器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（11）アレルギー・膠原病・感染症／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論／医学書院		
参考書		なし		
回数	授 業 内 容			担当者
1	【呼吸器内科】	基礎疾患	(1) 解剖生理 (2) 症状と病態生理 (3) 検査と介助	平沼
2		炎症性肺疾患	(1) かぜ症候群 (2) 急性気管支炎・インフルエンザ (3) 肺炎 (4) 肺結核 (5) 非定型抗酸菌症	
3		気道疾患	(1) 気管支喘息 (2) 慢性閉塞性肺疾患 (3) 気管支拡張症	
4		間質性肺疾患	(1) 特発性間質性肺炎 (2) 肺線維症 (3) 過敏性肺炎 (4) サルコイドーシス (5) 薬剤性肺炎 (6) 放射線肺炎	
5		胸膜疾患・腫瘍・その他	(1) 胸膜炎 (2) 肺腫瘍 (3) 過換気症候群 (4) 睡眠時無呼吸症候群 (5) 肺循環障害（肺血栓・塞栓症） (6) 無気肺	
6	【呼吸器外科】	解剖，術式，術後合併症と管理		佐藤
7		胸壁疾患，炎症性疾患，肺化膿症，肺結核，膿胸， 肺癌（原発性肺癌，転移性肺腫瘍）		
8		縦隔腫瘍，自然気胸，胸膜腫瘍，横隔膜ヘルニア，胸部外傷		
9	【免疫系】	免疫の基礎知識とアレルギー疾患	(1) 免疫 (2) 検査と診断 (3) 症状と病態	長澤

10	【免疫系】	膠原病総論	(1) 診断, 検査, 治療	長澤
		膠原病各論	(1) 関節リウマチ (2) 全身性エリテマトーデス	
11		膠原病各論	(3) 強皮症 (4) 多発筋炎・皮膚筋炎 (5) 血管炎症候群 (6) 混合性結合組織病	
12		膠原病各論	(7) 膠原病類縁疾患 (シェーングレン症候群, ベーチェット病, 血管炎症候群) (8) 後天性免疫不全症候群 (A I D S) と日和見感染	
13	【血液系】	血液成分の異常によっておこる病態生理, 腫瘍以外の血管疾患各論		内野
14		血液型と輸血, 輸血の種類と副作用, 血液系の腫瘍性疾患 (総論)		
15		血液系の腫瘍疾患 (各論) : 白血病, リンパ腫, 骨髄腫 血液疾患の治療薬, 骨髄移植		

区 分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
病態生理学Ⅱ		1	後期	1	30	講義
担当教員	依 田 俊 一 [医学部（循環器内科）] 瀬 在 明 [医学部（心臓血管外科）] 逸 見 聖一朗 [医学部（腎臓高血圧内分泌系内科）] 畑 中 善 成 [医学部（腎臓高血圧内分泌系内科）]					
学習目的	系統別疾患患者の病態生理，検査，治療について理解する。					
到達目標	1）主な循環器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる 2）主な腎臓疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる 3）主な内内分泌・代謝系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分			
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照			
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学（3）循環器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（8）腎・泌尿器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（6）内分泌・代謝／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論／医学書院			
参考書	なし			
回数	授 業 内 容		担当者	
1	【 循環器 】	心臓の解剖と生理	1) 心臓の大動脈・肺動脈・上下大静脈との位置関係を理解する。 2) 心膜, 心筋, 4つの弁の特性と収縮・拡張における心内循環を理解する。 3) 冠循環の特殊性を理解する。 (1) 解剖生理 (2) 症状と病態生理 (3) 検査と介助	依田
2		虚血性心疾患 (狭心症・心筋梗塞)	1) 冠動脈リスクファクターを理解する。 2) 発症機序を述べることができる（動脈硬化病変, 血小板機能亢進, 血栓形成）。 3) 症状の特徴と診断における心電図の有用性を理解する。 4) 急性冠症候群の診断法と治療法を理解する。 5) 心筋梗塞の部位別の特徴と合併症を理解する。	
3		心不全	心不全の以下の概要を理解する。 1) 分類：急性・慢性, 左心不全・右心不全, 収縮不全・拡張不全 2) 診断：症状の特徴, 血行動態の理解, 生化学的診断法 3) 原因疾患 4) 治療の進歩	
4		不整脈	1) 刺激伝導系の解剖と生理を理解する。 2) 徐脈性・頻脈性不整脈を理解し, 基本的な治療法を述べることができる。 3) 緊急性の高い不整脈を知り, それに対する適切な対応ができる。	
5		心筋症 心弁膜症	1) 大動脈弁・僧帽弁疾患の病態を理解する。 2) 肺動脈弁・3尖弁疾患の病態を理解する。 3) 狭窄性雑音と逆流性雑音の特徴を理解する。	

6	【心臓血管外科】	虚血性心疾患・心不全	瀬在
7		弁膜症	
8		血管疾患	
9	【腎系】	腎系の症状と病態生理	逸見
10		糸球体腎炎，ネフローゼ症候群	
11		腎不全，	
12		血液浄化法（透析） 腹膜透析	
13	【内分泌】	下垂体疾患・バセドウ病	畑中
14		甲状腺機能低下症，副甲状腺	
15		副腎皮質・副腎髄質・性腺疾患	

区 分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
病態生理学Ⅲ		1	後期	1	30	講義
担当教員	三 枝 太 郎 [医学部（糖尿病内科）] 増 崎 亮 太 [医学部（消化器肝臓内科）] 今 武 和 弘 [医学部（消化器肝臓内科）] 吉 田 直 [医学部（消化器外科）] 青 木 優 [医学部（消化器外科）] 五十嵐 雅 仁 [医学部（消化器外科）] 阿 部 成 宏 [医学部（歯科・口腔外科学）] 北 野 尚 孝 [医学部（歯科・口腔外科学）]					
学習目的	系統別疾患患者の病態生理，検査，治療について理解する。					
到達目標	1）糖・代謝系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる 2）主な消化器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる 3）主な歯疾患疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照		
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（5）消化器医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（15）歯・口腔／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論／医学書院		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容		担当者
1	【内 分泌 系】 代謝系	下垂体疾患、バセドウ病 甲状腺機能低下症、副甲状腺	三枝
2		副腎皮質、副腎髄質、性腺疾患 糖尿病、高尿酸血症、痛風、脂質異常、栄養、代謝	
3	【消化 器内 科】	肝の解剖、機能、肝疾患の症候、肝機能検査	増崎
4		肝機能検査、肝炎、肝硬変、肝癌	
5		胆石、胆のう炎、胆管炎、胆のう癌、膵炎、膵癌	
6		症候	今武
7		診察と検査	
8		胃・十二指腸潰瘍、潰瘍性大腸炎、クローン	
9	【消化 器外 科】	(1)外科的解剖 (2)消化器の働き	吉田
10		(1)胃・十二指腸潰瘍（手術適応） (2)胃癌	青木
11		(1)食道癌 (2)大腸癌 (3)急性虫垂炎	
12	【消化 器外 科】	(1)肝疾患 (2)膵疾患 (3)胆道疾患	三塚
13			
14	【歯 科】	う歯、歯周炎、口腔ケア	阿部
15		菌性感染症、腫瘍、嚢胞、変形症、骨折	北野

区 分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
病態生理学Ⅳ		2	前期	1	30	講義
担当教員	小 川 克 彦 [医学部（神経内科）] 四 條 克 倫 [医学部（脳神経外科）] 穂 坂 邦 弘 [非常勤講師] 大 幸 英 至 [医学部（整形外科）] 山 口 智 大 [理学療法室]					
学習目的	系統別疾患患者の病態生理，検査，治療について理解する。					
到達目標	1）主な脳・神経疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる 2）主な運動器疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる 3）理学療法の意義や特徴について説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分					

成績評価基準		評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照		
教科書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学（7）脳・神経／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（10）運動器疾患／医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護各論／医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護／医学書院		
参考書		なし		
回数	授 業 内 容			担当者
1	【脳神経・神経内科】	脳・神経学の構造と機能		小川
2		脳波，筋電図，腰椎穿刺，頭痛，てんかん		
3		脳梗塞，脳血管性認知症，頸椎症，後縦靱帯骨化症		
4		パーキンソン病，多発性硬化症，ギランバレー症候群，重症筋無力症		
5	【脳神経外科】	神経症候・脳血管障害（脳梗塞以外）		四條
6		脳腫瘍，頭部外傷，先天奇形等		
7	【運動器系】	診察・検査		大幸
8		治療処置		
9		外傷（骨折）		穂坂
10		R A		
11		下肢人工関節		
12		脊椎疾患 骨軟部腫瘍 絞扼性神経障害 など		
13	【理学療法】	リハビリテーションの歴史，基礎運動学，関節可動域， Human's Natural Action		山口
14		各論：脳卒中，運動器，心臓リハビリテーション		
15				

区 分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
病態生理学Ⅴ		2	後期	1	30	講義
担当教員	藤 澤 大 輔 [医学部（皮膚科）] 松 浦 大 輔 [医学部（皮膚科）] 河 野 通 輝 [医学部（眼科）] 栗 田 淳 貴 [医学部（眼科）] 木 村 優 介 [医学部（耳鼻咽喉・頭頸外科）] 大日方 大 亮 [医学部（泌尿器科）] 梶 田 賢 司 [医学部（産婦人科）] 多 田 敬一郎 [医学部（乳腺内分泌外科）]					
学習目的	系統別疾患患者の病態生理，検査，治療について理解する。					
到達目標	(1) 主な感覚器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 (2) 主な泌尿器系疾患の病態生理・症状・治療・検査について説明できる。 (3) 主な女性生殖器系疾患の病態生理学・症状・治療・検査について説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に望むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100% ※各講師の評価割合は、評価一覧表を参照		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学（12）皮膚／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（13）眼／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（14）耳鼻咽喉／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（8）腎・泌尿器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学（9）女性生殖器／医学書院		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容		担当者
1	【皮膚】	熱傷、湿疹、じん麻疹	藤澤
2	【皮膚】	皮膚感染症	松浦
3		(1)基礎知識 解剖生理	栗田
4	【眼科】	(2)疾患の理解 ・眼瞼、結膜の疾患 ・角膜の疾患 ・ぶどう膜、眼底の疾患 ・白内障、緑内障 ・屈折の異常	河野
5	【耳鼻咽喉】	耳の解剖・生理，疾患	木村
6	【耳鼻咽喉】	鼻・副鼻腔の解剖・生理，疾患	
7	【耳鼻咽喉】	口腔・咽頭・喉頭の解剖・生理，疾患	
8	【泌尿器・男性生殖器】	総論 ・腎・泌尿器の構造と機能 ・泌尿器科疾患の症状とその病態生理 ・泌尿器科における診察と検査	大日方
9		各論 ・尿路・性器感染症 ・尿路通過障害と機能障害：前立腺肥大症、尿失禁など ・尿路損傷・異物各論	
10		各論 ・尿路結石症 ・尿路・性器腫瘍：腎腫瘍、尿路上皮腫瘍、前立腺癌、精巣腫瘍など ・発生・発育の異常	

11	【女性生殖器系】	(1) 患者の理解，看護の目的と役割 (2) 女性生殖器の解剖と性機能の生理 (3) 婦人科疾患の症状と病態生理	梶田
12		(1) 診療・検査 理学的検査，病理検査，血液検査，画像検査，内視鏡検査 (2) 治療・処置 診療・治療器具，薬物療法，手術	
13	【女性生殖器系】	疾患の理解① 外陰、膣、子宮、卵管、卵巣の疾患	梶田
14		疾患の理解② 月経異常、更年期障害、感染症、不妊症	
15		疾患の理解③ 乳癌	多田

区 分	専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
微生物学		1	前期	1	30	講義
担当教員	早 川 智 [医学部（微生物学分野）] 相 澤 志保子 [医学部（微生物学分野）] トリン・ズイ・クワン [医学部（微生物学分野）] 高 田 和 秀 [医学部（微生物学分野）] 高 野 智 圭 [医学部（微生物学分野）]					
学習目的	微生物とヒトとの関係を理解し、将来c o - m e d i c a l s t a f fとして医療の現場を支えるのに必要な微生物学の知識を習得する。					
到達目標	感染症の予防と治療について説明し、実践できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
<自ら学ぶ> ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	教科書にない内容を講義するので、教科書の記載事項を予め理解しておくこと。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記） 100 %		
教科書	新体系看護学 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕微生物・感染防御学／メディカルフレンド社		
参考書	標準微生物学 / 医学書院 イラストレテッド免疫学 / 丸善 ナースのための微生物学／水口康雄・中山宏明・南鴨洋一著／南山堂 メモリーノートー看護・微生物学ー／中野壽夫著／廣川書店 クイックマスター 微生物学／奥脇義行・高橋信二著／医学芸術社 標準看護学講座7 病原微生物学／横田健著／金原出版		
回数	授 業 内 容		担当者
1	【微生物学序論】	(1) 感染症の重要性を理解する。 (2) 微生物の種類と特徴について説明できる。 (3) 感染と感染症について説明できる。 (4) 感染・発病を規定する因子について説明できる。 (5) 感染と感染経路について説明できる。 (6) 病原因子について説明できる。 (7) 生体防御因子について説明できる。 (8) 常在細菌叢について説明できる。	早川
2	【免疫学】	免疫応答の基礎 (1) 1次応答と2次応答について説明できる。 (2) 抗原について説明できる。 (3) 免疫不全症候群について説明できる。 (4) 抗体について説明できる。 (5) 補体について説明できる。 (6) 抗原抗体反応について説明できる。 (7) 細胞性免疫と液体性免疫について説明できる。 (8) 移植免疫と腫瘍免疫について説明できる。	
3		感染防御免疫と免疫病 (1) 感染防御免疫について説明できる。 (2) 予防接種について説明ができる。 (3) 血清療法および免疫グロブリンについて説明できる。 (4) 過敏症について説明できる。 (5) 自己免疫疾患について説明できる。	
4	【細菌学】	【細菌学】 細菌の基本的性質 (1) 細菌の大きさ、形、3次元配列について説明できる。 (2) 染色性について説明できる。 (3) 菌体の構造について説明できる。 (4) 菌体の科学組成について説明できる。 (5) 増殖の物理的・化学的環境について説明できる。 (6) 増殖に要求される因子と物質代謝について説明できる。	高野

5	【細菌学】	感染症の予防と細菌学的検査法 (1) 感染症に対する対応の仕方を説明できる。 (2) 感染経路の処置について説明できる。 (3) 個人的予防対策法について説明できる。 (4) 集団的予防対策について説明できる。 (5) 院内感染とその予防法について説明できる。 (6) 感染症監視法について説明できる。 (7) 顕微鏡を用いた細菌観察法について説明できる。 (8) 細菌培養法について説明できる。 (9) 細菌の単離と同定法について説明できる。 (10) 微生物の保存法について説明できる。	高野
6		グラム陽性菌 (1) グラム陽性菌が引き起こす疾患名を述べることができる。 (2) グラム陽性菌の細菌学的な特徴を述べることができる。 (3) グラム陽性菌が増殖する培地名を述べることができる。 (4) グラム陽性菌検査法について述べることができる。	相澤
7		グラム陰性菌 (1) グラム陰性菌が引き起こす疾患名を述べることができる。 (2) グラム陰性菌の細菌学的な特徴を述べることができる。 (3) グラム陰性菌が増殖する培地名を述べることができる。 (4) グラム陰性菌検査法について述べることができる。	
8		リケッチアとクラミジア (1) リケッチアが引き起こす疾患名を述べることができる。 (2) リケッチアの細菌学的な特徴を述べることができる。 (3) リケッチアが増殖する培地名を述べることができる。 (4) リケッチア検査法について述べることができる。 (5) クラミジアが引き起こす疾患名を述べることができる。 (6) クラミジアの細菌学的な特徴を述べることができる。 (7) クラミジアが増殖する培地名を述べることができる。 (8) クラミジア検査法について述べることができる。	
9	【ウイルス学】	ウイルスの性質 (1) ウイルスの特性と定義について説明できる。 (2) ウイルスの構造について説明できる。 (3) ウイルスの増殖機構について説明できる。 (4) ウイルスの分類について説明できる。	高田
10		DNAウイルスとその感染 (1) DNAウイルスが引き起こす疾患名を述べることができる。 (2) DNAウイルスの特徴を述べることができる。	
11		RNAウイルスとその感染 (1) RNAウイルスが引き起こす疾患名を述べることができる。 (2) RNAウイルスの特徴を述べることができる。	
12	【真菌学】	真菌とその感染 (1) 細菌と真菌の違いについて説明できる。 (2) 真菌の形態について説明できる。 (3) 真菌の培養について説明できる。 (4) 真菌の病原性について説明できる。 (5) 真菌の化学療法薬について説明できる。 (6) 真菌の分類法について説明できる。 (7) 下記に属する真菌と引き起こす疾患について説明できる。	トリン・ズイ・クアン

13	【原虫学】	原虫とその感染 (1) 原虫の形態について説明できる。 (2) 原虫の病原性について説明できる。 (3) 原虫の化学療法薬について説明できる。 (4) 原虫の分類法について説明できる。 (5) 原虫の引き起こす疾患について説明できる。	トリン・ズイ・クアン
14	【感染防御学】	菌消毒と化学療法 (1) 滅菌と消毒の違いを説明できる。 (2) 代表的な滅菌法を説明できる。 (3) 消毒法と消毒薬について説明できる。 (4) 消毒薬の効果判定法を説明できる。 (5) 抗細菌性化学療法薬と抗生物質について説明できる。 (6) 抗真菌性化学療法薬と抗生物質について説明できる。 (7) 抗ウイルス性化学療法薬について説明できる。 (8) 薬剤感受性試験について説明できる。 (9) 抗菌スペクトルについて説明できる。 (10) 薬剤耐性菌について説明できる。	高野
15	終了試験および解説		早川

区 分		専門基礎分野 健康支援と社会保障制度				R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
医療概論		1	前期	1	30	講 義
担当教員	石 原 寿 光 [医学部（糖尿病代謝内科）] 前 田 幸 宏 [医学部（医療管理学）] 間 勝 人 [板橋病院（薬剤部）] 野 村 浩 明 [板橋病院（医療福祉相談室）] [板橋病院（理学療法室）] 木 根 久 江 [看護専門学校]					
学習目的	医療の発達、医療体系と機能等を理解し、医学がどのような社会的期待を担っているかについて認識を深める。					
到達目標	(1) 医学・医療の関係と、医療の発展の過程を述べることができる (2) 健康・医療・介護を取り巻く社会環境の変化について述べることができる。 (3) 医の倫理のあり方について述べることができる。 (4) 医療の現状と課題について自分の考えを述べることができる。 (5) 医療を担う専門職としての役割、連携・協働の必要性について述べることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	教科書・配布される資料等を予習し疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 予習：30分～1時間 復習：30分					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 演習における取り組み、最終課題を総合的に評価する		
教科書	学生のための医療概論第4版 医学書院 適時資料配布		
参考書	系統看護学講座、専門基礎分野 医療概論／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔1〕看護学概論／医学書院		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	医療は誰のものか（第1章）	講義	石原
2	健康とは何か（第2章）	講義	
3	健康とは何か（第2章）	講義	
4	医療がたどってきた道と未来への展望（第3章）	講義	
5	医療がたどってきた道と未来への展望（第3章）	講義	
6	医療システムの理解（第4章）	講義	前田
7	医療システムの理解（第4章）	講義	前田
8	チーム医療の概念、チーム医療に関わる専門職とそれぞれの資格・役割、職種の機能	講義	木根
9	医療における多職種連携 医学部・薬学部・看護専門学校 合同講義①	講義 演習	医学部教員 看護学校 教員
10	医療における多職種連携 医学部・薬学部・看護専門学校 合同講義②	講義 演習	
11	実際の医療現場で活躍している講師によるチーム医療における 現場の注意点や他職種とのコミュニケーション手段など ①薬剤師	講義	間
12	②理学療法士・作業療法士	講義	
13	③社会福祉士	講義	野村
14	チーム医療実践に必要な相互関係と連携、チーム医療に必要な スキル	講義	石原
15	終了試験・解説		木根

区 分	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
公衆衛生学		1	後期	2	30	講義
担当教員	兼 板 佳 孝 [医学部（公衆衛生学）] 松 本 悠 貴 [医学部（公衆衛生学）] 大 塚 雄一郎 [医学部（公衆衛生学）] 中 込 祥 [医学部（公衆衛生学）] 岩 崎 賢 一 [医学部（衛生学）] 鈴 木 健 修 [非常勤講師] 城 戸 尚 治 [非常勤講師] 森 岡 久 尚 [非常勤講師]					
学習目的	保健・医療・福祉従事者として臨床的及び社会的活動を行ううえで必要な下記の点について，それぞれの意義と内容を理解する。 (1)公衆衛生論・衛生統計 (2)疫学“スクリーニング検査”・統計・健康教育 (3)親子保健，成人・老人保健 (4)感染症対策・産業保健 (5)学校保健・環境保健					
到達目標	(1)公衆衛生の概念及び歴史を理解する。 (2)現在の日本及び世界の各種統計指標を比較する。 (3)疫学の手法を理解し，実際の研究に応用する。 (4)感染症の概念を理解し，各種伝染病における対処法を理解する。 (5)労働安全衛生法を中心として職域における健康管理の法的根拠・産業保健・産業医学について理解する。 (6)日本における生活習慣病の実態を把握し，生活習慣病予防のリスクファクターを理解する。 (7)学校保健法を中心として学校における健康管理状況，学校伝染病，学校環境について理解する。 (8)快適な生活環境の維持の面から，空気，温度，照度，上下水道，廃棄物について理解する。 (9)第1次予防の観点から健康教育の概念を理解する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						

☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。		
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。		
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。		
準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）を主な評価対象とするが、出席状況・学習態度などを総合的に判断する	
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生/医学書院 国民衛生の動向/厚生統計協会	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	序章・1章 公衆衛生を学ぶにあたって・公衆エッセンス (1) 公衆衛生学の重要性を学ぶ	兼板
2	人口と公衆衛生、衛生統計 (1) 衛生統計の資料から世界・日本の現状を学ぶ (2) 有病率、罹患率、平均寿命、平均余命、健康寿命を学ぶ	中込
3	第3章 公衆衛生のしくみ (1) 公衆衛生のしくみを理解する (2) 医療計画、健康日本21、健やか親子21を学ぶ (3) 国と地方公共団体、保健所、市町村保健センターなどを学ぶ	松本
4	第4章 集団の健康をとらえるための手法―疫学・保健統計 (1) 疫学について理解する (2) 有病率、罹患率、平均寿命、平均余命、健康寿命を学ぶ (3) 公衆衛生学の場合での疫学などを学ぶ	
5	第5章 環境と健康 (1) 地球規模の環境と健康として環境汚染とその健康被害を学ぶ (2) 身の回りの環境と健康として室内環境とその健康被害を学ぶ (3) 食品管理、食品安全確保対策を学ぶ (4) 家庭用品の安全対策、ごみ・廃棄物問題、バリアフリーなどを学ぶ	岩崎
6	第8章B 地域における公衆衛生の実践・母子保健① (1) 母子保健について理解する (2) 母子保健統計、母子保健の変遷を学ぶ (3) 母子保健の活動、しくみなどを学ぶ	森岡
7	第8章B 地域における公衆衛生の実践・母子保健② (1) 母体保護、育児支援、児童虐待防止のための活動を学ぶ (2) その他の母子保健活動などを学ぶ	

8	第9章 学校と健康 (1) 学校保健について理解する (2) 健康課題を学ぶ (3) 健康診断, 学校感染症などを学ぶ	大塚
9	第8章C, D 地域における公衆衛生の実践 成人保健・高齢者保健① (1) 成人保健について理解する (2) 疾病予防, ヘルスプロモーションを学ぶ (3) 生活習慣病対策, がん対策, 健康教育などについて学ぶ	中込
10	第8章C, D 地域における公衆衛生の実践 成人保健・高齢者保健② (1) 高齢者保健について理解する (2) 高齢者保健の制度や課題などを学ぶ	
11	第6章 感染症とその予防対策 (1) 感染症法とその予防対策について学ぶ (2) 院内感染とその対策を学ぶ (3) 公衆衛生上の重要な感染症などを学ぶ	鈴木
12	第7章 国際保健 (1) 国際保健について理解する (2) 国際保健に関する組織を学ぶ (3) 国際保健と日本などについて学ぶ	
13	第8章E, G 地域保健 精神保健・障害者保健・難病保健 (1) 精神保健について理解する (2) 制度や精神障害者の医療などを学ぶ (3) 難病支援・障害者支援などを学ぶ	大塚
14	第10章・11章 職場と健康 健康危機管理・災害保健① (1) 産業保健について理解する (2) 労働者の健康問題と労働関連法規の変遷を学ぶ (3) 労働安全衛生法に基づく健康管理などを学ぶ	城戸
15	第10章・11章 職場と健康 健康危機管理・災害保健② (1) 産業保健活動と今後の課題を学ぶ (2) 健康危機管理, 災害保健などを学ぶ	

※順序は変更する場合があります。

区 分	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
社会福祉 （社会福祉・社会保障）		2	前期	2	30	講義
担当教員	小 櫃 俊 介 [非常勤講師] 野 村 浩 明 [板橋病院（医療福祉相談室）] 柏 優 香 [板橋病院（医療福祉相談室）]					
学習目的	社会福祉・社会保障の基本、制度、分野とサービス、実践、医療・看護、歴史について、全般に渡り理解する。					
到達目標	（１）社会福祉の成り立ちとその理由を理解する （２）社会の変化と課題からみる社会福祉を理解する （３）社会福祉の全体像を理解する （４）社会福祉の対象者を理解する （５）保健、医療、社会福祉の相互性を理解する （６）社会福祉と看護師の役割を理解する （７）今後の社会福祉と専門性を考える （８）社会福祉を理解し、看護との関連について理解を深める。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	予習30分 復習30分とする。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）・授業態度・レポート等により、総合的に評価する。	
教科書	ナーシング・グラフィカ 健康支援と社会保障(3)：社会福祉と社会保障 メディカ出版	
参考書	授業資料は、随時配付いたします。	
回数	授 業 内 容	担当者
1	社会福祉の概要	小 櫃
2	社会福祉の成り立ち 英国の生活課題	
3	社会福祉の変遷 英国の支援・米国の社会福祉	
4	日本の社会福祉の歴史	
5	現在社会と社会福祉の対象	
6	児童・家族と社会福祉	
7	障害者と社会福祉 ノーマライゼーション	
8	高齢者と社会福祉 地域包括ケアシステム 介護保険等	
9	貧困と社会福祉	
10	社会福祉の諸制度	
11	社会福祉の動向 など	
12	まとめ	
13	(1) 対人援助の学問としての社会福祉について理解する。 「対人援助とは何か」という学習を通じて科学としての社会福祉を理解する。また、看護も対人援助の学問であることを理解する。 (2) ソーシャルケースワークの技法について学ぶ。 バイステックのケースワークの七原則を通じて「個」としての人間について理解する。	野村
14	(3) 医療・看護を受ける人びとの生活問題について理解する。 「病い」とともにある患者・家族について理解する。 (4) 医療におけるソーシャルワーカーの役割と業務について学習し、チーム医療についての理解を深める。	
15	(5) 看護職の専門職化の歩みに触れながらMSWが看護とどう連携して動いているか事例を通して学習する。	柏

*授業の進度をふくめ、状況により、内容が変わる事があります。

区 分	専門基礎分野 健康支援と社会保障制度					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
関係法規		2	前期	2	15	講義
担当教員	井 谷 修 [医学部（公衆衛生学）] 松 本 悠 貴 [医学部（公衆衛生学）] 大 塚 雄一郎 [医学部（公衆衛生学）] 小 川 洋二郎 [医学部（衛生学）] 鈴 木 健 修 [非常勤講師] 城 戸 尚 治 [非常勤講師] 須 賀 雅 彦 [非常勤講師] 勝 木 美佐子 [非常勤講師]					
学習目的	1）医療従事者として業務を行う上で必要とされる法令・法規について理解する。 2）公衆衛生を法令・法規体系毎に整理し再度学習するor復習する。					
到達目標	(1)わが国の衛生行政組織及び法体系を理解する。 (2)医療衛生法規において医療職の関連する法規を、保健師助産師看護師法を中心に理解する。 (3)医療施設法規及び業務法規について理解する。 (4)公衆衛生法規においては保健衛生法規を中心に予防衛生法規，環境衛生法規を加えて理解する。 (5)年齢の推移に合わせて，親子保健，学校保健，成人・老人保健，産業保健，社会保障社会福祉（介護保険制度）に関連した法規を理解する。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）を主な評価対象とするが、出席状況・学習態度などを総合的に判断する。	
教科書	ナシング・グラフィック 健康支援と社会保障④看護をめぐる法と制度 メディカ出版	
参考書	なし	
回数	授 業 内 容	担当者
1	関係法規 序論 (1) 法体系について理解する	井 谷
2	保健衛生法規 (1) 地域保健法、健康増進法などを学ぶ	松 本
	予防衛生法規 (1) 感染症法、予防接種法などを学ぶ	
3	環境衛生法規 (1) 食品衛生法を学ぶ (2) 水道法、下予防衛生法規 (3) 環境基本法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法などを学ぶ	小 川
	学校保健法規 (1) 学校保健安全法などを学ぶ	城 戸
4	社会保障関係法規 (1) 健康保険、国民健康保険法 (2) 障害者基本法、障害者総合支援法、難病法などを学ぶ	鈴 木
	社会福祉衛生法規 (1) 社会福祉法、生活保護法などを学ぶ	
5	医務衛生法規① (1) 保健師助産師看護師法、医師法などを学ぶ社会福祉衛生法規	須 賀
	医務衛生法規② (1) 医療法、臓器移植法などを学ぶ	
6	精神保健 (1) 精神保健福祉法、精神保健福祉士法などを学ぶ	松 本
	薬務衛生法規 (1) 医薬品医療機器等法、麻薬取締法などを学ぶ	大 塚
	母子保健関係法規 (1) 母子保健法、母体保護法などを学ぶ	松 本
	老人保健関係法規 (1) 老人福祉法、介護保険法、高齢者虐待防止法などを学ぶ	
7	労働衛生法規① (1) 労働基準法、労働安全衛生法 (2) 労災保険法などを学ぶ	勝 木
	労働衛生法規② (1) 男女雇用機会均等法 (2) 育児介護休業法、看護師等人材確保法などを学ぶ	勝 木
8	終了試験・解説	

※順序は変更する場合があります。

專門分野

基礎看護学

看護の対象の理解，人間のライフサイクルにおける健康の意義，保健医療福祉における看護の機能と役割について理解する。また看護実践の基礎となる知識，技術，態度を習得する。

これらの学びは各領域で活用され深められていく。

区 分	専門分野				R 4 （ 2 0 2 2 ） 年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
基礎看護学 看護学概論 I		1	前期	1	30	講義・演習・校外実習
担当教員	大 橋 初 枝 [看護専門学校]					
学習目的	看護とは何か、看護の基本となる概念・看護の役割について学ぶ。 看護活動の実際を見学し、看護への学習意欲を図ると共に関心を高める					
到達目標	(1) 看護の本質について説明できる。 (2) 看護技術の特性について説明できる。 (3) 看護の歴史的変遷を知り、看護職の社会的位置づけについて説明できる。 (4) 看護の主要概念（人間・健康・環境・看護）を説明できる。 (5) 看護の役割と機能について説明できる。 (6) チーム医療に携わるさまざまな職種と看護の役割が説明できる。 (7) 看護活動の実際を見学し、入院患者の生活環境と看護師の役割について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						

☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。			
準備学習	授業の予習・復習として，1時間程度の自主学習をし，授業に臨む。 病院見学実習については，見学実習前後の課題に取り組み参加する。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）80％ レポート課題：20％		
教科書	系統看護学講座，専門分野，看護学概論，基礎看護学①／医学書院 系統看護学講座，専門分野，基礎看護学〔2〕，基礎看護学技術Ⅰ／医学書院 フロレンス・ナイチンゲール著，湯楨ます他訳：看護覚え書，改訳第6版／現代社 ヴァージニア・ヘンダーソン著，湯楨ます他訳：看護の基本となるもの／日本看護協会出版 星野富弘著：愛，深き淵より。新版／立風書房		
参考書	適時提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1．看護と看護学	講義	大橋
2	2．看護技術とは 1) 看護技術とは何か 2) 技術と技能の関連	講義	
3			
4	3．看護の歴史的変遷 1) 職業的看護の芽生え，看護職の変遷 2) 第二次世界大戦以降の日本の看護 3) 看護教育の動向	講義	
5	4．看護の対象の理解 5．看護の主要概念：「人間」「健康」「環境」「看護」 1) G・W学習 テーマ：看護の主要概念を理解する。	演習	
6			
7			
8	2) G・Wの発表：看護学の主要概念	演習	
9	6．看護の役割と機能 1) 看護ケア 2) 看護実践とその質保証に必要な要件 ①看護過程 ②クリティカルシンキング ③EBN ④看護研究	講義	
10			
11	7．保健・医療・福祉システムチーム医療における看護の役割	講義	
12	8．病院見学実習 目的 ①入院患者と入院生活環境について理解する。 ②看護活動の実際について理解する。	校外実習	
13			
14			
15	9．病院見学実習のまとめ G・W／発表	演習	

区 分	専門分野					R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
基礎看護学 看護学概論Ⅱ		1	後期	1	15	講義・演習
担当教員	大 橋 初 枝 〔看護専門学校〕					
学習目的	看護倫理・看護と法律・看護理論を学び、社会の中での看護の位置づけや役割を理解する					
到達目標	（１）看護実践に必要な保健師助産師看護師法について説明できる。 （２）看護の専門職化への動向を学び、看護独自の役割を説明できる。 （３）看護実践における倫理的判断に必要な基礎的な判断基準について説明できる。 （４）実践科学としての看護に必要な看護理論について説明できる。 （５）看護を取り巻く社会的な動向を学び、これからの看護を考えることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習		授業の予習・復習として、1時間程度の自主学習をし、授業に臨む。 4回～6回の看護理論については、事前課題に取り組み参加する。		
成績評価基準		評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）80％ レポート課題・演習への取り組み：20％		
教科書		系統看護学講座，専門分野，看護学概論，基礎看護学①／医学書院 城ヶ端初子：やさしい看護理論，改定2版，職場で活かせるベースの考え方／メデイカ出版 東京都医科大学看護専門学校著：よくわかる看護者の倫理綱領／照林社		
参考書		適時提示		
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	1．看護と法 1) 保健師助産師看護師法 2．看護の専門職化		講義	大橋
2	3．看護における倫理 1) 看護師の倫理規定・倫理綱領 2) 患者の権利		講義	
3	3) 倫理的判断に必要な判断基準 ①臨床看護の場で生じやすい倫理的な問題		講義	
4	4．看護理論 1) 看護理論の意義と活用 ①ナイチンゲール②ヘンダーソン ③オレム④ロイ⑤ベナー		講義	
5	2) 看護理論GW：ヘンダーソンのニード論を理解する。		演習	
6				
7	5．看護提供のしくみ 1) 看護の提供の場 2) 看護をめぐる制度と政策 3) 看護サービスの管理 6．これからの看護の課題と展望		講義	
8	終了試験・解説			

区 分		専門分野				R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
看護の基本となる技術Ⅰ		1	前期	1	30	講義 校内実習
担当教員	武 本 亜 紀 [看護専門学校] 正 路 裕 子 [看護専門学校] 平 野 裕 子 [看護専門学校]					
学習目的	看護に共通する基本的な看護技術である，安全・安楽，感染予防，コミュニケーションの基礎的な知識，技術を習得する。					
到達目標	1．看護における安全・安楽の目的を理解し，その方法を実施できる。 2．感染予防の基本的な知識を理解し，スタンダードプリコーションを実施できる。 3．看護におけるコミュニケーションの目的と基本的な技法が説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	1. 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。 1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学などの学習をする。 2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。 2. 教科書・配布される資料を予習し、疑問を明らかにして授業に臨むこと。			
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験及び演習・校内実習の取り組みなど総合的に評価する。(100%) ※評価割合は、各講師から開講時に明示される			
教科書	系統看護学講座, 専門分野 基礎看護学[2], 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座, 専門分野 基礎看護学[3], 基礎看護技術Ⅱ／医学書院 看護技術ベーシックス／サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス／インターメディカ			
参考書	適宜提示			
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	安全・安楽	看護における安全・安楽の意義と看護師の役割	講義	武本
2		看護における安全・安楽に影響を及ぼす要因	講義	
3		安全安楽をもたらす援助(1)	講義	
4		安全安楽をもたらす援助(2)	講義	
5	感染予防	感染防止の基礎知識	講義	正路
6		標準予防策と感染経路別予防策	講義	
7		感染防止の実際	校内実習	
8		洗浄・滅菌・消毒	講義	
9		無菌操作	講義	
10		無菌操作の実際	校内実習	
11		感染性廃棄物の取り扱い	講義	
12	コミュニケーション	コミュニケーションの意義と目的	講義	平野
13		関係構築のためのコミュニケーション	講義	
14		効果的なコミュニケーションの実際	講義	
15		看護に必要なコミュニケーション技術	講義	

区 分	専門分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
看護の基本となる技術Ⅱ		1	後期	1	30	講義 校内実習
担当教員		武 本 亜 紀 [看護専門学校]				
学習目的		ヘルスアセスメントでは、フィジカルイグザミネーションやバイタルサイン測定などの技術的側面からの情報だけではなく、患者を心理社会的側面も含め全人的にとらえ健康状態を査定・事前評価する能力、判断力が求められる。よって講義および演習を組み合わせることで、フィジカルアセスメントの基礎知識・技術を学び、アセスメント能力を高め、対象者の理解、臨床実践につなげられることを目的としている。				
到達目標		1. ヘルスアセスメントの概念と意義について説明できる 2. ヘルスアセスメントに必要な基礎的知識・技術・態度について説明できる 3. 対象の生理的な健康状態をアセスメントするための視点と方法について説明できる 4. 対象の心理社会的な健康状態をアセスメントするための視点と方法について説明できる 5. 看護者としてふさわしい態度でヘルスアセスメントを正確に実施できる 6. 看護の視点から、得られた情報の分析・解釈が行え、正しい用語を用いて表現できる				
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	1. 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。 1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学などの学習をする。 2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。 2. 教科書・配布される資料を予習し、疑問を明らかにして授業に臨むこと。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）80% 技術試験20%		
教科書	系統看護学講座、専門分野 基礎看護学[2], 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座、専門分野 基礎看護学[3], 基礎看護技術Ⅱ／医学書院 看護技術ベーシック／サイオ出版 写真でわかるフィジカルアセスメント／インターメディカ		
参考書	適宜提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	看護の対象の健康状態を把握するために必要なヘルスアセスメントの意義	講義	武本
2	ヘルスアセスメントに必要な基礎的知識・技術	講義	
3	バイタルサインとは	講義	
4	バイタルサイン測定の実際	校内実習	
5	バイタルサイン測定の実際（技術試験）	校内実習	
6	呼吸器系のフィジカルアセスメント	講義	
7	呼吸器系のフィジカルアセスメントの実際	校内実習	
8	循環器系のフィジカルアセスメント	講義	
9	循環器系のフィジカルアセスメントの実際	校内実習	
10	消化器系のフィジカルアセスメント	講義	
11	消化器系のフィジカルアセスメントの実際	校内実習	
12	神経・感覚器系のフィジカルアセスメント	講義	
13	筋・骨格系、皮膚・爪・頭皮・毛髪、リンパ系のフィジカルアセスメント	講義	
14	シミュレーターを用いた事例に合わせたフィジカルアセスメント	校内実習	
15	心理社会的統合：自己概念・役割機能・相互依存様式の理解	講義	

区 分	専門分野					R4（2022）年度
	科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
	看護の基本となる技術Ⅲ	1	後期	1	30	演習
担当教員	平 野 裕 子 [看護専門学校]					
学習目的	看護を实践するうえで必要な看護過程の基礎理論を理解し、事例を用いて看護過程の展開の技術を習得する。					
到達目標	1. 看護における看護過程の意義や目的を理解し述べることができる。 2. 看護過程の構成要素と各段階を理解し述べることができる。 3. 事例を用いて、看護過程の展開ができる。 4. 記録・報告の目的と方法について述べることができる。 5. 看護診断の定義と位置づけがわかる。 6. 論理的、批判的思考を基に看護を展開する必要性に気づくことができる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 <自ら学ぶ> ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	1. 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。 1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学などの学習をする。 2. 教科書・配布される資料を予習し、疑問を明らかにして授業に臨むこと。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）80% 課題レポート20%		
教科書	1) 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ基礎看護学〔2〕，医学書院 2) 看護過程冊子 3) 高木永子：看護過程に沿った対症看護，学研，2018		
参考書	1) 古橋洋子：はじめて学ぶ看護過程，医学書院，2017 2) 石川ふみよ：看護過程の解体新書，学研，2015 3) 阿部俊子：エビデンスに基づく疾患別看護ケア関連図，中央法規，2014 4) 黒田裕子：しっかり身につく看護過程 改訂第2版，昭林社，2018 5) 任 和子：実習記録の書き方がわかる 看護過程展開ガイド（プチナースBOOKS），昭林社，2015		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	I. 看護過程とは 1. 看護過程の意義 2. 看護過程と問題解決法 看護過程の5段階 3. 看護過程とクリティカル・シンキング 4. 看護過程と看護理論の関係	演習	平野
2	Ⅱ. 看護過程の展開 1. アセスメント 1) 情報収集と観察（1） ＜グループ学習＞ ※情報の持つ意味		
3	2) 情報収集と観察（2） ※課題発表		
4	3) 情報整理と情報分析（1） ※「アセスメントシート」情報整理 「関連図」作成		
5			
6	4) 情報整理と情報分析（2） ※「関連図」完成 ・解説		
7	6) 情報整理と情報分析（3） ※「アセスメントシート」 作成・解説		
8			
9	2. 問題の明確化 ※「問題リスト」作成		
10	3. 看護計画立案 ※「看護計画」作成		
11	3. 看護計画立案 ※「看護計画」解説		
12	4. 実施 5. 評価		
13	Ⅲ. 記録・報告		
14	Ⅳ. 看護診断		
15	終了試験・解説		

区 分	専門分野 I					R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
生活を整える技術 I		1	前期	1	30	講義 校内実習
担当教員	平 野 裕 子 [看護専門学校] 武 本 亜 紀 [看護専門学校]					
学習目的	対象の日常生活を整える援助（環境，活動・休息）の必要性を理解し，日常生活援助技術を習得する。					
到達目標	1．対象にあわせた療養環境を整える必要性を理解し実施できる。 2．活動と休息のバランスを整える必要性を理解し実施できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
<自ら学ぶ>						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える>						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く>						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	1. 授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。 1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学などの学習をする。 2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。 2. 教科書・配布される資料を予習し、疑問を明らかにして授業に臨むこと。			
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）80% 技術試験20%			
教科書	系統看護学講座、専門分野 基礎看護学[3]、基礎看護技術Ⅱ／医学書院 看護技術ベーシックス／サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス／インターメディカ			
参考書	適時提示			
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	環境	環境の基礎知識	講義	平野
2		病室環境のアセスメント		
3		病床を整える援助	講義	
4		リネンのたたみ方の実際	校内実習	
5		ベッドメイキングの実際	校内実習	
6		臥床患者のシーツ交換	講義	
7		臥床患者のシーツ交換の実際	校内実習	
8		病室環境の調整	講義	
9		ベッドメイキング【技術試験】	校内実習	
10	活動と休息	活動の意義と援助	講義	武本
11		体位変換の援助	講義	
12		体位変換の援助の実際	校内実習	
13		移乗・移送の援助	講義	
14		移乗・移送の援助の実際	校内実習	
15		休息の意義と援助	講義	

区 分	専門分野					R 4 (2 0 2 2) 年度
	科目名	対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
	生活を整える技術Ⅱ	1	前期	1	30	講義 校内実習
担当教員	正 路 裕 子 [看護専門学校]					
学習目的	対象の日常生活を整える援助（清潔・衣生活）の必要性を理解し，日常生活援助技術を習得する。					
到達目標	1. 人間にとっての清潔および清潔援助の意義・目的を述べることができる 2. 衣服および衣生活援助の意義・目的を述べることができる。 3. 身体各部および衣服の清潔を保持するための援助方法を実施することができる。 4. 清潔援助をうける患者の心理を述べることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
<自ら学ぶ> ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
<自ら考える> ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
<自ら道を開く> ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	1. 授業の予習・復習として2時間程度の自主学習が望まれる。 1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学・基礎看護学・看護の方法Ⅰなどの学習をする。 2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。 2. 教科書・配布される資料等を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）80% 技術試験20%		
教科書	系統看護学講座，専門分野 基礎看護学〔3〕，基礎看護技術Ⅱ/医学書院 看護技術ベーシックス/サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス/インターメディカ		
参考書	適宜提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	身体を清潔に保つことの意義	講義	正路
2	衣生活の意義	講義	
3	身体の清潔を保持するための清潔方法① （入浴・シャワー浴）（口腔ケア）	講義	
4	身体の清潔を保持するための清潔方法②（全身清拭・部分清拭）	講義	
5	身体の清潔を保持するための清潔方法③ 清潔方法の実際（全身清拭・寝衣交換）	校内実習	
6			
7	身体の清潔を保持するための清潔方法④ 部分清潔法（手浴・足浴）（陰部洗浄）	講義	
8	身体の清潔を保持するための清潔方法⑤ 部分清潔方法の実際（臥床患者の足浴）	校内実習	
9	身体の清潔を保持するための清潔方法⑥ 頭皮・頭髮の清潔法	講義	
10	身体の清潔を保持するための清潔方法⑦ 頭部の清潔法の実際（ケリーパッドを用いての洗髪）	校内実習	
11			
12	洗面・整容への援助	講義	
13	全身清拭・寝衣交換【技術試験】	校内実習	
14			
15	終了試験・解説	講義	

区 分	専門分野				R 4 （ 2 0 2 2 ） 年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
生活を整える技術Ⅲ		1	後期	1	30	講義 校内実習
担当教員	齊 藤 美 鈴 [看護専門学校]					
学習目的	対象の日常生活を整える援助（食事・排泄）の必要性を理解し，日常生活援助技術を習得する。					
到達目標	1．人間にとっての食事と排泄の意義が述べられる。 2．食事・排泄援助の目的と方法が説明できる。 3．対象の安全・安楽を踏まえた食事援助・排泄援助が実施できる。 4．食事・排泄援助を受ける対象への配慮ある対応について考えが述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	1．教科書，配布資料等を基に予習をし，疑問点を明らかにして授業に臨む。 1) 講義においては，各単元に関する解剖生理学・病態生理学などの学習をする。 2) 校内実習においては，実習前後の課題に取り組む。 予習：1時間程度 復習：1時間程度					

成績評価基準		評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%	
教科書		系統看護学講座 専門分野 基礎看護学 [3] 基礎看護技術Ⅱ／医学書院	
参考書		看護技術ベーシックス／サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス／インターメディカ	
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	健康と食事	講義	齊藤
2	食事援助の基礎知識	講義	
3	食事援助の実際（食事介助，口腔ケア）	校内実習	
4	健康と排泄（1）	講義	
5	健康と排泄（2）	講義	
6	自然排泄への援助	講義	
7	床上排泄援助の実際 （差し込み便器の挿入，陰部洗浄）	校内実習	
8			
9	排便障害のある患者への援助	講義	
10	排便障害のある患者への援助の実際（グリセリン浣腸）	校内実習	
11	排尿障害のある患者への援助	講義	
12	排尿障害のある患者への援助の実際（一時的導尿）	校内実習	
13	経口摂取が困難な患者への援助	講義	
14	経鼻経管栄養法の実際	校内実習	
15	終了試験，解説	講義	

区 分	専門分野				R 4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
診療に伴う技術		1	後期	1	30	講義 校内実習
担当教員	武 本 亜 紀 [看護専門学校] 浦 川 寿美子 [看護専門学校]					
学習目的	診療に伴う看護技術を習得する。					
到達目標	1. 与薬の目的・方法を理解し、安全に与薬が実施できる。 2. 主な検査の目的・方法を理解し、検査における看護師の役割が述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	1. 授業の予習・復習として2時間程度の自主学習が望まれる。 1) 講義においては、各単元に関する解剖生理学・病態生理学・薬理学・基礎看護学などの学習をする。 2) 校内実習においては、実習前後の課題に取り組む。 2. 教科書・配布される資料等を予習し、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験及び演習・校内実習の取り組みなど総合的に評価する。(100%) *評価割合は各講師から開講時に明示される。		
教科書	系統看護学講座，専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕，基礎看護技術Ⅰ/医学書院 系統看護学講座，専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕，基礎看護技術Ⅱ/医学書院 看護技術ベーシックス/サイオ出版		
参考書	写真でわかる基礎看護技術アドバンス/インターメディカ		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	与薬の基礎知識（1）	講義	武本
2	与薬の基礎知識（2）	講義	
3	与薬の種類と特徴（1）	講義	
4	与薬の種類と特徴（2）	講義	
5	注射法（1）	講義	
6	注射法（2）	講義	
7	注射薬剤の準備と注射法の実際	校内実習	
8			
9	与薬と医療安全	講義	
10	検査の目的と看護師の役割	講義	浦川
11	生体検査・検体検査の目的と方法	講義	
12	静脈血採血法	講義	
13	静脈血採血法の実際	校内実習	
14	機能検査の目的と方法	講義	
15	事例から学ぶ検査を受ける患者の看護	講義	

区 分	専門分野					R 4 （ 2 0 2 2 ） 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
臨床看護技術 I		1	後期	1	30	講義
担当教員	齊 藤 美 鈴 [看護専門学校] 平 野 裕 子 [看護専門学校] 正 路 裕 子 [看護専門学校] 梅 田 富 子 [板橋病院看護部]					
学習目的	健康障害を持つ対象の健康障害の経過，症状に応じた看護を実践するために必要な知識，技術を習得する。					
到達目標	1．健康状態の経過に基づく看護が述べられる。 2．症状の基礎知識を理解し，その症状に応じた看護が述べられる。 3．創傷の治癒過程を知り，治癒過程促進の援助が述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	教科書・配布資料等を基に予習をし、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。講義においては関係する解剖生理学・病態生理学などの学習をする。 予習：1時間程度 復習：1時間程度			
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%			
教科書	新体系看護学全書 基礎看護学〔4〕臨床看護学総論／メヂカルフレンド社 看護過程に沿った対症看護―病態生理と看護のポイント／学研 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座 専門分野 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ／医学書院			
参考書	看護技術ベーシックス／サイオ出版 症状別看護ケア関連図／中央法規 根拠が分かる症状別看護過程／南江堂 看護生理学／メヂカルフレンド社			
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	経過別看護	経過別看護（1）急性期・回復期の定義と看護の特徴	講義	齊藤
2		経過別看護（2）慢性期・終末期の定義と看護の特徴	講義	
3	症状別看護	発熱時の看護（1）	講義	平野
4		発熱時の看護（2）	講義	
5		嘔吐・嘔気のある患者の看護	講義	
6		痛みのある患者の看護（1）	講義	正路
7		痛みのある患者の看護（2）	講義	
8		浮腫のある患者の看護（1）	講義	
9		浮腫のある患者の看護（2）	講義	
10		呼吸困難のある患者の看護（1）	講義	
11		呼吸困難のある患者の看護（2）	講義	
12		呼吸困難のある患者の看護（3）	講義	
13	創傷処置	創傷管理	講義	梅田
14		創傷処置（1）	講義	
15		創傷処置（2）	講義	

区 分	専門分野				R 4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
臨床看護学技術Ⅱ		1	後期	1	15	講義
担当教員	齊 藤 美 鈴〔看護専門学校〕					
学習目的	健康障害を持つ対象の健康障害の治療に応じた看護を実践するために必要な知識を習得する。					
到達目標	1. 各療法の基礎的知識が述べられる。 2. 治療を受ける患者の身体や心理的影響など個々の状況に応じた看護を述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	教科書・配布資料等を基に予習をし、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。講義においては関係する解剖生理学・病態生理学などの学習をする。 予習：1時間程度 復習：1時間程度		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100%		
教科書	特になし		
参考書	系統看護学講座， 専門分野 基礎看護学〔2〕，基礎看護技術Ⅰ／医学書院 系統看護学講座， 専門分野 基礎看護学〔3〕，基礎看護技術Ⅱ／医学書院 看護技術ベーシックス／サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス／インターメディカ		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	安静療法を必要とする患者の看護	講義	齊藤
2	食事療法を必要とする患者の看護	講義	
3	薬物・輸液療法を必要とする患者の看護	講義	
4	輸血療法を必要とする患者の看護	講義	
5	化学療法を必要とする患者の看護（1）	講義	
6	化学療法を必要とする患者の看護（2）	講義	
7	放射線療法を必要とする患者の看護	講義	
8	終了試験・解説	講義	

地域・在宅看護論

在宅医療サービスにとどまらず，広く保健・福祉サービスや他の社会サービスの活用も含めて，対象者が「在宅」で，「地域社会」で，質の高い日常生活の営みを獲得し，維持できるよう援助する在宅看護の意義と役割を理解する。また，在宅医療サービスに包括される在宅看護の実践に必要な基礎的知識・日常生活および療養生活に必要な基礎的援助技術・態度を習得する。

区 分	専門分野				R 4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
地域・在宅看護概論Ⅰ		1	後期	1	15	講義
担当教員	木 根 久 江 [看護専門学校]					
学習目的	地域・在宅看護論の対象と看護の基礎となる概念を理解する。					
到達目標	1. 地域・在宅看護を学ぶ目的と特性について説明できる。 2. 地域・在宅看護の対象について説明できる。 3. 看護が提供される多様な場について説明できる。 4. 地域包括ケアシステムにおける看護師の役割について説明できる。 5. 地域・在宅看護における多職種連携の必要性について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	教科書の該当箇所，講義内容に関連する他領域の教科書を30分程度で予習すること。 講義終了後に教科書の該当箇所，講義資料を30分程度読み復習をすること。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 100%（筆記試験）		
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ / 医学書院		
参考書	新体系 看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社 新版 在宅看護論 / 医歯薬出版株式会社 在宅看護論①地域療養を支えるケア/メディカ出版		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	地域・在宅看護論の目的と特徴	講義	木根
2	人々の暮らしと地域・在宅看護		
3	地域・在宅看護論の対象		
4	看護が提供される場		
5	看護が提供される場の移行：退院支援・退院調整		
6	地域包括ケアシステムにおける看護の役割		
7	多職種連携・チームでの協働		
8	終了試験・解説		

区 分	専門分野				R 4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
地域・在宅看護概論Ⅱ		2	前期	1	15	講義
担当教員	木 根 久 江 [看護専門学校] 未 定 [訪問看護ステーション]					
学習目的	地域・在宅看護に関連する法と制度，訪問看護看護の役割について理解する。					
到達目標	1. 地域・在宅看護に関連する法と制度について説明できる。 2. 地域・在宅看護における訪問看護師の役割を説明できる。 3. 地域・在宅看護のマネジメントの内容について説明できる。 4. 地域・在宅看護におけるリスクマネジメントについて説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☒ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	教科書の該当箇所，講義内容に関連する他領域の教科書を30分程度で予習すること。 講義終了後に教科書の該当箇所，講義資料を30分程度読み復習をすること。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 100%（筆記試験）		
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ / 医学書院		
参考書	新体系 看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社 新版 在宅看護論 / 医歯薬出版株式会社 在宅看護論①地域療養を支えるケア/メディカ出版		
回数	授 業 内 容	授業形態	担当者
1	地域・在宅看護論に関連する法と制度	講義	木根
2	訪問看護の制度と機能		
3	訪問看護師の役割と機能		
4	訪問看護サービスの提供：訪問看護師の役割と機能		
5	地域・在宅看護のマネジメント		
6	ケアマネジメントの実際		
7	地域・在宅看護論におけるリスクマネジメント・権利保障		
8	終了試験・解説		

区 分		専門分野				R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
地域・在宅看護論 地域と生活		1	後期	1	15	講義 演習 校外実習
担当教員	木 根 久 江 [看護専門学校] 小 倉 英 里 [看護専門学校]					
学習目的	地域の特徴を理解し、地域で生活する人々の現状を理解する。					
到達目標	1. 地域踏査から人々が生活している住居や街並み、暮らしぶりを実際に観察することでその地域が持つ特性について説明できる 2. 地域の機能について説明できる。 3. 地域で生活する人々のくらしがわかる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	教科書の該当箇所，講義内容に関連する他領域の教科書を30分程度で予習すること。 講義終了後に教科書の該当箇所，講義資料を30分程度読み復習をすること。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験20%（記述試験） 課題レポート，グループワークの参加状況 80%		
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ / 医学書院		
参考書	新体系 看護学全書 在宅看護論/メヂカルフレンド社 ナーシング・グラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支えるケア/メディカ出版		
回数	授 業 内 容	授業形態	担当者
1	生活とは，地域を知る目的	講義	木根 小倉
2	地域を知るグループワーク	演習	
3	地域踏査	校外実習	
4			
5	地域踏査グループワーク	演習	
6	地域踏査まとめ学習発表	演習	
7	地域と生活を知ること まとめ	講義	
8	終了試験・解説		

区 分	専門分野					R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
地域・在宅看護論 看護の方法Ⅰ		2	前期	1	30	講義 校外実習 演習
担当教員	木 根 久 江 〔看護専門学校〕 小 倉 英 里 〔看護専門学校〕					
学習目的	1. 地域・在宅看護の実践に必要な日常生活援助技術・医療処置技術が理解できる。 2. 在宅看護の対象である人々の価値観・生活信条を尊重した看護を行えるための基本的な態度を考える。 3. 社会資源が対象にもたらす影響と、利用に際して看護に期待される役割を考える。					
到達目標	1. 在宅看護に必要な日常生活援助・医療技術の基本を述べることができる。 2. 看護の場が在宅であるという特徴を理解し、対象の生活に合わせ応用される看護援助について説明できる。 3. 対象の価値観・生活信条を尊重した看護技術や援助の工夫を考えることができる。 4. 社会資源活用における看護師の役割について説明できる。 5. 福祉機器を見学・体験し、対象の生活への影響について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	毎回講義前に教科書の該当箇所，講義内容に関連する他領域の教科書を30分以上読んで臨むこと。 講義終了後に教科書の該当箇所，講義資料を30分以上読み復習をすること。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 80% 出席・グループワーク・提出物・授業態度等を含む 20%		
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ / 医学書院 押川眞喜子監修：「写真でわかる訪問看護」インターメディカ		
参考書	新体系看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社 ナーシング・グラフィカ在宅看護論② 在宅療養を支える技術 / メディカ出版		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	在宅におけるコミュニケーションの基本	講義	小倉
	在宅ケアにおける医療処置援助の概要		
2	在宅における食事・栄養のアセスメントと援助		
3 4	在宅経管栄養法・在宅中心静脈栄養法とその看護		
5	在宅における排泄のアセスメントと援助		
6	在宅における導尿・膀胱留置カテーテル・ストーマ管理と看護		
7	在宅における移動・移乗		
8	在宅における褥瘡ケア		
9	在宅看護における呼吸アセスメントと援助		木根
10 11	在宅酸素療法・在宅人工呼吸療法とその看護		
12	社会資源の種類と活用方法 (国際福祉機器展オリエンテーション)		
13	国際福祉機器展見学	校外実習	木根 小倉
14	国際福祉機器展のまとめ・発表	演習	
15			

区 分		専門分野				R 4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
地域・在宅看護論 看護の方法Ⅱ		2	後期	1	15	講義	必修
担当教員		小 倉 英 里 [看護専門学校] 木 根 久 江 [看護専門学校]					
学習目的		在宅で療養生活する対象の状態別看護を理解する。					
到達目標		1. 長期臥床状態にある療養者への在宅看護について説明できる。 2. 独居の生活自立困難者への在宅看護について説明できる。 3. 難病の療養者への在宅看護について説明できる。 4. 終末期の療養者の在宅看護について説明できる。 5. 精神障害者のある療養者への在宅での看護について説明できる。 6. 在宅で療養者を介護する家族の看護について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連							
＜自ら学ぶ＞							
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。							
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。							
＜自ら考える＞							
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。							
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。							
＜自ら道を開く＞							
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。							
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。							
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。							
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。							

準備学習	毎回講義前に教科書の該当箇所，講義内容に関連する他領域の教科書を30分以上読んで臨むこと。 講義終了後に教科書の該当箇所，講義資料を30分以上読み復習をすること。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(筆記試験)および提出物の評価点 100%		
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ / 医学書院		
参考書	新体系 看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社 家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ 概論編 / 日本看護協会出版会		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	長期臥床状態にある療養者への援助	講義	小倉
	独居の生活自立困難者への援助		
2 3	在宅におけるエンドオブライフケア		
4 5	難病の療養者への援助		木根
6	精神障害者のある療養者への援助		
7	地域・在宅看護における家族支援		
8	終了試験・解説		

区 分		専門分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	必修・選択
地域・在宅看護論 看護の方法Ⅲ		2	後期	1	30	講義 校内実習 演習	必修
担当教員	木 根 久 江 [看護専門学校] 小 倉 英 里 [看護専門学校]						
学習目的	1. 地域・在宅看護における看護過程の展開を理解する。 2. 地域・在宅で療養生活する対象の状態別看護を理解する。						
到達目標	1. 認知症療養者への接し方を理解し対応することができる。 2. 在宅看護における看護過程の特徴を述べることができる。 3. ペーパーシュミレーションを用いて在宅看護過程の展開ができる。 4. 看護過程の中で、在宅の特徴をふまえ具体的な援助方法を考えることができる。 5. 看護過程の中で、在宅の特徴をふまえ具体的な社会資源の活用方法を述べる ことができる。 6. 在宅で行われる援助の工夫ができる。						
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連							
＜自ら学ぶ＞							
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。							
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。							
＜自ら考える＞							
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。							
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。							
＜自ら道を開く＞							
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。							
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。							
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。							
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。							

準備学習	毎回講義前に教科書の該当箇所，講義内容に関連する他領域の教科書を30分以上読んで臨むこと。 講義終了後に教科書の該当箇所，講義資料を30分以上読み復習をすること。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験(記述試験)および提出物の評価点		
教科書	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ / 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ / 医学書院		
参考書	強みと弱みからみた在宅看護過程 / 医学書院 新体系 看護学全書 在宅看護論 / メヂカルフレンド社		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	認知症療養者への在宅看護	講義	木根 小倉
2	認知症療養者への在宅看護 「認知症療養者との関わり方 DVD	講義	
3			
4	在宅看護における看護過程	講義	
5	在宅看護における看護過程の特徴	講義	
6	情報収集	演習	
7	アセスメントと問題抽出		
8	看護計画(考え方と実践)		
9			
10	社会資源について		
11	看護過程のまとめ	講義	
12	在宅で行われる援助・物品の工夫	講義	
13	在宅で使用される物品の作成と援助方法	校内実習	
14			
15	終了試験・解説	講義	

成人看護学

成人期は人生の大半を占め、身体的・精神的・社会的にも複雑で多様である。身体的には成長・成熟・衰退と変化し、精神的・社会的には役割や責任が変化し、これらの変化に伴い心身のストレスや危機状態に陥りやすい。したがって成人期にある対象を理解し、あらゆる健康レベルにある成人とその家族の看護に必要な知識・技能・態度を習得する。

区 分		専門分野				R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
成人看護学概論		1	後期	1	30	講義 演習
担当教員	上 川 直 子 [看護専門学校] 宮 崎 紀 子 [看護専門学校]					
学習目的	1．成人期にある人の特徴や役割と看護師の役割を理解する 2．成人が生活する場のヘルスケアプロモーション活動の実際を理解する 3．成人期にある人の看護をするための基本的考え方を理解する					
到達目標	(１) 成人期の成長発達と発達課題が説明できる (２) 生活習慣やライフスタイルと健康問題との関連が説明できる (３) 成人期にある人が生活する場（職場）のヘルスプロモーション活動の実際について説明できる (４) 成人への看護に有用な主な概念が説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	毎回の授業の予習復習として1時間程度の自主学習が望まれる		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験80% レポート, GW参加度, 受講態度20%		
教科書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論／メディカ出版		
参考書	成人看護学概論／成人保健 メヂカルフレンド社 成人看護学概論 南江堂 国民衛生の動向 厚生労働統計協会 公衆衛生がみえる MEDIC MEDIA		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1 ・ 2 ・ 3	1. 成人であるということ／成長発達の特徴 1) 社会における成人の定義 2) 成人各期の成長発達(身体的・精神的・社会的) 3) 成人の家族及び社会における役割 4) 成人各期の健康問題	演習	上川
4	2. 成人の生活を理解する視点と方法 1) 成人の日常生活の共通性 2) 成人のライフスタイルの多様性	講義	
5	3. 健康観の多様性と看護 1) 保健行動の特徴と健康観の関係 2) 健康観に影響を及ぼす要因 3) 健康観を理解する方法		
6 ・ 7 ・ 8	4. 職業や生活習慣に関連する健康障害 1) 職業と健康障害の関連 2) 職業性疾病及び業務上疾病の予防と治療に関わる保健医療政策 3) 生活習慣と健康障害 4) 生活習慣病の予防と治療に関する保健医療政策 5) 職業性疾病と生活習慣病の可能性を考慮した看護 6) 地域や職場における健康保持増進の現状と課題	演習	
9	5. ワーク・ライフ・バランスと健康障害	講義	
10	6. ヘルスプロモーション		
11	7. 成人期における健康レベル・経過別看護 1) 急性期・クリティカルケア 2) 慢性期・終末期		
12	8. 学習の特徴と看護・学習者としての成人の特徴 1) おとなの学びと特徴 2) 成人看護学の概念 3) おとなの学びの目標 4) 成人の健康レベルと学習方法		
13 ・ 14	9. 成人期における看護のための基本的な概念 1) 病みの軌跡 2) セルフケア／自己効力 3) ストレス／危機／適応		
15	終了試験・解説		

区 分		専門分野				R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
成人看護学 看護の方法Ⅰ		2	前期	1	30	講義 演習 校内実習
担当教員	上 川 直 子 [看護専門学校] 越 智 知 子 [看護専門学校] 宮 崎 紀 子 [看護専門学校]					
学習目的	1. 生命の危機的な状況にある対象へ看護援助を行うために、クリティカルケア看護に必要な基礎的知識が理解できる。					
到達目標	1. クリティカルケア看護の特性について説明できる。 2. クリティカルケア看護を必要とする対象の特徴について説明できる。 3. クリティカルケア看護とチーム医療について説明できる。 4. クリティカルケア看護にかかわる倫理について説明できる。 5. 身体侵襲を伴う検査に必要な看護技術について説明できる。 6. 事例を用いてクリティカルケアに必要な病態生理・看護のアセスメントについて説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習		解剖学Ⅰ・Ⅱと生理学Ⅰ・Ⅱ，病態生理学Ⅰ～Ⅴおよび病理学の内容について復習しておく。 各授業の予習，復習として2時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準		評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験，課題，受講態度を加味 100%		
教科書		系統看護学講座 別巻 クリティカルケア看護学 /医学書院 看護学テキストNICE 成人看護技術 /南江堂 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[3]循環器 /医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[7]脳・神経 /医学書院 看護過程に沿った対症看護 /学研メディカル秀潤社		
参考書		なし		
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	1. クリティカルケア看護の特性 1) クリティカルケア看護の場 2) 看護師の役割		講義	上川
2	2. クリティカルケアを必要とする対象の特徴 1) 身体的特徴 2) 心理・社会的特徴 3) 家族のニーズ			
3	3. クリティカルケア看護とチーム医療 4. クリティカルケア看護にかかわる倫理			
4	5. 身体侵襲を伴う検査・治療に必要な看護技術 1) 血管造影 2) 内視鏡			
5	3) 穿刺・生検 4) 吸引法			
6	6. 吸引法の実際		校内実習	越智
7	7. クリティカルケアに必要な看護 1) 頭痛		演習	
8	(1) 病態生理			
9	(2) アセスメント			
10	(3) ケア			
11	2) 胸痛		宮崎	
12	(1) 病態生理			
13	(2) アセスメント			
14	(3) ケア			
15	終了試験・解説		講義	上川

区 分	専門分野				R 4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
成人看護学 看護の方法Ⅱ		2	前期	1	30	講義 校内実習
担当教員	越 智 知 子 [看護専門学校] 山 田 尚 子 [板橋病院 看護部]					
学習目的	周術期における対象の特徴と看護が理解できる					
到達目標	1. 周術期における術前, 術中, 術後の看護が説明できる 2. 術後の自己管理に向けた援助が説明できる 3. 主要な疾患の術式による身体機能の変化を説明できる 4. 主要な手術の術前, 術後の看護が理解できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る ☒ リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 ☒ 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						

準備学習	解剖学Ⅰ・Ⅱと生理学Ⅰ・Ⅱ，病態生理学Ⅰ～Ⅴおよび病理学の内容について復習しておく。各授業の予習，復習として2時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：筆記試験（100%）		
教科書	系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 ／医学書院 系統看護学講座 別巻臨床外科看護各論 ／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 消化器 ／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[9] 女性生殖器 ／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[10] 運動器 ／医学書院 術中／術後の生体反応と急性期看護 ／医歯薬出版社 看護学テキストNICE 成人看護技術 ／南江堂		
参考書	なし		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1.周術期の対象の特徴と看護の役割 1)手術前の看護 2)手術中の看護 3)手術後の看護 (1)術後の自己管理に向けた看護	講義	越智
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8	2. 周術期看護の実際 術前訓練	校内演習	
9	3. 周手術期における各機能別疾患と看護 1) 消化・吸収機能障害のある対象の看護 (1) 胃切除術を受ける対象の看護 (2) 大腸切除術を受ける対象の看護 2) 性・生殖・乳腺機能障害のある対象の看護 (1) 乳房切除術を受ける患者の看護 3) 排泄機能障害のある対象の看護 (1) 人工膀胱造設術を受ける対象の看護 (2) 人工肛門造設術を受ける対象の看護 4) 運動機能障害のある対象の看護 (1) 人工関節置換術を受ける患者の看護 5) 腹腔鏡下手術を受ける対象の看護	講義	
10			
11			
12			山田
13			
14			越智
15			

区 分		専門分野				R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
成人看護学 看護の方法Ⅲ		2	前期	1	30	講義
担当教員		宮 崎 紀 子 〔看護専門学校〕				
学習目的		1．慢性期における対象の特徴と看護の役割が理解できる。				
到達目標		1．慢性疾患を持つ対象の身体的・精神的・社会的特徴が説明できる。 2．慢性疾患を持つ対象の看護の特徴が説明できる。 3．呼吸機能障害のある対象の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。 4．栄養・代謝障害のある対象の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。 5．糖代謝障害のある対象の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。 6．腎機能障害のある対象の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。 7．身体防御機能障害のある対象の症状，検査，治療に伴う看護が説明できる。				
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習		解剖学Ⅰ・Ⅱ，生理学Ⅰ・Ⅱ，病態生理学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲで学習した内容を想起し整理しておく。基礎看護学で学習した経過別・治療別看護の内容を想起し整理しておく。 各授業の予習・復習として，1時間程度の自主学習が望まれる。			
成績評価基準		評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験，課題，受講態度を加味 100%			
教科書		系統看護学講座 専門分野 成人看護学[2] 呼吸器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[4] 血液・造血器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[5] 消化器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[8] 腎・泌尿器／医学書院 系統看護学講座 専門分野 成人看護学[11] アレルギー・膠原病・感染症／医学書院 看護学テキストNiCE 成人看護技術／南江堂			
参考書		目で見えるからだのメカニズム／医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論／MCメディカ出版 食品交換表 第7版 日本糖尿病学会 病気がみえる Vol.1 消化器／MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.3 糖尿病・代謝・内分泌／MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.4 呼吸器／MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.5 血液／MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.6 免疫・膠原病・感染症／MEDIC MEDIA 病気がみえる Vol.8 腎・泌尿器／MEDIC MEDIA			
回数	授 業 内 容			授業方法	担当者
1	1．慢性期の患者の看護 1) セルフコントロールへの援助 2) 社会的支援の獲得			講義	宮崎
2	2．糖代謝障害のある対象の看護 1) 糖代謝の基礎知識 2) 糖代謝疾患の主な検査，治療の看護 3) 糖尿病患者の看護				
3					
4					
5	3．呼吸機能障害のある対象の看護 1) 呼吸器系の基礎知識 2) 呼吸器系の主な検査，治療の看護 3) 呼吸器疾患患者の看護 (1)肺癌				
6					
7					
8	4．栄養・代謝障害のある対象の看護 1) 栄養・代謝の基礎知識 2) 栄養・代謝の主な検査，治療の看護 3) 肝疾患患者の看護 (1)肝硬変 (2)肝細胞癌				
9					
10					
11	5．腎機能障害のある対象の看護 1) 腎臓の基礎知識 2) 腎疾患の主な検査，治療の看護 3) 腎不全患者の看護				
12					
13					
14	6．身体防御機能障害のある対象の看護 1) 血液・造血器系の基礎知識 2) 血液・造血器系の主な検査，治療の看護 3) 血液・造血器疾患患者の看護 (1)白血病 (2)悪性リンパ腫 4) 膠原病患者の看護 (1)全身性エリテマトーデス				
15					

区 分	専門分野				R 4 (2022) 年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
成人看護学 看護の方法Ⅳ		2	後期	1	15	講義 演習
担当教員	上 川 直 子 [看護専門学校] 高 木 俊 一 [医学部（麻酔科）]					
学習目的	終末期にある対象者及び家族のQOLを充実させるための支援を理解する					
到達目標	(1) 終末期にある対象者と家族の特徴についてのべることができる (2) 終末期医療における看護のかかわりが述べられる (3) 終末期における倫理的課題を述べることができる (4) がん性疼痛コントロールに実際に述べることができる (5) 全人的苦痛緩和のための援助方法を説明できる (6) 生命と向き合い自己の死生観を深めることができる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	各授業の予習復習として1時間程度の自主学習が望まれる。 薬理学，生命と倫理で習得した内容について想起し，整理しておく		
成績評価基準	終了試験80%（筆記試験），課題レポート20%		
教科書	新体系看護学全書 経過別成人看護学④終末期看護：エンド・オブ・ライフ・ケア メヂカルフレンド社		
参考書	緩和ケア/メディカ出版 緩和ケア/医学書院 看護学生のためのACP/メヂカルフレンド社		
回数	授 業 内 容	講義形態	担当者
1	1. 終末期にある対象の特徴と看護の役割	講義	上川
2	2. 終末期医療の抱える課題 1) 生命倫理の理解 2) 終末期医療における倫理的課題 3) 医療従事者とグリーフケア		
3	4) アドバンス・ケア・プランニング	演習	
4 ・ 5	3. 全人的苦痛の緩和 1) 緩和ケアとは 2) 緩和ケアにおける看護の役割 3) 身体的・精神的・社会的ケア	講義	高木
6	4. がん性疼痛のケア		
7	5. 終末期における退院支援 6. 臨死期の看護		上川
8	終了試験・解説		

区 分		専門分野				R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
成人看護学 看護の方法Ⅴ		2	後期	1	30	演習 校内実習
担当教員	宮 崎 紀 子 [看護専門学校] 越 智 知 子 [看護専門学校] 上 川 直 子 [看護専門学校]					
学習目的	1. 成人期にある患者の看護過程の展開の特徴・方法を理解する。					
到達目標	(1) 健康障害をもつ成人の看護過程の展開が説明できる。 ①慢性期にある対象の特徴をふまえた看護の展開が説明できる。 ②周手術期における対象の身体変化をふまえた看護の展開が説明できる。 (2) 成人期における看護技術（血糖測定）が実施できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	基礎看護学で修得した看護過程の内容について想起し整理しておく。 各授業の予習・復習として、2時間程度の自主学習が望まれる。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 課題レポート（慢性期70%，急性期30%）		
教科書	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[6] 内分泌・代謝 /医学書院 看護過程に沿った対症看護 /学研 目で見えるからだのメカニズム /医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科総論 /医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床外科各論 /医学書院 ナーシング・グラフィカ 成人看護学① 成人看護学概論 /MCメディカ出版 看護学テキストNiCE 成人看護技術 /南江堂		
参考書	講義内で適宜提示する。		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 慢性期にある患者の看護過程の展開 （2型糖尿病を持つ成人患者の看護過程） ①情報収集：事例以外に必要な情報項目を考え、 ロールプレイング形式で情報収集する。 ②関連図：病態関連図、 事例に基づき成長発達の側面を含める。 事例の患者情報を追加し、個別性を出す。 作成した関連図について、発表する。 ③アセスメントシート： 成人の成長発達段階、慢性期の健康段階を踏まえ、 事例患者の生活背景を含めたアセスメントをする。 8つの枠組みに沿って問題点を抽出し、まとめる。	演習	宮崎他
2			
3			
4			
5	自己血糖測定の実際	校内実習	
6	④問題点の抽出、優先順位の考え方 ⑤看護計画立案 根拠、到達目標の設定、具体策 ⑥看護計画の実施、評価、追加、修正 計画した内容をロールプレイング形式で実施する。 実施した内容を踏まえ、到達目標に沿った看護の評価を 記載する。 評価に基づき、看護計画の追加修正を行う。	演習	越智他
7			
8			
9			
10			
11	2. 周手術期にある患者の看護過程の展開 （消化器障害により手術をうける成人患者の看護過程） ①アセスメントシート： 成長発達段階、周手術期を踏まえ、麻酔・創傷が及ぼす 身体侵襲に関連させたアセスメントをする。 ②優先順位：Mooreの回復過程を踏まえ考え方を学ぶ。		
12			
13			
14			
15			

老年看護学

老年期にある対象とその家族を理解し，老化と健康障害をもつ高齢者およびその家族に対し，看護を実践するために必要な知識，技術，態度を習得する。

区 分		専門分野				R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
老年看護学概論Ⅰ		1	後期	1	15	講義・演習
担当教員		渡 邊 厚 子 [看護専門学校]				
学習目的		老年期の概要や加齢による身体的・精神的・社会的変化を知り、看護の対象である高齢者を理解する。				
到達目標		1. 老年期の特徴と発達課題を説明できる。 2. 加齢に伴う高齢者の身体的・心理的側面の変化を説明できる。 3. 超高齢社会における老年期の社会的特徴を説明できる。 4. 老年期を生きる人々の特徴・健康・生活について説明できる。				
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習		毎回の授業の予習復習として、2～3時間程度の自主学習が望まれる。				
成績評価基準		評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）90％ レポート10％				
教科書		系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学／医学書院				

参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論／医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害／メディカ出版 老年看護概論「老いを生きる」を支えることとは／南江堂		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1・老いるということ 1) 老いのイメージ 2) 加齢と老化 老年期の定義，老年期の位置づけ，エイジング 3) 高齢者の生きてきた時代背景・生活史 2．老年期を生きる人々の特徴 1) 高齢者の発達課題 2) 高齢者の社会的役割 3) 高齢者の生きがいと生活の満足感	講義	渡邊
2	3・超高齢社会の統計的輪郭 1) 人口学的指標からの老年期の理解 (1) 高齢者人口の推移 (2) 前期・後期高齢者人口の比較 2) 健康指標からの老年期の理解 (1) 健康寿命について (2) 疾病構造と有病率・有訴率 (3) 受療行動・受療の動向 (4) 死亡率，死因，死亡場所	講義	
3	3) 生活の視点からの老年期の理解 (1) 生活の構造，経済，雇用 (2) 高齢者の社会活動（生きがい・余暇活動） (3) 住宅と環境，家族・世帯構成 4) 社会参加	講義	
4	4．加齢に伴う変化 1) 身体的側面の変化とアセスメント (1) 老化の捉え方 (2) 皮膚とその付属記 (3) 視聴覚とその他の感覚 (4) 循環系 (5) 呼吸器系	講義	
5	(6) 消化・吸収系 (7) ホルモン分泌 (8) 腎・泌尿生殖器系 (9) 運動系・神経系 (10) 高齢者の疾病の特徴	講義	
6	2) 心理的側面の変化 (1) 知能 (2) パーソナリティ・創造性 (3) 心理的背景 ①時間的蓄積の理解 ②衰退・損失への理解 (4) 高齢者のセクシャリティ・スピリチュアリティ (5) 高齢者の多様性 ①高齢者の生活史 ③健康状態の多様性 ②価値観の多様性 ④生活習慣・生活様式の多様性	講義	
7	5．老年期を生きる人々の特徴 1) 高齢者の生きがいと生活の満足感 2) 高齢者の暮らし ※高齢者インタビュー 3) 高齢者インタビューを通して学んだこと 4) 回想法・ライフレビューの意義	演習	
8	終了試験・解説		

区 分	専門分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
老年看護学概論Ⅱ		2	前期	1	15	講義・演習
担当教員	浦 川 寿美子 [看護専門学校]					
学習目的	1. 超高齢社会における保健医療福祉の意義と、多様な場における看護の役割について理解できる。 2. 人生の最終ステージにある高齢者の特徴を理解し、老年看護の基本と看護師の役割を考える。					
到達目標	1. 老人保健・医療・福祉の動向を説明できる。 2. 高齢者の生活を維持するための地域の役割・ソーシャルサポートシステムの構造を説明できる。 3. 高齢者を支える社会資源とその活用について説明できる。 4. 高齢者を取り巻く倫理的問題を理解し、権利擁護の必要性和対策を説明できる。 5. 老年看護の理念・目標を説明できる。 6. 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケアの考え方と援助について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	毎回の授業の予習復習として、2～3時間程度の自主学習が望まれる。					
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）90％ レポート10％					

教科書	系統看護学講座 専門分野 老年看護学／医学書院		
参考書	高齢者看護学／中央法規出版 最新 老年看護学／日本看護協会出版会 ナーシング・グラフィカ 老年看護学①高齢者の健康と障害／メディカ出版		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 高齢社会における保健医療福祉 1) 高齢者とソーシャルサポート 2) 保健医療福祉システムの構築 (1) 保健医療福祉制度の変遷 ①老人福祉法 ②高齢者医療確保法 他 (2) 高齢者の医療制度 ①後期高齢者医療制度 (3) 介護保険制度の整備 ①目的・改正	講義	浦川
2	(3) 介護保険制度の整備 ②仕組み ③介護保険サービス ④介護予防 2. 生活・療養の場における看護の展開 1) 高齢者とヘルスプロモーション 2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護 (1) 介護保険施設の特徴 (2) 地域密着型サービスの特徴 (3) 住まい	講義	
3	3. 高齢社会における権利擁護 1) 高齢者に対するスティグマと差別 (1) エイジズム (2) アドボカシー 2) 高齢者虐待 3) 権利擁護のための制度 (1) 成年後見制度 (2) 日常生活自立支援事業	講義	
4	4) 身体への拘束（ディベート）	演習	
5	4. 老年看護の理念 1) 老年看護とは 2) 高齢者のための看護の原則 3) 老年看護の構成要素と老年看護実践の特徴 (1) 意思決定への支援 (2) 生活機能回復への支援 (3) 死へのプロセスを整える (4) 家族支援 (5) 多職種チームの連携 (6) 地域包括ケアの推進 4) 理論・概念の活用	講義	
6	5. 高齢者のリスクマネジメント 1) 高齢者と医療安全 2) 高齢者に特徴的な災害時の看護	講義	
7	6. 高齢者のエンド・オブ・ライフ・ケア 1) 高齢者の死とは 2) 終末期ケア 3) グリーフケア	講義	
8	終了試験・解説		

区 分		専門分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法	
老年看護学 看護の方法Ⅰ		2	前期	1	30	講義・演習	
担当教員		渡 邊 厚 子 [看護専門学校] 萩 原 紀 子 [理学療法室]					
学習目的		高齢者の健康障害および日常生活機能における諸問題を学び、高齢者と家族に対する看護を理解する。					
到達目標		1. 高齢者の入院から退院までの援助と検査・治療を受ける高齢者の看護を説明できる。 2. 高齢者の生活機能を整える看護について説明できる。 3. 高齢者の主な健康障害の特徴と看護について説明できる。 4. 認知症高齢者への適切な対応が説明でき、一部実施できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連							
＜自ら学ぶ＞							
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。							
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。							
＜自ら考える＞							
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。							
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。							
＜自ら道を開く＞							
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。							
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。							
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。							
☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。							
準備学習		毎回の授業の予習復習として、2～3時間程度の自主学習が望まれる。					
成績評価基準		評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）90％ レポート10％					

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学／医学書院		
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論／医学書院 ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践／メディカ出版		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 医療を受ける高齢者への看護 (DVD) 1) 入院治療を受ける高齢者の看護 2) 検査と看護	講義	渡邊
2 3	3) 薬物療法時の看護 4) 手術療法時の看護 (白内障・前立腺肥大症) 5) リハビリテーション時の看護	講義	
4	2. 高齢者の生活機能を整える看護 1) 日常生活を支える基本動作と看護 (ADL障害, 転倒予防)	講義	
5	2) 栄養と摂食・嚥下に対する看護 (DVD含む)	講義	
6	3) 排泄に対する看護 (尿失禁, 便秘, 下痢) 4) 清潔に対する看護 (陰部洗浄・オムツ交換・老人性皮膚掻痒症・疥癬)	講義	
7	5) コミュニケーション障害のある高齢者の看護 (難聴・視覚障害・失語症) 6) 生活リズムを整える看護 (睡眠, アクティビティケア)	講義	
8	7) 摂食嚥下訓練・言語訓練	演習	萩原
9	3. 健康逸脱からの回復を支える看護 1) 脱水 2) 骨粗鬆症・骨折	講義	渡邊
10	3) パーキンソン症候群 4) COPD	講義	
11	5) 認知機能障害に対する看護 (1) うつ (2) せん妄 (3) 認知症 (演習のオリエンテーション含む)	講義	
12 13	(4) 認知症高齢者への対応 ※模擬患者とのロールプレイング	演習	渡邊
14	(5) 認知症高齢者との対応の振り返り GW・発表	演習	渡邊
15	終了試験・解説		

区 分	専門分野				R 4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
老年看護学 看護の方法Ⅱ		2	後期	1	30	講義・校内実習・演習
担当教員	渡 邊 厚 子 [看護専門学校] 松 土 理 恵 [板橋病院（理学療法士）]					
学習目的	高齢者の日常生活援助に必要な看護技術と事例を通して看護過程展開技術を習得する。					
到達目標	1. 高齢者に必要な日常生活の看護技術を実践できる。 2. 高齢者の廃用症候群予防およびリハビリテーションに向けた援助について説明・一部実践できる。 3. 事例を通して健康障害を持つ高齢者を対象に生活機能の視点からアセスメントした看護過程を展開できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	毎回の授業の予習復習として、2～3時間程度の自主学習が望まれる。					
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）70％ レポート30％					

教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学／医学書院		
	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 別巻 リハビリテーション看護／医学書院		
参考書	看護技術ベーシックス／サイオ出版 写真でわかる基礎看護技術アドバンス／インターメディカ ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践／メディカ出版 看護過程に沿った対症看護一病態生理と看護のポイントー／学研		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 高齢者の看護技術 1) 高齢者の日常生活援助技術の特徴と留意点	講義	渡邊
2 3	2) 高齢者体験 (1) 高齢者体験；高齢者の加齢による自然な老化を体験する (2) 視覚障害者体験；視覚障害（盲目状態）の歩行と介助を体験する	校内実習	
4 5	3) 高齢者の看護技術 ①オムツ交換 ②ひげそり ③爪きり（手足） ④靴下の着脱 ⑤義歯の取り扱い ⑥シナリオを活用してのフィジカルアセスメント	校内実習	
6 7	4) 高齢者のリハビリテーションに向けた援助 校内実習 ①廃用症候群とその予防 ②基本動作（起き上がり～歩行まで） ③関節可動域訓練 ④体位ドレナージ	講義 校内実習	松土
8	2. 介護保険施設における看護・介護 （DVD含む）	講義	渡邊
9	3. 高齢者の看護過程 看護過程の展開①；事例紹介・説明，関連図説明，情報の整理	演習	
10	看護過程の展開②；関連図・アセスメント1・2（生活機能の視点から）		
11	看護過程の展開③；問題リスト 優先順位 看護計画立案		
12	看護過程の展開④；看護計画（根拠・到達目標）		
13 14	看護過程の展開⑤⑥；看護計画（具体策）・看護計画・評価		
15	終了試験・解説		

小児看護学

小児各期の特徴を理解し，成長発達に応じた生活の援助とあらゆる健康レベルにある小児とその家族に対する看護を实践する為の基礎的知識・技術・態度を習得する。

区 分		専門分野Ⅱ				R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
小児看護学概論Ⅰ		2	前期	1	30	講義
担当教員	石 井 祐 子 [看護専門学校] 中 山 華 絵 [看護専門学校]					
学習目的	小児の成長・発達と健康増進のための、小児と家族の看護について理解する。					
到達目標	(1)小児看護の対象としての子どもについて述べることができる。 (2)小児医療、小児看護の変遷について学び、今後の課題を述べることができる。 (3)小児看護における倫理と子どもの権利について述べることができる。 (4)子どもの成長と発達の特徴について述べることができる。 (5)新生児、乳児、幼児、学童、思春期の健康増進のための看護について述べることができる。 (6)母子保健の動向と小児保健統計についてについて述べることができる。 (7)健康問題・障害および入院が小児と家族に及ぼす影響と看護について述べることができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	第1～15回 各回の講義の予習として、テキストの内容について1時間程度の自主学習が望まれる。また、復習として講義資料や国家試験問題を用い、1時間程度の自主学習が望まれる。 第9～14回 講義内容をもとに小児各期の成長発達をワークシートにまとめる（各30～1時間程度）	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験90% レポート10% ※評価割合は評価一覧に示された通りとする。	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論／医学書院	
参考書	適時提示	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 小児看護の特徴と理念 1) 小児看護の対象 2) 小児看護の目的と役割	石井
2	3) 小児看護の変遷 4) 小児看護の課題 5) 小児と家族の諸統計	
3	6) 小児看護における倫理と子どもの権利	
4	2. 子どもと家族を小児を取り巻く社会 1) 児童福祉法 2) 母子保健 3) 医療費の支援 4) 予防接種	
5	5) 学校保健 6) 食育 7) 特別支援教育 8) 臓器移植	
6	3. 子どもの成長と発達 1) 成長・発達とは 2) 成長・発達の進み方	
7	3) 成長・発達に影響する因子 4) 成長・発達の評価	
8	4. 小児各期の成長・発達の特徴と発達段階に応じた看護 1) 新生児・乳児 ①特徴	中山
9	1) 新生児・乳児 ②看護	
10	2) 幼児 ①特徴	
11	2) 幼児 ②看護	
12	2) 幼児 ③消化機能・食行動の発達：演習	
13	3) 学童 ①特徴と看護	
14	4) 思春期・青年期の子ども ①特徴と看護	
15	終了試験／解説	石井

区 分	専門分野Ⅱ				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
小児看護学概論Ⅱ		2	前期	1	15	講義
担当教員	石 井 祐 子 〔看護専門学校〕					
学習目的	健康問題・障害が子どもと家族に与える影響と看護について学ぶ。					
到達目標	(1)成長・発達段階にある子どもが健康問題・障害をもつこと、および入院が子どもと家族に与える影響について説明できる。 (2)子どもに特徴的な症状とその看護について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 ＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 ＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 ＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	第1～7回 各回の講義の予習として、テキストの内容について1時間程度の自主学習が望まれる。また、復習として講義資料や国家試験問題を扱い、1時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験100%	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論／医学書院	
参考書	適時提示	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 健康問題・障害をもつ子どもと家族の看護 1) 健康問題・障害が子どもと家族に与える影響	石井
2	2) 子どもの健康問題と看護 3) 健康問題を持つ子どもの家族の看護 4) 入院中の子どもと家族の看護	
3	2. 症状を示す子どもの看護 1) 不機嫌・啼泣 2) 痛み	
4	3) 呼吸困難・チアノーゼ 4) ショック・意識障害・痙攣	
5	5) 発熱 6) 脱水 7) 嘔吐	
6	8) 下痢・便秘 9) 浮腫	
7	10) 出血・貧血 11) 発疹・黄疸	
8	終了試験／解説	

区 分	専門分野Ⅱ				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
小児看護学看護の方法Ⅰ		2	後期	1	30	講義
担当教員	未 定 [医学部(小児科学)] 井 上 真 味 [板橋病院看護部] 中 山 華 絵 [看護専門学校]					
学習目的	子どもに特徴的な健康問題・障害について学ぶ。 子どもの健康問題・障害の経過・状況，および家族の状況に応じた看護について学ぶ。					
到達目標	(1)子どもに特徴的な健康問題・障害を説明できる。 (2)さまざまな状況にある子どもと家族の看護について説明できる。 (3)子どもの健康問題・障害の経過（慢性期，急性期，周手術期，終末期）に応じた子どもと家族の看護について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	各回の講義の予習として、テキストの内容について1時間程度の自主学習が望まれる。 また、復習として講義資料や国家試験問題を扱い、1時間程度の自主学習が望まれる。	
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 筆記試験100% ※評価割合は評価一覧に示された通りとする。	
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論／医学書院	
参考書	適時提示	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 小児によく見られる疾患とその治療 1) 染色体異常・対内環境により発症する先天異常と看護 2) 代謝異常と看護	医師
2	3) 内分泌疾患と看護 4) 免疫疾患と看護 5) 感染症と看護	医師
3	6) 呼吸器疾患と看護 7) 循環器疾患と看護 8) 消化器疾患と看護	医師
4	9) 血液・造血器疾患と看護 10) 悪性新生物と看護 11) 腎・泌尿器・生殖器疾患と看護	医師
5	12) 神経疾患と看護 13) 運動器疾患と看護	医師
6	14) 皮膚疾患と看護 15) 眼疾患と看護 16) 耳鼻咽喉科疾患と看護	医師
7	2. 子どもの状況・環境に応じた看護 1) 外来における子どもと家族の看護	中山
8	2) 在宅療養中の子どもと家族の看護 3) 災害時の子どもと家族の看護	
9	4) 障害のある子どもと家族の看護	
10	5) 子どもの虐待と看護	
11	6) 子どもの事故・外傷と看護	
12	3. 子どもの病気の経過と看護 1) 慢性期にある子どもと家族の看護	
13	2) 急性期にある子どもと家族の看護	
14	3) 周手術期の子どもと家族の看護	井上
15	4) 終末期にある子どもと家族の看護	中山

区 分	専門分野Ⅱ				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
小児看護学看護の方法Ⅱ		2	後期	1	30	講義・校内実習・演習
担当教員	石 井 祐 子 [看護専門学校] 中 山 華 絵 [看護専門学校]					
学習目的	健康問題・障害を持つ子どもの看護過程の展開を学ぶ。 健康問題・障害を持つ子どもの日常生活援助技術，看護技術，学習・遊びへの援助について学ぶ。					
到達目標	(1)子どもの健康問題・障害の経過，家族の特徴に応じた看護過程が展開できる。 (2)病気・療養中の子どもに必要な日常生活援助技術，および看護技術が述べられる。 (3)病気・療養中の子どもへの学習および遊びの援助が述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	第1～3回 各回の講義の予習・復習として，テキストや講義資料の内容について各1時間程度の自主学習が望まれる。また，学習状況の確認として，第3回目に第1～3回目までの講義内容についてのミニテストを実施する。 第4～10回 事前に指示された課題についてレポートをまとめ提出する。また，1年次の看護過程展開の講義内容を復習しておく。各回の復習，演習で終了できなかった内容について1～2時間の自主学習が望まれる。演習後，看護過程展開についての課題レポートを提出する。 第11～12回 校内実習内容についての課題レポートをまとめ，提出する。 第13～15回 教員が指示した患者設定でのグループワークとして，講義時間外で2～3時間のグループワークを必要とする。演習後，レポート学習として，1時間程度の自主学習を要する。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 レポート90%, ミニテスト10%		
教科書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児看護学概論／小児臨床看護総論／医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論／医学書院		
参考書	適時提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 子どものアセスメント 1) アセスメントに必要な技術 2) 身体的アセスメント	講義	石井
2	2. 検査・処置を受ける子どもの看護 1) 与薬 2) 輸液管理		
3	3) 抑制 4) 検体採取		
4	3. 看護過程の展開 1) 小児看護過程展開の基礎知識		
5	2) 関連図の描写, アセスメント	演習	石井 中山
6	3) アセスメント		
7	4) アセスメント		
8	5) アセスメント		
9	6) 問題点の抽出, 優先順位の決定, 到達目標		
10	7) 具体策の立案, 評価		
11	4. 小児看護技術演習 1) 入院している子どもの日常生活の援助① バイタルサイン測定, 身体発育評価, 抑制	校内実習	石井 中山
12	1) 入院している子どもの日常生活の援助② 子どもの入院環境		
13	2) 入院している子どもへの遊びと学習の援助 グループワーク①	演習	石井
14	2) 入院している子どもへの遊びと学習の援助 グループワーク②		
15	2) 入院している子どもへの遊びと学習の援助 発表 / まとめ		

母性看護学

ひとのもつ種族保存の働き（生殖）とその意義，母性保健活動における看護の役割を理解し，妊産褥婦および新生児の看護を実践できる基礎的知識と技術，態度を習得する。

区 分		専門分野				R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
母性看護学概論		2	前期	1	30	講義/演習
担当教員	中 島 隆 広 [医学部（産婦人科）] 小 林 理 [医学部（産婦人科）] 今 野 千 春 [看護専門学校]					
学習目的	母子と家族および女性を看護の対象とし、母性看護の基盤となる概念や母子統計、母子関係法規などの幅広い視点から、ライフステージ各期の対象の特徴や看護問題と看護を理解する。					
到達目標	(1) 母性の概念と母性看護の意義および特性について説明できる。 (2) 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状について説明できる。 (3) 性についての概念と人間の性の特徴について説明できる。 (4) 母性看護における生命倫理の諸問題と看護について説明できる。 (5) リプロダクティブヘルス/ライツの理念について説明できる。 (6) 女性のライフステージ各期の特徴や健康問題と看護について説明できる。 (7) 母性に関連のあるテーマに対して看護のあり方を考察し記述できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	1年次の「解剖学Ⅱ」，「生理学Ⅱ」で学んだ関連項目を復習しておくこと。 教科書の関連頁に目を通して，30分程度で復習を行い，次回の講義に臨むこと。または，講義時に適宜指示する。		
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験70%（筆記：今野70点）＋性周期レポート10%＋テーマレポート20%		
教科書	系統看護学講座，専門分野 母性看護学 [1] 母性看護学概論／医学書院 系統看護学講座，専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論／医学書院		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	母性看護の概念と母性の特性	講義	今野
2	母性看護の対象を取り巻く環境 現代女性のライフサイクルの変化		
3	生殖器の形態・機能 性周期と月経異常 性分化のメカニズム，出生前診断		中島
4	女性のライフステージ各期の健康問題 （性感染症・人工妊娠中絶・不妊症・更年期障害）		小林
5	母性看護にかかわる法律 母性看護にかかわる施策		今野
6	母性看護における倫理 母性看護における安全・事故予防		
7	セクシュアリティ リプロダクティブ・ヘルス/ライツ		
8	ライフステージ各期の特徴と保健指導（思春期）		
9	ライフステージ各期の特徴と保健指導（思春期）		
10	ライフステージ各期の特徴と保健指導（成熟期）		
11	ライフステージ各期の特徴と保健指導（成熟期）		
12	ライフステージ各期の特徴と保健指導（更年期・老年期）		
13	母性に関するテーマの発表	演習	
14			
15	終了試験(50分) と解説	講義	

区 分	専門分野					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
母性看護学 看護の方法Ⅰ－1		2	前期	1	30	講義
担当教員	田 中 ゆりあ [医学部（産婦人科）] 川 上 香 織 [医学部（産婦人科）] 小 松 篤 史 [医学部（産婦人科）] 宮 川 康 司 [医学部（産婦人科）] 加 藤 果野子 [医学部（産婦人科）] 千 島 史 尚 [医学部（産婦人科）] 加 藤 恵利奈 [非常勤講師]					
学習目的	周産期における妊産褥婦，および新生児（胎児含む）とその家族の特徴と正常な経過及び異常について理解する。					
到達目標	(1) 正常な経過をたどる妊娠分娩産褥および新生児の生理的変化について説明できる。 (2) 妊娠分娩産褥および新生児の異常について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	1年次の「解剖学Ⅱ」，「生理学Ⅱ」で学んだ関連項目を復習しておくこと。 教科書の関連頁に目を通して，30分程度で復習を行い，次回の講義に臨むこと。					

成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）100点 妊娠期〔田中・加藤（果）20点＋川上10点〕＋分娩期〔千島15点＋小松15点〕 ＋産褥期〔加藤（恵）20点〕＋新生児期〔宮川20点〕	
教科書	系統看護学講座，専門分野 母性看護学〔2〕 母性看護学各論／医学書院	
回数	授 業 内 容	担当者
1	≪妊娠期≫ 基礎知識 解剖生理，性周期 不妊治療 不妊とその原因，不妊検査，不妊治療	加藤（果）
2	遺伝相談 遺伝相談とは，出生前診断，出生前診断の実際，着床前診断 胎児治療と遺伝子治療	田中
3	妊娠期の身体的特性 妊娠の生理，胎児の発育とその生理，母体の生理的变化	加藤（果）
4	妊婦と胎児のアセスメント 妊娠とその診断，妊娠期に行う検査とその目的，胎児の発育と 健康状態の診断，妊婦と胎児の経過の診断とアセスメント	田中
5	周産期医療のシステム 母体搬送，新生児搬送，チーム医療，周産期ネットワーク 妊娠の異常 ハイリスク妊娠，妊娠期の感染症	川上
6	妊娠の異常 妊娠疾患，多胎妊娠，妊娠持続期間の異常，異所性妊娠	
7	≪分娩期≫ 分娩の要素 分娩とは，分娩の3要素，胎児と子宮および骨盤との関係 分娩の機序	千島
8	分娩の経過 分娩の進行と産婦の身体的変化，産痛，分娩が胎児に及ぼす影響 産婦と胎児の健康状態のアセスメント	
9	分娩の異常 産道の異常，娩出力の異常，胎児の異常による分娩障害 胎児の付属物の異常	小松

10	分娩の異常 胎児機能不全，分娩時の損傷，分娩第3期および分娩直後の異常	小松
11	分娩の異常 分娩時異常出血，産科処置と産科手術	
12	《産褥期》 産褥期の身体的変化 心理的变化（マタニティブルーズ） 産褥の異常 子宮復古不全，産褥期の発熱，産褥血栓症，精神障害	加藤（恵）
13	《新生児期》 新生児の生理 新生児とは，新生児の機能	宮川
14	新生児のアセスメント 新生児の診断，新生児の健康状態のアセスメント	
15	新生児の異常 新生児仮死，新生児一過性多呼吸，呼吸窮迫症候群 胎便吸引症候群，分娩外傷，早産児，低出生体重児 高ビリルビン血症，低血糖症 新生児・乳児ビタミンK欠乏性出血症	
16	終了試験・解説	

区 分	専門分野					R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
母性看護学 看護の方法Ⅰ－2		2	前期 後期	1	30	講義
担当教員	内 菜緒子〔板橋病院（看護部）〕 桂 田 陽 子〔板橋病院（看護部）〕 今 野 千 春〔看護専門学校〕 浦 川 寿美子〔看護専門学校〕					
学習目的	女性を取りまく社会環境問題を理解したうえで、周産期における妊産褥婦、および新生児（胎児含む）とその家族に必要な看護を理解する。					
到達目標	(1) 正常な経過をたどる妊娠分娩産褥および新生児の看護について説明できる。 (2) 妊娠分娩産褥および新生児の異常時の看護について説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	2年次の「母性看護学 看護の方法Ⅰ－1」で学んだ関連項目を復習しておくこと。 教科書の関連頁に目を通して、30分程度で復習を行い、次回の講義に臨むこと。					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験 100%（筆記：浦川30点＋今野30点＋内20点＋桂田20点）					

教科書		系統看護学講座，専門分野 系統看護学講座，専門分野	母性看護学 [1] 母性看護学 [2]	母性看護学概論／医学書院 母性看護学各論／医学書院
回数	授 業 内 容			担当者
1	≪妊娠期≫ 妊婦健康診査 妊婦が受ける母子保健サービス			浦川
2	妊婦の健康相談・教育の実際 妊娠中のマイナートラブルと看護			
3	親になるための準備教育 妊娠期の心理・社会的特性			
4	妊娠の異常と看護			
5	≪分娩期≫ 産婦と家族の看護，分娩期の看護の実際			桂田
6	産婦の心理・社会的変化			
7	分娩の異常と看護			
8	≪産褥期≫ 褥婦の健康状態のアセスメント 全身（子宮）復古促進の看護			今野
9	不快症状の看護 感染予防の看護			
10	母乳栄養確立の看護			
11	育児にかかわる看護，施設退院後の看護 産褥期の心理・社会的変化			
12	産褥の異常と看護			
13	≪新生児期≫ 新生児の生理，新生児の健康状態のアセスメント			内
14	新生児の看護 出生直後の看護，出生後から退院時までの看護 生後1か月健診に向けた退院時の看護			
15	新生児の異常と看護			
16	終了試験・解説			

区 分	専門分野				R4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
母性看護学 看護の方法Ⅱ		2	後期	1	30	講義 演習 校内実習
担当教員	今 野 千 春 [看護専門学校]					
学習目的	周産期における妊産褥婦，および新生児（胎児含む）の看護に必要な基本的技術を習得し，母子の看護を理解する。					
到達目標	(1) 妊娠分娩産褥および新生児の看護に特有な基本的技術や保健指導を一部実施できる。 (2) 早期産褥期における褥婦の看護過程を説明できる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	2年次の「母性看護学 看護の方法Ⅰ－1」，「母性看護学 看護の方法Ⅰ－2」で学んだ関連項目を復習しておくこと。 教科書の関連頁に目を通して，30分程度で復習を行い，次回の講義に臨むこと。または，講義時に適宜指示する。					
成績評価基準	評価方法 絶対評価 評価内容 終了試験（筆記）60%＋保健指導20%＋看護過程20%					

教科書		系統看護学講座，専門分野 母性看護学 [2] 母性看護学各論／医学書院		
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	母性看護に必要な技術（妊娠期・分娩期）		講義	今野
2	母性看護に必要な技術（産褥期・新生児期）			
3	《産褥期》 ・乳房マッサージ，乳頭・乳輪マッサージ			
4	《妊娠期》 疑似妊婦体験（妊婦体験ジャケット着用） 妊婦の健康診査 （子宮底測定，腹囲測定，児心音聴取レオポルドの触診法） 《産褥期》 褥婦の観察 （子宮底測定と輪状マッサージ，創部と悪露パッドの観察） 《新生児》 児の抱き方と寝かせ方，排気のさせ方		校内実習	
5	保健指導準備		演習	
6	《新生児》 ・沐浴，臍処置，耳鼻腔の清潔，衣類の着脱		校内実習	
7	保健指導準備		演習	
8	保健指導発表			
9				
10	《看護過程》 産褥期における看護過程の考え方 産褥期の看護過程の特徴と概要		講義	
11	褥婦に関する情報の意味			
12	退行性変化のアセスメント			
13	進行性変化のアセスメント 心理・社会的変化のアセスメント			
14	具体策，評価			
15	終了試験（50分）と解説			

精神看護学

人間の精神の発達とそれに影響を与える要因を理解し，現代社会における精神の健康の保持・増進及び危機状態への援助に必要な知識，技術，態度を学び，その過程を通して自己洞察し得る能力を習得する。

区 分		専門分野				R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
精神看護学 精神看護学概論Ⅰ		1	前期	1	15	講義
担当教員	斎 藤 かおり [医学部（精神医学）] 早乙女 優 太 [医学部（精神医学）] 永 井 康 [医学部（精神医学）]					
学習目的	精神の心の発達，ライフサイクルに伴う発達課題，心理，社会的危機及び精神の健康に影響をもたらす現代社会の環境的要因について理解できる。					
到達目標	1. 精神の構造と働きについて述べられる。 2. 精神の発達，危機について述べられる。 3. 精神に障がいをもつ人と，その家族の精神保健について述べられる。 4. 現代社会の特徴を踏まえた精神の健康の維持，増進について説明できる。 5. 精神保健医療福祉の変遷を知り，日本の医療の特色と課題について述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ，生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために，状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し，説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し，異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して，論理的かつ批判的に思考することができる。 ☐ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し，解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち，果敢に挑戦することができる。 ☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり，豊かな感性を備え，対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し，その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☐ 省察力 主体的・自律的に行動し，専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	講義の予習・復習として、1時間程度の自主学習を望む。	
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）100%	
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 / メヂカルフレンド社	
参考書	系統看護学講座 別巻 精神保健福祉 / 医学書院	
回数	授 業 内 容	担当者
1	1. 精神保健の考え方	斎藤
2	2. 精神の構造と働き	
3	3. 精神の発達（1）	永井
4	精神の発達（2）	
5	4. 精神の危機と適応	早乙女
6	5. 現代社会と精神の健康	
7	6. リカバリを機軸とした精神医療	
8	終了試験・解説	

※精神看護学においては、人を形容する場合には、「障がい」と表記する。

区 分	専門分野					R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
精神看護学概論Ⅱ		2	前期	1	30	講義・演習
担当教員	赤 羽 明 子 〔看護専門学校〕					
学習目的	精神看護の変遷や法制度を学び、精神看護の目的、役割について理解できる。					
到達目標	1. 精神看護の目的、対象を知り看護の役割について述べられる。 2. 精神に障がいをもつ人を守る法律・制度について述べられる。 3. 精神を障がいされた人とその家族を知るコミュニケーションができる。 4. 現代社会の特徴を踏まえ精神科看護の現状と課題を説明できる。 5. 精神看護における人権擁護と倫理的配慮について自分の考えを述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー)との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。						
☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る						
☒ リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。						
☒ 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の各講義内容についての自主学習を望む。					
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）90％ レポート10％					

教科書		新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護／メヂカルフレンド社		
参考書		看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 /メヂカルフレンド社		
回数	授 業 内 容		授業方法	担当者
1	1. 精神看護の目的と役割		講義	赤羽
2	2. 精神看護の専門性			
3	3. 精神に障がいをもつ人とその家族の理解		演習	
4				
5	4. 精神医療の変遷と精神保健医療福祉の動向		講義	
6	5. 精神看護におけるコミュニケーション		演習	
7				
8	6. 患者－看護師関係の理解		講義	
9				
10	7. 精神科アセスメント			
11				
12	8. 地域生活を支える社会制度と社会資源			
13	9. 精神医療の治療的環境と多職種連携			
14	10. 法に基づく看護と倫理			
15				

区 分	専門分野				R 4（2022）年度	
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
精神看護学 看護の方法 I		2	前期	1	30	講義・演習
担当教員	宮 本 武 [医学部（精神医学）] 赤 羽 明 子 [看護専門学校]					
学習目的	精神の危機状況や精神に障がいをもつ人とその家族への援助方法を理解できる。					
到達目標	1. 精神障がいと病理について述べられる。 2. 精神障がいの診断と検査および治療方法について述べられる。 3. 精神障がいの回復過程を説明できる。 4. 精神障がいによる日常生活上の問題を理解し、療養生活を支援する看護を説明できる。 5. 精神医療の検査・治療を受ける患者の看護の方法が述べられる。 6. 現代社会に注目される精神疾患の特徴を踏まえ、回復を支援する看護が述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
<自ら学ぶ> ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観をもつことができる。 専門的知識・技術を用い、科学的根拠に基づいた看護を実践することができる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 <自ら考える> ☐ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 <自ら道を開く> ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図る ☐ リーダーシップ力 保健・医療・福祉等について総合的視野を持ち、関連分野の人々と連携・協働することが理解できる。 ☐ 省察力 専門職として、生涯にわたり自己研鑽することができる。						
準備学習	授業の予習・復習として、2時間程度の各講義内容についての自主学習を望む。					

成績評価基準		評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）90％ レポート10％	
教科書		新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護／メヂカルフレンド社	
参考書		看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 /メヂカルフレンド社	
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1．精神障がいをもつ人の抱える症状と診断のための検査	講義	宮本
2	2．精神症状と精神科的診察		
3	3．主な精神疾患，障がいと治療法 1) 精神科での主な治療法		
4	2) 統合失調症，気分障害 3) 強迫症及び関連症群		
5	4) 物質関連障害及び嗜癖性障害群 5) 摂食障害		
6	6) 心的外傷及びストレス因関連障害群 7) 解離性障害，身体症状症		
7	8) パーソナリティ障害 9) 発達障害		
8	4．統合失調症の看護の基本 1) 統合失調症患者の理解 2) 統合失調症の看護計画	講義	赤羽
9	5．気分障害の看護の基本 1) うつ病患者の理解 2) うつ病の看護計画		
10	6．主な治療に伴う看護 1) 精神療法 2) 薬物療法 3) 作業療法 4) 修正型電気痙攣療法 5) S S T		
11	7．精神科レクリエーション 1) 精神科レクリエーションにおける看護の役割	演習	
12	2) レクリエーション企画		
13	8．現代社会に注目される精神疾患と回復を支援する看護 1) 依存 2) 摂食障害 3) パーソナリティ障害	講義	
14	4) P T S D 5) 発達障害		
15	9．患者家族の支援と看護師の役割		

区 分	専門分野					R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
精神看護学 看護の方法Ⅱ		2	後期	1	30	講義・演習
担当教員	赤 羽 明 子 [看護専門学校]					
学習目的	精神に障がいをもつ人の基本的な看護過程の展開ができる。					
到達目標	1. 回復（リカバリ）モデルを用いて対象の全体像を記述できる。 2. 精神に障がいをもつ人の特徴を踏まえて治療的コミュニケーションができる。 3. 心理教育的アプローチを踏まえて、精神に障害をもつ人の自己管理にむけた退院指導を一部実施できる。 4. プロセスレコードを通して治療的コミュニケーションの考察を記述できる。 5. 安全安心の治療的環境づくりにむけた自己の課題が述べられる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	講義の予習・復習，課題への取り組みとして2時間程度の各講義内容についての自主学習を望む。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：終了試験（筆記）50% 看護過程30% レポート20%		
教科書	新体系 看護学全書 精神看護学① 精神看護学概論 精神保健 新体系 看護学全書 精神看護学② 精神障害をもつ人の看護		
参考書	看護実践のための根拠がわかる 精神看護技術 /メヂカルフレンド社 学生一患者のストーリーで綴る実習展開「精神看護学」/医歯薬出版 全人的視点にもとづく精神看護過程 第2版/医歯薬出版		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. ウェルネス看護診断の活用	講義	赤羽
2	2. 統合失調症の看護過程 1) 情報収集・情報の整理		
3	2) 情報の分析・解釈	演習	
4			
5	3) 問題リスト	講義	
6	4) 看護計画 (1) 治療的コミュニケーションの実際		
7	(2) 看護計画に基づいたロールプレイング	演習	
8			
9	(3) 看護計画・発表会		
10			
11	(4) 評価		
12	3. 患者一看護師関係をアセスメントする 1) プロセスレコードを用いたアセスメントの実際		
13	2) 対自化と看護者の自己成長		
14	4. 気分障害（双極性障害）の看護過程の展開	講義	
15			

看護の統合と実践

チーム医療および他職種との協働の中で看護師としてのメンバーシップおよびリーダーシップを理解するとともに看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。

医療安全や危機管理，災害直後から支援できる看護の基礎的知識を理解し，また国際社会において，広い視野に基づき看護師として諸外国との協力を考えることができる態度を養う。

区 分	専門分野					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
災害看護		2	後期	1	15	講義 校内実習
担当教員	西 尾 治 美〔板橋病院 看護部〕					
学習目的	災害時の看護について理解を含め、災害直後から支援できる看護の基本的知識について理解する					
到達目標	1. 災害及び災害看護に必要な基礎知識を述べることができる 2. 災害が人々の生命や生活に及ぼす影響を述べることができる 3. 災害発生時の社会の対応や仕組みが説明できる 4. 災害時における看護の役割、災害各期における看護活動が説明できる 5. 災害時に必要な看護技術の一部を実施できる 6. 被災者の心理的ケアの必要性が説明できる 7. 災害医療と救急医療の違いを説明できる 8. 災害時における看護の役割の重要性及び継続的な災害看護教育・訓練の必要性を説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	毎回の授業の予習復習として1時間程度の自主学習が望まれる		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：筆記試験（100%）		
教科書	新体系 看護学全書 看護の統合と実践② 災害看護学		
参考書	系統的看護学講座 専門分野 看護の統合と実践[3] 災害看護学・国際看護学/医学書院		
回数	授業内容	形態	担当者
1	1. 災害時の保健医療とは 1) 災害医療体制の発展と課題 2) 災害看護とは	講義	西尾
2	2. 災害保健医療の理解 1) 災害の理解 2) 災害保健医療対応の原則 3) 災害と法制度 4) 災害時の支援体制，医療体制 5) 災害時に設置される様々な施設 6) 災害時の倫理原則と課題		
3	3. 災害サイクルに応じた災害看護		
4	4. 被災者特性に応じた災害看護		
5	5. 災害とこころのケア 1) 被災者のこころのケア 2) 被災救援者のこころのケア 3) 救援者のストレスとこころのケア		
6	6. 救急医療と救急看護 1) 救急医療・救急看護の特徴・機能・役割 2) 救急医療センターの紹介	校外実習	
7	3) 一次救命処置と止血法の知識と実際	校内実習	
8	終了試験・解説		

区 分		専門分野				R 4 (2022) 年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
国際看護		3	前期	1	15	講義
担当教員	庄 木 里 奈 〔非常勤講師〕 浦 川 寿美子 〔看護専門学校〕					
学習目的	国際社会・多様な文化における看護の役割が理解できる					
到達目標	1. 世界の保健医療の現状が説明できる 2. 国際協力について説明できる 3. 多様な文化における看護職の役割が説明できる 4. 海外における看護の実際について述べることができる 5. 医療現場における様々な外国人への看護の対応を説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 ＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 ＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 ＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	配布される資料を予習・復習をし、疑問点を明らかにし講義に臨むこと					
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：課題（20％），試験（80％）					

教科書	プリント配布		
参考書	国際看護学 中山書店 国際看護 医学書院 国際化と看護 メディカ出版 災害看護学・国際看護学 医学書院 国際看護 南江堂		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	国際看護学とは 1) 世界の保健医療の現状 2) 国際看護学の定義と対象 3) 国際看護学に関する基礎知識 4) 日本と諸外国の看護制度	講義	浦川
2	グローバルヘルス 国際協力の仕組み 1) 国際救援・保健医療分野で活躍する医療機関 2) 国際救援の調整 3) 開発協力		
3 4	異文化理解と看護 1) 文化を考慮した看護理論 2) 異文化調べ 3) 異文化を考慮した看護	演習	
5 6	海外における看護の実際（JICA, 赤十字, NPO等の活動）	講義	庄木
7	在日外国人・在外日本人への医療と看護の実際 1) 在日外国人・訪日外国人への医療と看護の実際 2) 在外日本人の医療と看護	講義	浦川
8	終了試験・解説		

区 分		専門分野				R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
看護管理		3	前期	1	15	講義
担当教員	富 澤 かつ江 [板橋病院 看護部] 佐 藤 今 子 [板橋病院 看護部] 大 橋 初 枝 [看護専門学校]					
学習目的	1. 看護の現状と看護管理が果たす役割について理解する 2. キャリアマネジメントを考え方を理解し専門職業人への自覚と意識を高める					
到達目標	1. 看護管理の概念及び看護におけるマネジメントを基礎について説明できる 2. 看護職の提供する看護ケアのマネジメントについて説明できる 3. 看護サービスのマネジメントについて説明できる 4. 人材育成・キャリア開発について理解し、自己のキャリア形成について考えることができる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☒ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞ ☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	各回の講義の予習として教科書の内容について30～1時間程度の自主学習が望まれる。 また復習として、教科書を用いた講義内容をノートにまとめる自主学習が望まれる。その際、国家試験問題との関連を確認すると効果的である					
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：試験（100%）					
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔1〕 看護管理/医学書院					

参考書		なし	
回数	授 業 内 容		担当者
1	1. 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは 2) 看護におけるマネジメント		富澤
2	2. 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 看護におけるマネジメント 3) 安全管理 4) 医療事故対策（院内感染対策と災害の予防の対応） 5) チーム医療 6) 看護業務の実践		
3	3. 看護サービスのマネジメント 1) 組織目的達成のマネジメント 2) 看護サービス提供の仕組みづくり 3) 人材のマネジメント 4) 施設・設備・物品のマネジメント 5) 情報のマネジメント 6) 組織におけるリスクマネジメント 7) サービス評価		
4	4. 看護を取り巻く諸制度 1) 看護の定義 2) 看護職とは		
5	5. マネジメントに必要な知識と技術 1) 組織とマネジメント 2) リーダーシップ 3) 組織の調整 4) 組織と個人		
6	6. 看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとキャリア形成 2) 看護職のキャリアマネジメントモデル 3) 自分自身のキャリアプラン		大橋
7	4) キャリアマネジメントの実際		佐藤
8	終了試験・解説		

区 分	専門分野					R4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
医療安全		2	前	1	15	講義 校内実習 演習
担当教員	浅 海 宏 [板橋病院 臨床工学技士室] 浦 川 寿美子 [看護専門学校]					
学習目的	基礎教育において必要な医療安全の基礎知識を理解できる					
到達目標	1. 人間の行動にはヒューマンエラーが存在することを説明することができる 2. 医療事故の定義・分類を説明できる 3. 看護業務における事故の特徴を説明することができる 4. 医療事故防止を事例にて演習し、事故の要因・原因・事故防止を説明できる 5. ヒューマンエラーを起こす存在であることを自覚し、自己モニタリングの必要性を説明できる 6. 医療機器における事故の要因を述べることができる 7. 医療安全に対する組織としての取り組みを説明できる					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連 ＜自ら学ぶ＞ ☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。 ☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。 ＜自ら考える＞ ☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。 ☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。 ＜自ら道を開く＞ ☐ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。 ☒ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。 ☒ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。 ☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						
準備学習	授業の予習・復習として30分～1時間程度の自主学習が望まれる 演習・校内実習では課題に取り組み疑問点を明らかにしておく					

成績評価基準	評価方法 絶対評価		
	評価内容 終了試験（筆記） 80点 課題レポート 20点		
教科書	系統看護学講座 専門分野 看護の統合と実践〔2〕 医療安全/医学書院		
参考書	医療安全に活かすKYT/メヂカルフレンド社 医療安全ワークブック/医学書院 実践的医療安全トレーニング/医学書院		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 医療安全とは 1) 人間の行動とヒューマンエラー 2) 医療安全を学ぶ意義と安全努力の責務 3) 医療事故と看護業務の構造 4) 業務をこえて発生する間違いと発生要因	講義	浦川
2	2. 看護事故防止の考え方 1) 看護事故防止の考え方 2) 事故発生後の患者の傷害拡大防止 3) 重大事故発生時の医療チームおよび組織の対応		
3	3. 診療の事故と療養上の事故とその防止 1) 診療の事故とその防止とシステムの改善 2) 療養上の事故とその防止とシステムの改善 4. 組織としての医療安全対策と管理 1) 医療チームにおけるコミュニケーション 2) 医療事故防止のための患者・家族とのコミュニケーション 3) 医療安全管理のための組織体制 4) ヒヤリハット報告と積極的な組織的な医療安全活動への参加		
4	5. 診療の事故防止・療養上の事故の防止を考える 1) 事例による事故の要因・原因・事故防止対策 2) KYT（危険予知トレーニング）	演習	
5	6. ME機器とは：ME機器を活用する視点の育成 1) ME機器の特徴と事故の要因 7. 臨床工学士とは 1) 臨床工学士が必要とされるようになった経緯 2) 看護師との連携 8. ME機器の種類 9. 事故が起こりやすい機器と事故の実際 10. 医療機器トラブルに対する医療安全対策の実際	講義	浅海
6	11. 診療に事故防止の実際 1) 人工呼吸器・除細動器・輸液ポンプ・シリンジポンプ	校内実習	
7	12. 医療業務における医療安全と国内外の医療安全と国際連携 1) 看護師の労働安全衛生上の事故防止 2) 国内外の医療安全対策の潮流と国際連携	講義	浦川
8	終了試験・解説		

区 分	専門分野					R 4（2022）年度
科目名		対象学年	学 期	単位数	時間数	授業方法
ケース・スタディ		3	前期 後期	1	30	講義 演習
担当教員	大 橋 初 枝 〔看護専門学校〕					
学習目的	ケース・スタディを通して、看護の研究や実践の仕方を学ぶ。					
到達目標	1. 看護実践上の疑問や未知な事柄をもとに、研究目的を述べることができる。 2. 研究目的に沿って必要な情報を正確に記述できる。 3. 科学的根拠や理論を用いて、看護実践の根拠・原因・要因などを考察できる。 4. 学生自身がどんな努力をしたか、発見できたこと、学習できなかった点とその理由、今後の学習課題などを記述できる。 5. 聴き手にわかりやすく、効果的な発表ができる。 6. 興味・関心を持ち、積極的に聴講することで、学びを共有できる。 7. 看護を探究する姿勢を持つことができる。					
専門士授与・卒業の認定に関する方針(ディプロマ・ポリシー) との関連						
＜自ら学ぶ＞						
☒ 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観 人間に深い関心を寄せ、生命の尊厳と人権を尊重する倫理観を持ち看護が実践できる。 健康でその人らしい生活を支援するために、状況に応じた看護が実践できる。						
☐ 世界の現状を理解し、説明する力 国内外の変化や諸課題について理解し、異なる文化や様々な価値観を尊重し国際貢献に関心を持つことができる。						
＜自ら考える＞						
☒ 論理的・批判的思考力 看護や医療および社会で起こっている様々な事象に対して、論理的かつ批判的に思考することができる。						
☒ 問題発見・解決力 看護職としての課題を見出し、解決策を提案することができる。						
＜自ら道を開く＞						
☒ 挑戦力 新たな課題に関心を持ち、果敢に挑戦することができる。						
☐ コミュニケーション力 看護職としての役割を果たすためのコミュニケーションを図ることができる。 やさしさと思いやり、豊かな感性を備え、対象との円滑な人間関係を築くことができる。						
☐ リーダーシップ力 多職種と連携・協働し、その人らしく生活できるよう意思決定を支援することができる。						
☒ 省察力 主体的・自律的に行動し、専門職業人としての看護の発展や質の向上に貢献できる。						

準備学習	日頃の臨地実習での看護実践上の疑問や未知な事柄に対し，研究的思考する姿勢をもって臨む。 ケース・スタディ発表については，抄録を読み積極的に質疑・聴講に臨む。		
成績評価基準	評価方法：絶対評価 評価内容：論文内容60% 取組み・態度・発表30% レポート課題：10 %		
教科書	坂本玲子他：系統看護学講座（別巻） 看護研究 / 医学書院		
参考書	適時提示		
回数	授 業 内 容	授業方法	担当者
1	1. 研究とは 1) 看護研究の意義・目的	講義	大橋
2	2. 看護研究のはじめ方 1) リサーチクエスションとは 2) 研究における倫理的配慮 3) 研究のデザイン	講義	
3	3. ケース・スタディの進め方 1) エピソード記述 2) 計画書の書式と書き方 4. ケース・スタディのまとめ方	講義	
4	5. 文献の活用 1) 文献とは 2) 文献の種類 3) 文献レビューの目的 4) 文献提示方法	講義	
5	6. 文献検索の実際 1) 文献検索データベース 2) シソーラスとは 3) AND検索/OR検索/NOT検索	演習	
6	7. エピソード記述の実際 8. 研究計画書作成の実際	演習	
7	9. 抄録の書き方 10. これからの看護研究	講義	
8	11. 論文作成指導	演習	大橋 全教員
9			
10			
11	12. 口頭発表 1) 発表準備（発表原稿・発表補助資料） 2) 質疑応答の方法 ※レポート課題	講義	大橋
12	13. ケース・スタディ発表・聴講	演習	大橋 全教員
13			
14			
15			

專 門 ・ 実 習

臨地実習

基礎的知識・技術・態度を統合し，対象に応じた看護が実践できるための基礎的能力を養う。

臨 地 実 習

科 目	時間	単位	目 的
基礎看護学実習Ⅰ	45	1	患者の基本的ニーズを把握し、対象に適した日常生活の援助ができる。
基礎看護学実習Ⅱ	90	2	看護過程の展開の技術を理解する。
地域・在宅看護論実習	90	2	在宅医療サービスにとどまらず、広く保健・福祉サービスや他の社会サービスの活用を含めて、対象が「在宅」で「地域社会」で、質の高い日常生活の営みを獲得し、維持できるよう援助する在宅看護の意義と役割を理解する。また、在宅サービスに包括される在宅看護の実践に必要な基礎的知識・日常生活および療養生活に必要な基礎的援助技術・態度を習得する。
成人看護学実習Ⅰ	135	3	周術期の患者の看護を体験し、実践に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する
成人看護学実習Ⅱ	135	3	慢性期・終末期の患者の看護を体験し、実践に必要な基礎的知識、技術、態度を習得する
老年看護学実習	180	4	老年期にある対象の特徴を総合的に理解し、対象の持てる力に着目し、その人らしい生活を支援するための看護を実践するために必要な基礎的知識・技術・態度を習得する。
小児看護学実習	90	2	発達段階にある小児とその家族の看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。
母性看護学実習	90	2	妊娠分娩産褥期における母性および新生児の特徴を理解し、母性と家族に必要な看護を実践するための基礎的知識・技術・態度を習得する。
精神看護学実習	90	2	精神医療における看護の役割・機能及び精神を障害された個々およびその家族の理解を深め、精神の健康回復への援助、その過程を通して自己洞察し得る能力を習得する。
統合実習	90	2	看護活動を総合的に実習し、知識・技術・態度を統合した看護実践能力を深める。

番・氏名

学習効果を高めるための教科外学習

教科外活動	学年		
	1 年	2 年	3 年
入学式	2	2	
新入生ガイダンス	24		
戴帽式	10	2	
卒業式		2	4
始業式		2	2
終業式	2	2	
防災訓練	2		2
健康診断	2	2	2
スポーツ大会	4	4	
若樹祭	2	2	2
ケース・スタディ聴講	8	8	
看護学生看護研究学会		4	
国家試験対策 総合講義			66
” 総合試験			20
” 模擬試験	4	8	68
” 外部講師の講義	2	2	6
計	62	40	172

実務経験のある教員による授業内容

区 分		科 目	時 間	単 位	氏 名	実務経験
基礎看護学	基礎看護学	基礎看護学概論Ⅰ	30	1	大橋 初枝	国立病院（手術室・脳外科），市立病院（循環器外科・消化器内科）での実務経験，さらに看護教員としての現在までの経験から，看護の基本となる概念，看護の役割・機能，看護の対象の理解や多職種チームにおける看護師の役割等をわかりやすく教授していきます。また，入院環境・看護の実際を見学する機会を設け，対象の理解や看護師としてのやりがいを実感できるよう，また感性豊かな学生が育つよう支援します。
		基礎看護学概論Ⅱ	15	1		国立病院（手術室・脳外科），市立病院（循環器外科・消化器内科）での実務経験，さらに看護教員としての現在までの経験から，看護における倫理，看護理論，広がる看護の活動領域等を教授し，経験を踏まえながら看護職のさまざまなキャリアアップの状況，社会が求める看護職のあり方について具体的に説明します。
		看護の基本となる技術Ⅰ	30	1	武本 亜紀	専門学校，看護大学での授業経験，臨床での経験を基に，看護の視点から対象の健康状態を客観的に把握し必要な情報収集のし方やアセスメントについて理解を深められるように教授します。
					正路 裕子	大学病院(手術室、心カテ室), 総合病院(一般内科)の実務経験を活かし、臨床現場での話を交えながらわかりやすく説明します。看護の知識や技術だけでなく、看護の楽しさを伝えられるように教授していきます。
					平野 裕子	総合病院での看護経験の話を交えながら，看護におけるコミュニケーションの重要性を伝えていきます。更に，技術の習得を目指すとともに，対象の思いにも気づける機会にしたいと考えています。
		看護の基本となる技術Ⅱ	30	1	武本 亜紀	専門学校，看護大学での授業経験，臨床での経験を基に，看護の視点から対象の健康状態を客観的に把握し必要な情報収集のし方やアセスメントについて理解を深められるように教授します。
		看護の基本となる技術Ⅲ	30	1	平野 裕子	総合病院での看護経験や前任校での教育経験を基に、看護過程の展開における基礎的な知識をわかりやすく教授します。また、事例を用いて情報収集やアセスメントについて理解を深められるように教授します。
		生活を整える技術Ⅰ	30	1	平野 裕子	総合病院での看護経験や前任校での教育経験を基に、「環境」についての基礎的な知識・技術をわかりやすく教授します。
					武本 亜紀	専門学校，看護大学での授業経験，臨床での経験を基に，看護の視点から対象の健康状態を客観的に把握し必要な情報収集のし方やアセスメントについて理解を深められるように教授します。
		生活を整える技術Ⅱ	30	1	正路 裕子	大学病院(手術室、心カテ室), 総合病院(一般内科)の実務経験を活かし、臨床現場での話を交えながらわかりやすく説明します。看護の知識や技術だけでなく、看護の楽しさを伝えられるように教授していきます。
		生活を整える技術Ⅲ	30	1	齊藤 美鈴	臨床での看護経験の話を交えながら，食事・排泄における看護技術の意義や特徴を伝えていきます。更に，援助を受ける対象の思意を理解し、配慮することの必要性についても気づけるように教授します。
		診療に伴う技術	30	1	武本 亜紀	専門学校，看護大学での授業経験，臨床での経験を基に，看護の視点から対象の健康状態を客観的に把握し必要な情報収集のし方やアセスメントについて理解を深められるように教授します。
					浦川 寿美子	看護師，助産師として大学病院，市民病院，総合病院などでの臨床経験がある。その経験を活かし、病院における検査時の看護、看護師の役割について講義を行います。
		臨床看護技術Ⅰ	30	1	齊藤 美鈴	臨床での経験を活かし，経過別看護の必要性、経過に応じた看護の特徴について伝えていきます。
					平野 裕子	総合病院での看護経験の話を交えながら，症状に応じた看護の必要性、看護技術の意義や特徴を伝えていきます。対象の思いにも気づける機会にしたいと考えています。
					正路 裕子	大学病院(手術室、心カテ室), 総合病院(一般内科)の実務経験を活かし、臨床現場での話を交えながらわかりやすく説明します。看護の知識や技術だけでなく、看護の楽しさを伝えられるように教授していきます。
		臨床看護技術Ⅱ	15	1	齊藤 美鈴	臨床での経験を活かし，患者に提供されるさまざまな治療についての概論と，治療を必要とする患者がイメージでき，患者に必要な看護について理解できるよう，臨床の事例を交えながら講義したいと考えます。
		基礎看護学実習Ⅰ	45	1	正路 裕子	大学病院(手術室、心カテ室), 総合病院(一般内科)の実務経験を活かし、臨床現場での話を交えながらわかりやすく説明します。看護の知識や技術だけでなく、看護の楽しさを伝えられるように教授していきます。
					越智 知子	総合病院と大学病院での経験での経験と実習指導者との経験を活かし，初めての実習を不安なく行えるようにしていきたいと考えています。
					石井 祐子	総合病院消化器外科病棟（約1年），内科・小児科クリニック（約1年）での実務経験を生かし，これまでの机上・学内での学習が臨床実習でいかに展開されるのかを具体的に学ばせ，知識・技術と実践を統合させ，看護を発展的に捉えられるよう指導したいと考えています。
					菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院での5年間の看護師経験の話も交えながら，臨床現場においての基礎看護学で学ぶ看護技術・特徴が実際にどのように活かさせるか学ぶ場を提供したいと考えています。
					平野 裕子	総合病院（血液内科・循環器内科）での臨床経験を活かし，机上の知識と実践との統合を図れるように支援していく。また，看護過程の展開では，思考過程と実践課程のつながりを実感として学べる機会としたい。基礎看護学実習は，各看護学の土台となる実習であり，自己の学習課題を明確にするとともに，看護に対する考えを深め，今後の学習意欲の向上に繋げられるように支援していきます。

実務経験のある教員による授業内容

区 分		科 目	時 間	単 位	氏 名	実務経験
専門分野	基礎看護学実習Ⅱ	基礎看護学実習Ⅱ	90	2	越智 知子	総合病院と大学病院での経験での経験と実習指導者との経験を活かし実習し安全・安楽・自立を考えた看護援助ができるようにしていきたいと考えています。
					石井 祐子	総合病院消化器外科病棟（約1年）、内科・小児科クリニック（約1年）での実務経験を生かし、これまでの机上・学内での学習が臨床実習でいかに展開されるのかを具体的に学ばせ、知識・技術と実践を統合させ、看護を発展的に捉えられるよう指導したいと考えています。
					小倉 英里	学生にとって初めての日常生活援助・看護過程の展開を行う実習である。これまでの臨床経験を活かし、机上の学習が臨床でどのように行われているか、具体的に学び体験し、看護の実践が理解できるよう指導していきたいと思います。また、看護学生として初めて患者や医療者と接する実習でもあるため、倫理的態度を養うのと同時に、看護が楽しいと実体験できるよう支援していきたいと思います。
					菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院での5年間の看護師経験の話も交えながら、臨床現場における基礎看護学で学ぶ看護技術・特徴が実際にどのように活かさせるか学ぶ場を提供したいと考えています。
					平野 裕子	総合病院（血液内科・循環器内科）での臨床経験を活かし、机上の知識と実践との統合を図れるように支援していく。また、看護過程の展開では、思考過程と実践課程のつながりを実感として学べる機会としたい。基礎看護学実習は、各看護学の土台となる実習であり、自己の学習課題を明確にするとともに、看護に対する考えを深め、今後の学習意欲の向上に繋げられるように支援していきます。
	地域・在宅看護論	地域・在宅看護概論Ⅰ	15	1	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を基に、在宅看護の現場での体験談を交えながらわかりやすく在宅現場がイメージできるように教授します。
		地域・在宅看護概論Ⅱ	15	1	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を基に、在宅看護の現場での体験談を交えながらわかりやすく在宅現場がイメージできるように教授します。
		地域と生活	15	1	小倉 英里	大学病院、総合病院、クリニックでの実務経験を活かし、病院から地域に戻る患者と患者を支える家族に必要な患者教育や退院支援について理解できるよう、臨床の体験を交えながら講義したいと考えます。
		看護の方法Ⅰ	30	1	小倉 英里	大学病院、総合病院、クリニックでの実務経験を活かし、病院から地域に戻る患者と患者を支える家族に必要な患者教育や退院支援について理解できるよう、臨床の体験を交えながら講義したいと考えます。
		看護の方法Ⅱ	15	1	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を基に、在宅看護の現場での体験談を交えながらわかりやすく在宅現場がイメージできるように教授します。
		看護の方法Ⅲ	30	1	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を基に、地域・在宅の現場がイメージできるようにしながら、地域・在宅看護論における看護過程の展開を看護の特徴を踏まえて教授します。
					小倉 英里	大学病院、総合病院、クリニックでの実務経験を活かし、病院から地域に戻る患者と患者を支える家族に必要な患者教育や退院支援について理解できるよう、臨床の体験を交えながら講義したいと考えます。
		地域・在宅看護論実習	90	2	木根 久江	地域の在宅訪問診療クリニックでの経験を活かし、在宅看護論の講義内容と結びつけながら、保健・福祉サービスを含め対象者が地域での日常生活を維持・継続できるための看護の役割が理解できるよう指導します。
					小倉 英里	大学病院、総合病院、クリニックでの実務経験を活かし、病院から地域に戻る患者と患者を支える家族に必要な患者教育や退院支援について講義内容と結び付けて理解できるよう支援します。
	成人看護学	成人看護学概論	30	1	上川 直子	総合病院での臨床経験を活かし、ライフサイクルにおける成人期の対象の特徴、健康問題、現代社会の問題と課題、看護をわかりやすく教授していきます
					宮崎 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の消化器内科病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における成人看護学実習慢性期看護で学ぶ看護の特徴や特有の技術が実際にどのように活かせるかを意識した講義を提供したいと考えています。
		看護の方法Ⅰ	30	1	上川 直子	総合病院での臨床経験を活かし、ライフサイクルにおける成人期の対象の特徴、健康問題、現代社会の問題と課題、看護をわかりやすく教授していきます
					宮崎 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の消化器内科病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における成人看護学実習慢性期看護で学ぶ看護の特徴や特有の技術が実際にどのように活かせるかを意識した講義を提供したいと考えています。
					越智 知子	総合病院と大学病院での経験から複数患者を受け持った時の看護の動きや患者対応など実習を通して学べるようにしていきたいと考えています。
		看護の方法Ⅱ	30	1	越智 知子	総合病院と大学病院での経験から複数患者を受け持った時の看護の動きや患者対応など実習を通して学べるようにしていきたいと考えています。
		看護の方法Ⅲ	30	1	宮崎 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の消化器内科病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における成人看護学実習慢性期看護で学ぶ看護の特徴や特有の技術が実際にどのように活かせるかを意識した講義を提供したいと考えています。
					中山 華絵	総合病院の外科病棟（10年）、内科病棟（5か月）での臨床経験を活かし、慢性期にある患者の看護の実践を理解できるよう講義していきます。
		看護の方法Ⅳ	15	1	上川 直子	総合病院（一般病棟や集中治療室、外来等）での臨床で実践経験を活かし、終末期における患者・家族の援助を理解し、学生自身の自己の死生観を深められるよう教授していきます

実務経験のある教員による授業内容

区 分		科 目	時 間	単 位	氏 名	実務経験
		看護の方法Ⅴ	30	1	宮崎 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の消化器内科病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場における看護過程の展開についてイメージしやすいように思考を養うことができるような講義を提供したいと考えています。
					越智 知子	総合病院と大学病院での経験から複数患者を受け持った時の看護の動きや患者対応など実習を通して学べるようにしていきたいと考えています。
					上川 直子	総合病院での臨床経験を活かし、ライフサイクルにおける成人期の対象の特徴、健康問題、現代社会の問題と課題、看護をわかりやすく教授していきます
	老年看護学	老年看護学概論Ⅰ	15	1	渡邊 厚子	高齢者が多い地域の総合病院における病棟・外来での16年の実務を活かし、老年看護学で学ぶ高齢者の疾病の特徴や看護技術が実際にどのように看護の場で活かさせるか学べるようにしたい。
		老年看護学概論Ⅱ	15	1	浦川 寿美子	看護師，助産師として大学病院，市民病院，総合病院などでの臨床経験がある。その経験を活かし、高齢化社会における制度の理解などを含め、老年看護、看護師の役割について講義を行います。
		看護の方法Ⅰ	30	1	渡邊 厚子	高齢者が多い地域の総合病院における病棟・外来での16年の実務を活かし、老年看護学で学ぶ高齢者の疾病の特徴や看護技術が実際にどのように看護の場で活かさせるか学べるようにしたい。
		看護の方法Ⅱ	30	1	渡邊 厚子	高齢者が多い地域の総合病院における病棟・外来での17年の実務を活かし、老年看護学で学ぶ高齢者の疾病の特徴や看護技術が実際にどのように看護の場で活かさせるか学べるようにしたい。
	小児看護学	小児看護学概論Ⅰ	30	1	石井 祐子	総合病院小児ＩＣＵ（約５年），内科・小児科クリニック（約１年）での小児看護の実践経験，及び平成１７年から看護専門学校，看護大学で小児看護学を自領域として看護教育に携わってきた経験を生かし，臨床での実例に加え，看護基礎教育レベルで必要な小児看護に関する知識を精選し，健康な子どもと病気を持つ小児の理解とその看護について，初学者の学生にもイメージしやすい授業を構築・実践したいと考えています。
		小児看護学概論Ⅱ	15	1		
		看護の方法Ⅰ	30	1	中山 華絵	日本大学板橋病院小児外科・小児科病棟にて7年小児看護の経験がある。その経験を活かし小児の成長発達のためまぐるしさ、誉めて育てることの大切さを理解するよう講義していきます。
		看護の方法Ⅱ	30	1	石井 祐子	総合病院小児ＩＣＵ（約５年），内科・小児科クリニック（約１年）での小児看護の実践経験，及び平成１７年から看護専門学校，看護大学で小児看護学を自領域として看護教育に携わってきた経験を生かし，臨床での実例に加え，看護基礎教育レベルで必要な小児看護に関する知識を精選し，健康な子どもと病気を持つ小児の理解とその看護について，初学者の学生にもイメージしやすい授業を構築・実践したいと考えています。
					中山 華絵	日本大学板橋病院小児外科・小児科病棟にて7年、元気保育園にて1年5か月、実子の子育てを通しての経験を活かし小児看護に必要な知識や技術を理解するよう講義していきます。
	母性看護学	母性看護学概論	30	1	今野 千春	助産師として勤務経験のある教員がその経験を活かし、母性看護の特徴と概要、法律や制度、女性のライフサイクル各期の特徴と看護などについて教授します。
		看護の方法Ⅰ－2	30	1	今野 千春	助産師として勤務経験のある教員がその経験を活かし、周産期にある女性とその胎児・新生児及び家族の看護について教授します。
		看護の方法Ⅱ	30	1	今野 千春	助産師として勤務経験のある教員がその経験を活かし、周産期にある女性とその胎児・新生児及び家族に必要な看護技術と看護過程について教授します。
	精神看護学	精神看護学概論Ⅱ	30	1	赤羽 明子	精神科病院、地域での療養者と家族への看護経験を活かして、精神看護の目的や役割、多職種連携の中で看護師として必要な関連法規や社会保障制度について理解を深められるように説明します。
		看護の方法Ⅰ	30	1	赤羽 明子	精神科病院で8年の臨床経験を活かして、精神科看護の実際について、興味関心を持っていただけるように、体験談や事例を交えてわかりやすく説明します。
		看護の方法Ⅱ	30	1	赤羽 明子	精神科病院で8年の臨床経験を活かして、コミュニケーション技法をはじめ、対象の健康的な側面を捉え、強みをのばす関わりについて看護展開できるように教授します。
	成人看護学実習Ⅰ		135	3	齊藤 美鈴	自治体病院の総合内科病棟で5年、ICU・CCU病棟で6年の臨床経験を活かし、目に見えない対象の変化を捉え看護が提供できるように指導したいと思います。
					武本 亜紀	専門学校，看護大学での授業経験，臨床での経験を基に，看護の視点から対象の健康状態を客観的に把握し必要な情報収集のし方やアセスメントについて理解を深められるように教授します。
					浦川 寿美子	看護師，助産師として大学病院，市民病院，総合病院などでの臨床経験がある。ICU、CCU外科病棟での勤務経験あり。成人急性期の実習指導の経験があり、それらの経験をいかして実習指導を行います。

実務経験のある教員による授業内容

区 分		科 目	時 間	単 位	氏 名	実務経験
	臨地実習	成人看護学実習Ⅱ	135	3	菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の消化器内科病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場においての成人看護学実習慢性期看護で学ぶ看護の特徴や技術が実際にどのように活かせるかを意識して、学ぶ場を提供したいと考えています。
					平野 裕子	総合病院での臨床経験を活かし、成人看護学（慢性期・終末期）で学ぶ看護の特徴が、実際の臨床現場においてどのように活かせるか、分かりやすく伝えていきたいと考えます。
					上川 直子	総合病院での経験を活かし、臨床現場において成人看護学実習慢性期看護の特徴を講義で学んだことを活かしながらわかりやすく実践できるよう教授していきます
					浦川 寿美子	看護師、助産師として大学病院、市民病院、総合病院などでの臨床経験がある。その経験を活かした慢性期における成人看護学実習を行います。
		老年看護学実習	180	4	渡邊 厚子	高齢者が多い地域の総合病院における病棟・外来での16年の実務を活かし、老年看護学で学ぶ高齢者の疾病の特徴や看護技術が実際にどのように看護の場で活かせるか学べるようにしたい。
					中山 華絵	老年期の対象が多い総合病院での外科・内科病棟にて11年の臨床経験があるため、高齢者の特徴や看護、対応の方法について見学させ、共に実施し、理解を深められるように関わっていききたいと考えています。
		小児看護学実習	90	2	石井 祐子	総合病院小児ＩＣＵ病棟、内科・小児科クリニック勤務の経験を生かし、学生がスムーズに母子と関係性構築ができ、看護実践できるよう橋渡し・サポート役を担いつつ、小児看護の実際を学ばせたいと考えています。
		母性看護学実習	90	2	今野 千春	助産師として勤務経験のある教員がその経験を活かし、臨地実習指導者と相談・調整しながら、妊娠・分娩・産褥期及び新生児期と家族の看護を実践できるように教授します。
		精神看護学実習	90	2	赤羽 明子	精神科病院での実習指導・管理者経験を活かし、治療の環境や法に基づく看護、対象との関係性構築やコミュニケーションを実際の看護にどのように活かすのか、学生の考えを引き出しながら、ロールモデルとして指導にあたりたいと思います。
	看護の統合と実践	国際看護	15	1	浦川 寿美子	看護師、助産師として大学病院、市民病院、総合病院などでの臨床経験があり。ICU,CCU外科病棟での勤務経験あり。医療事故防止の実際について経験を踏まえながら授業を行っていきます。
		医療安全	15	1		
		ケース・スタディ	30	1	大橋 初枝	国立病院（手術室・脳外科）、市立病院（循環器外科・消化器内科）で取り組んだ研究経験、教員経験から、研究方法を学ぶことで問題発見や問題分析、論理的思考などの能力を身につけていけるよう教授します。また、研究方法を学ぶことで身につく様々な力が看護実践にどのように生かされるかを、ケースレポートをまとめながら実感できるように支援していきます。
					小倉 英里	これまでの臨床で行った、看護研究論文の経験を活かし、研究的態度を養い、論理的に思考し表現することができるよう、看護理論をわかりやすく説明し、実習での経験を看護としてどうであったか、考える場となり、看護観へつなげられるよう指導したいと思います。
					石井 祐子	これまでの自身の研究活動や論文執筆の経験を生かし、学生が研究的態度・問題解決思考を持って、看護活動を行えるような素地作りをしたい。また、自己の考えをまとめ、文章化する能力の低い学生も多いため、論理的思考や文章構成スキルも併せて養いたいと考えています。
					菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の看護師経験や大学院において研究活動について学んできたことを交えながら、実際に看護における研究がどのように活かせるか学ぶ場を提供したいと考えています。
					平野 裕子	これまでの研究経験を活かし、自己の実践を理論を用いて振り返り、研究的態度や問題解決思考の育成に努めていきたい。また、文章構成力を養う機会にもしていきます。
		統合実習	90	2	越智 知子	総合病院と大学病院での経験から複数患者を受け持った時の看護の動きや患者対応など実習を通して学べるようにしていきたいと考えています。
					石井 祐子	総合病院小児ＩＣＵ病棟（約５年）、内科・小児科クリニック（約１年）での勤務経験を生かし、小児病棟の特徴や小児看護の役割・機能について、十分に理解したうえで統合実習に臨めるよう事前説明し準備態勢を整える他、個々の学生の学習状況に合わせた実習中指導を行う。また、病棟スタッフ、小児と家族と連携し、学生が円滑・効果的に実習が進行できるようサポートしたいと考えています。
					小倉 英里	大学病院、総合病院での実務経験や、管理職の経験を活かし看護管理の実際やチームナーシングについて、机上の学習と臨床がつながり理解できるよう、わかりやすく指導していききたいと思います。また、これまでと違った実習形式となることや、多重課題から、大きなストレスや臨床への不安を感じやすいため、精神的フォローについても留意して行いたいと思います。
					菅原 紀子	日本大学医学部附属板橋病院科の５年間の病棟での看護師経験の話も交えながら、臨床現場においての成人看護学実習慢性期看護で学ぶ看護技術・特徴が実際にどのように活かせるか学ぶ場を提供したいと考えています。
					平野 裕子	総合病院（血液内科・循環器内科）での経験を活かし、チームの連携とは何か、複数受け持ちにおける優先順位の考え方を体験から学ぶ機会とする。更に、夜間実習を通し看護を24時間継続したものとして捉え、看護業務の多面性にも気付かせられるよう支援していく。管理実習では、既習の看護管理の講義を想起させながら実習していけるよう働きかけます。